

平成19年度  
東海地震についての  
県民意識調査

静岡県防災局防災情報室



# 東海地震についての県民意識調査

## 目 次

### 調査の概要と調査結果の要約

<b>1 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 - 1 調査目的 .....	1
1 - 2 調査内容 .....	1
1 - 3 調査実施概要 .....	2
1 - 4 標本構成 .....	3
1 - 5 集計・分析におけるパターン分類の説明 .....	4
1 - 6 摘要と標本誤差 .....	5
<b>2 調査結果の要約</b> .....	<b>6</b>
2 - 1 東海地震について .....	6
2 - 2 日ごろの防災対策について .....	6
2 - 3 住宅の耐震補強について .....	6
2 - 4 自主防災組織・防災訓練について .....	8
2 - 5 東海地震が突然発生したときの行動について .....	8
2 - 6 警戒宣言が発せられたときの行動について .....	9
2 - 7 地震に関する情報について .....	9
2 - 8 緊急地震速報について .....	10

### 東海地震についての県民意識調査結果

<b>1 東海地震について</b> .....	<b>12</b>
1 - 1 東海地震への関心度 .....	12
1 - 2 2～3年前に比べての関心度 .....	15
1 - 3 東海地震発生メカニズムの認知と情報の入手先 .....	18
1 - 4 東海地震による家屋の被害程度 .....	22
1 - 5 東海地震発生時の津波の速さの認知 .....	25
1 - 6 東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法 .....	28
<b>2 日ごろの防災対策について</b> .....	<b>31</b>
2 - 1 食料の備蓄日数 .....	31
2 - 2 飲料水の備蓄 .....	36
2 - 3 家具類の固定 .....	41
2 - 4 ブロック塀・門柱などの安全対策 .....	43
2 - 5 東海地震に備えての防災対策 .....	44

<b>3</b>	<b>住宅の耐震補強について</b>	<b>50</b>
3 - 1	家屋の構造と耐震診断	50
3 - 2	プロジェクト“TOUKAI-0”の認知	53
3 - 3	耐震化に対する行政への要望	57
<b>4</b>	<b>自主防災組織・防災訓練について</b>	<b>61</b>
4 - 1	町内会への加入	61
4 - 2	自主防災組織への加入と活動状況	62
4 - 3	自主防災組織の活性化のための方策	66
4 - 4	地震防災訓練への参加状況	68
4 - 5	指定避難地の認知	73
4 - 6	避難所で避難生活を送る場合の心配ごと	75
<b>5</b>	<b>東海地震が突然発生したときの行動について</b>	<b>76</b>
5 - 1	突然地震が発生したときの行動	76
5 - 2	地震発生後の防災活動への参加	78
5 - 3	突然地震が発生したときの自分自身の安全性	80
5 - 4	突然地震が発生したときの避難行動	83
<b>6</b>	<b>警戒宣言が発せられたときの行動について</b>	<b>85</b>
6 - 1	警戒宣言発令時の行動	85
6 - 2	避難該当地域であるかの認識	87
6 - 3	自宅で警戒宣言が発せられた場合の避難	88
<b>7</b>	<b>地震に関する情報について</b>	<b>91</b>
7 - 1	情報体系の認知	91
7 - 2	東海地震予知の可能性	94
7 - 3	注意情報発表時の行動	96
7 - 4	注意情報発表時の行政への要望	97
7 - 5	地震防災情報の入手	99
<b>8</b>	<b>緊急地震速報について</b>	<b>102</b>
8 - 1	緊急地震速報についての認知	102
8 - 2	緊急地震速報入手時の行動	107
	<b>付．調査票（単純集計入り）</b>	<b>109</b>

---

## 調査の概要と調査結果の要約

---



---

---

# 1 調査の概要

---

---

## 1 - 1 調査目的 .....

静岡県民の東海地震に対する防災対策の実施状況や東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時の対応・行動等を調査し、その意識の実態や経年的な変化等を把握することにより、地震防災に係る施策を検討するうえでの基礎資料を得る。

## 1 - 2 調査内容 .....

本調査の質問内容の概要は、以下のとおりである。詳細については巻末の「付 調査票」を参照。

- 1 東海地震について
- 2 日ごろの防災対策について
- 3 住宅の耐震補強について
- 4 自主防災組織・防災訓練について
- 5 東海地震が突然発生したときの行動について
- 6 警戒宣言が発せられたときの行動について
- 7 地震に関する情報について
- 8 緊急地震速報について

本調査は、以下の要領で実施した。

- (1) 母集団 県内に居住する満 20～69 歳の男女（抽出時点）  
 (2) 標本数 2,000 サンプル  
 (3) 標本抽出 住民基本台帳より無作為 2 段抽出（平成 19 年 6 月 1 日現在）  
 (4) 調査地域 賀茂地域 … 下田市、東伊豆町、西伊豆町  
 (3 市町)  
 東部地域 … 沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、  
 (13 市町) 御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、  
 長泉町  
 中部地域 … 静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、富士川町  
 (8 市町) 岡部町、吉田町  
 西部地域 … 浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、  
 (8 市町) 菊川市、森町

以上 32 市町

- (5) 調査期間 平成 19 年 6 月 16 日～6 月 30 日  
 (6) 調査方法 郵送調査法  
 (7) 回収状況

地 域	標本数	回収数	回収率(%)
賀茂地域	88	58	65.9
東部地域	605	331	54.7
中部地域	635	379	59.7
西部地域	672	410	61.0
無 回 答	-	9	-
合 計	2,000	1,187	59.4

但し、上記回収数は集計対象数。

- (8) 調査機関 (株)サーベイリサーチセンター 静岡事務所

(単位：人)

《性別》

	標本数(人)	男性	女性	無回答
賀茂	58	25	32	1
東部	331	149	179	3
中部	379	181	188	10
西部	410	191	211	8
無回答	9	1	6	2
全体	1,187	547	616	24

(単位：人)

《年代》

	標本数(人)	20 ～ 29歳	30 ～ 39歳	40 ～ 49歳	50 ～ 59歳	60歳以上	無回答
賀茂	58	4	9	8	18	18	1
東部	331	21	65	62	92	87	4
中部	379	30	69	83	112	76	9
西部	410	31	66	76	133	96	8
無回答	9	0	0	0	4	4	1
全体	1,187	86	209	229	359	281	23

(単位：人)

《職業》

	標本数(人)	正社員として勤務 (会社社員、公務員、 医療関係を含む)	正社員以外として勤 務(パート、フリー ターを含む)	自営業	農林漁業経営者	学生	無職	その他	無回答
賀茂	58	14	13	11	0	2	17	0	1
東部	331	121	72	33	7	8	85	0	5
中部	379	147	67	54	1	3	97	1	9
西部	410	150	83	47	9	4	108	0	9
無回答	9	0	0	2	0	0	5	0	2
全体	1,187	432	235	147	17	17	312	1	26

(単位：人)

《居住年数》

	標本数(人)	1年未満	1 ～ 10年未満	10年以上	無回答
賀茂	58	1	10	47	0
東部	331	13	93	224	1
中部	379	14	108	257	0
西部	410	16	121	273	0
無回答	9	1	1	5	2
全体	1,187	45	333	806	3

## 1 - 5 集計・分析におけるパターン分類の説明

「防災準備度」については、日ごろの防災対策の準備度に関連する質問を設定し、それぞれに得点を与えてスケール化し、パターン分類を行った。

パターン分類は、以下の通りである。

1	食料の備蓄日数 問7	1 1日分 } ..... 1点 2 2日分 } 3 3日分 } 4 4日分 } 5 5日分 } ..... 2点 6 6日分 } 7 7日以上 } 8 用意していない ..... 0点
2	飲料水の備蓄日数 問8	1 1日分 } ..... 1点 2 2日分 } 3 3日分 } 4 4日分 } ..... 2点 5 5日以上 } 6 備蓄していない ..... 0点
3	家具類の固定 問9	1 大部分固定している ..... 2点 2 一部固定している ..... 1点 3 固定していない ..... 0点
4	東海地震に対する防災対策 問11	1~14の記入合計が 1~3個 ... 1点 4~7個 ... 2点 8~12個 ... 3点 13~14個 ... 4点 1~14の記入がない場合 } ..... 0点 15 特に備えていない }
5	耐震診断の実施 問12-3	1 ある ..... 1点 2 検討中 } ..... 0点 3 ない }
6	自主防災組織への加入 問16	1 入っている ..... 1点 2 入っていない } 3 自主防災組織はない } ..... 0点 4 わからない }
7	地震防災訓練への参加 問18	1~3 参加した(1~3) ..... 各1点(計3点) 4 機会がなかった(訓練はなかった) } ..... 0点 5 参加しなかった }
合 計		15点

上表の質問について、それぞれの回答の得点を加算し、防災準備度を次のように「高」「中」「低」に分類した。

- 得点合計が「11～15点」の者・・・防災準備度「高」  
 「6～10点」の者・・・防災準備度「中」  
 「0～5点」の者・・・防災準備度「低」

- (1) 図中の「N」は、回答総数 (Number) を示し、「M . A .」は、複数回答可 (Multi Answer) を示す。
- (2) すべての集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答比率 (%) は、その設問の回答者数を基数 (N) として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100%を超える。
- (4) 標本誤差 (サンプル誤差) はおおよそ下表のとおりである。

回答比率	基 数	標本誤差	信頼範囲
10% (90%)	1,187	± 1.7	8.3 ~ 11.7 (88.3 ~ 91.7)
20% (80%)	1,187	± 2.3	17.7 ~ 22.3 (77.7 ~ 82.3)
30% (70%)	1,187	± 2.7	27.3 ~ 32.7 (67.3 ~ 72.7)
40% (60%)	1,187	± 2.8	37.2 ~ 42.8 (57.2 ~ 62.8)
50%	1,187	± 2.9	47.1 ~ 52.9

この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答者が 1,187 人であり、その設問中の選択肢の回答率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±2.8 である。」

- (5) 図中のグラフについては、回答比率により 5%未満については表示していない箇所もある。
- (6) 選択肢において、「その他」の具体的記述欄に同じ内容の回答が多数あった場合は、グラフ中で新たな回答項目として整理し、比較している。

## 2 調査結果の要約

### 2 - 1 東海地震について .....

東海地震についての関心度については、「非常に関心がある」(43.2%)と「多少関心がある」(52.1%)を合わせた95.3%が関心を示している。「非常に関心がある」は、平成17年度調査(以下「前回」と表記する)より6.0ポイント下回っている。

2～3年前に比べての関心度の変化については、「2～3年前よりも関心を持つようになった」(35.7%)が、前回より20.3ポイント下回っている。また、「変わらない」(53.6%)が前回より15.1ポイント上回っている。

東海地震発生メカニズムについては、「よく知っている」(7.1%)と「ある程度知っている」(60.2%)を合わせた67.3%がメカニズムを認知している。女性(59.4%)より男性(76.2%)の認知率が高くなっている。

東海地震発生メカニズムに関する知識の入手経路については、「テレビ・ラジオ」(83.7%)が8割以上を占め、次いで、「新聞」(54.6%)、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」(30.7%)の順となっている。性・年代別でみると、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」と「自主防災組織」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。

東海地震による家屋の被害程度については、「家の一部が壊れる」(43.6%)と「家のほとんどが壊れる」(24.7%)を合わせた68.3%が何らかの被害があると予想している。

東海地震発生時の津波の速さの認知については、「5分以内」(41.9%)と「10分以内」(30.6%)を合わせた72.5%が津波の速さは10分以内であることを認知している。予想される到達時間は、駿河湾や遠州灘の沿岸では地震発生直後～5分程度であるが、地震メカニズム認知別でみると、『知っている』ほど「5分以内」が高くなる傾向が見られる。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法については、「テレビによる報道」(73.3%)が7割以上を占めている。

### 2 - 2 日ごろの防災対策について .....

食料の備蓄については、「3日分」以上用意している家庭が32.3%で、平均備蓄日数は1.8日となっている。「3日分」以上の備蓄率を経年比較すると、ここ数年では増加傾向にある。また、防災訓練参加状況別でみると、訓練に参加した人の方が備蓄率は高くなっている。

食料を備蓄していない人の食料確保の手段については、「考えていない」(32.6%)、「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」(26.7%)の割合が高くなっている。

飲料水の備蓄については、「3日分」以上用意している家庭が25.6%で、平均備蓄日数は1.6日となっている。「3日分」以上の備蓄率を経年比較すると前回より5.8ポイント下回っている。また、防災訓練参加状況別でみると、食料と同様に、訓練に参加した人の方が備蓄率は高くなっている。

飲料水を備蓄していない人の飲料水確保の手段については、「考えていない」(31.0%)、

「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」(28.1%)の割合が高くなっている。

家具類の固定については、「大部分固定している」(10.0%)と「一部固定している」(52.7%)を合わせた62.7%が固定を実施している。固定実施率を経年比較すると年々高くなる傾向が見られる。

家具を固定していない理由については、「手間がかかるから」(19.9%)、「固定をしても被害は出ると思うから」(18.9%)、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」(17.8%)と固定しない理由は分散している。

ブロック塀や門柱などの安全対策の実施状況については、「点検した」が14.7%で、点検結果は「安全」が63.2%となっている。

ブロック塀や門柱を所有しながらも点検していない理由については、「点検方法が分からないから」(26.8%)、「点検しなくても大丈夫だと思うから」(24.9%)が主な理由としてあげられている。

東海地震に備えての防災対策については、「非常持出品を用意している」(50.1%)が最も高く、次いで「消火器などを用意している」(47.3%)、「警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている」(32.7%)、「ガスを使わないときにはガス栓を閉めている」(30.1%)の順となっている。

用意している非常持出品の品目については、「懐中電灯」(91.9%)が最も高く、次いで「携帯ラジオ」(71.9%)、「非常食」(69.1%)、「飲料水」(67.9%)の順となっており、平均準備品目数は9.5品となっている。

## 2 - 3 住宅の耐震補強について . . . . .

回答者の68.0%を占める「木造住宅」(うち「昭和56年5月以前の建築」37.4%)の家屋の耐震診断の実施率は、12.8%となっており、前回より5.0ポイント下回っている。木造住宅建築時期別でみると、「昭和56年5月以前」に建築された木造住宅に住んでいる人では、19.5%が耐震診断を実施している。

耐震診断の結果については、「補強が必要」(62.1%)、「補強は不要」(36.9%)となっている。「補強が必要」という結果だった人について、補強の実施の有無については、「した」(29.7%)と「検討中」(29.7%)を合わせた59.4%が補強に積極的である。

補強を行わない理由については、「費用がかかるから」(80.8%)が8割を超えている。

プロジェクト“TOUKAI-0”の認知については、「内容までよく知っている」(5.3%)と、「一部知っている」(34.6%)を合わせた39.9%がある程度内容まで認知している。

認知経路については、「県や市町の広報誌」(54.9%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」(38.2%)、「新聞記事」(36.7%)の順となっている。

知ってからの行動については、「自宅は木造住宅であるが、特に何もしていない」(30.0%)が高くなっている。

耐震化に対する行政への要望については、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(44.4%)が最も高く、次いで「相談窓口の設置」(33.5%)、「専門家の派遣」(27.7%)の順となっている。

町内会への加入については、「入っている」(94.0%)が9割を超えている。居住年数別で見ると、10年以上では96.4%、1年未満では82.2%となっており、居住年数が長いほど加入意識率は高くなっている。

自主防災組織への加入については、「入っている」(70.9%)が約7割となっている。活動状況は、「まあまあ活動している」(56.9%)と「活発である」(14.1%)を合わせた71.0%が活動を認めている。加入率を近所づきあいの程度で見ると、親密になるほど加入意識率が高くなっている。

自主防災組織の活性化のための方策については、「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」(62.5%)が6割を占めている。

過去1年間における何らかの地震防災訓練への参加については、訓練参加率は60.5%である。性別で見ると、女性(57.6%)より男性(63.1%)の参加率が高くなっている。職業別にみると、学生(47.0%)の参加率が他に比べて低くなっている。東海地震の関心度で見ると、関心が高いほど参加率が高くなっている。

地震防災訓練に参加しなかった理由については、「仕事や用事があったから」(58.3%)が最も高く、次いで「訓練実施を知らなかったから」(13.0%)、「毎回同じ訓練内容だから」(8.6%)、「面倒だったから」(5.8%)の順となっている。性・年代別で見ると、「仕事や用事があったから」が男性30代(75.8%)、男性40代(75.0%)で特に高くなっている。

指定避難地の認知については、「どこが避難地であるか知っている」(72.0%)が7割を超えているが、居住年数別で見ると、居住年数が短いほど低くなっている。

避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについては、心配あり(「非常に心配」と「ある程度心配」の数字を合わせた項目)と答えた上位5項目では、「トイレの問題」(89.6%)と「自分や家族が病気になったときの医療問題」(89.6%)が最も高く、次いで「離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる」(86.2%)、「食料や水の問題」(85.9%)、「洗濯や入浴の問題」(83.5%)の順となっており、いずれも8割以上となっている。

突然地震が発生したときの行動については、まず最初にすることは「テレビやラジオで正確な情報を得る」(35.2%)と「家の中の整理や火の始末をする」(30.1%)の2つの行動が主となっている。

突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は77ページを参照。

地震発生後の防災活動への参加については、「わからない」(47.4%)が最も高く、次いで「参加する」(44.7%)となっている。参加率を近所づきあいの程度で見ると、親密になるほど参加率が高くなっている。

突然地震が発生したときの自分自身の安全性については、「軽いけがぐらいはするかもしれない」(46.0%)が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」(24.1%)、「大けがをする危険があ

ると思う」(15.6%)、「まず無事だと思う」(12.0%)の順となっている。

突然地震が発生したときの避難行動については、「市町が指定した避難地」(52.8%)が最も高く過半数を占めており、次いで「避難しない」(23.6%)、「自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所」(19.0%)の順となっている。避難該当地域であるかの認識別でみると、避難する必要がない地域(37.2%)では「避難しない」と回答した割合が他に比べると高くなっている。

## 2 - 6 警戒宣言が発せられたときの行動について . . . . .

警戒宣言が発せられたときの行動については、まず最初にするのは「テレビやラジオで正確な情報を得る」(51.1%)が最も高く過半数を占めており、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(16.7%)となっている。

次にすることについては、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(57.9%)が最も高く6割弱となっており、次いで「家族と電話で連絡をとる」(43.3%)、「家の中の整理や火の始末をする」(41.4%)の順となっている。

突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は77ページを参照。

避難該当地域であるかの認識については、「わからない」(45.1%)が約半数となっている。防災訓練参加状況別でみると、何らかの訓練に参加した人に比べ、参加しなかった又は機会がなかった(訓練はなかった)と答えた人の方が避難該当地域であるか認識していない傾向が見られる。

自宅で警戒宣言が発せられた場合の避難については、「市町で指定した避難地」(54.6%)が最も高く、次いで「自宅にいる」(32.9%)となっている。避難該当地域であるかの認知状況別でみると、避難が必要な地域では「市町で指定した避難地」(77.8%)が8割弱となっており、避難する必要のない地域では「自宅にいる」(58.3%)が6割弱となっている。

避難するときの交通手段については、「徒歩」(83.2%)が8割を超えている。また、避難時に「自家用車」を使用すると答えた人は5.9%で、自家用車で避難する理由については、「子供や高齢者がいるから」(42.2%)が最も高く、次いで「避難地が遠いから」(22.2%)、「荷物も運びたいから」(17.8%)の順となっている。

避難地における生活については、「体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う」(64.8%)が6割を超えている。

市町で指定した避難地へ避難しない理由については、「避難地自体が安全だと思わないから」(16.0%)、「避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから」(11.9%)、「高齢者や病人がいるから」(8.3%)、「市町が指定した避難地より安全だと思うから」(8.3%)、「避難地ではプライバシーが守れないから」(6.7%)、「避難地が遠すぎるから」(6.5%)となっており、理由は分散している。

## 2 - 7 地震に関する情報について . . . . .

情報体系の認知については、「情報名は知っているが内容までは知らない」(53.7%)が最も高く過半数を占めており、次いで「全く知らなかった」(32.2%)、「名前も内容も知らないが、改

正があったことは知っている」(6.3%)、「情報の詳しい内容まで知っている」(5.5%)の順となっている。東海地震への関心度別でみると、関心が高いほど情報体系の認知度も高くなっている。

**東海地震の予知の可能性**については、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」(56.9%)が6割弱を占め、予知への期待はあまり高くない。経年比較でみると、平成13年12月の調査以降、「8割以上の確率で予知できると思う」、「5割くらいの確率で予知できると思う」の割合が低下傾向にあり、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」の割合が上昇傾向にある。

**東海地震注意情報発表時の行動**については、まず最初にすることは「テレビやラジオで正確な情報を得る」(60.2%)が6割を超えている。

次にすることについては、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(62.0%)が最も高く6割を超えており、次いで「飲料水の用意や風呂に水をためる」(42.5%)、「家族と電話で連絡をとる」(40.9%)、「家の中の整理や火の始末をする」(39.7%)の順となっている。

突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は77ページを参照。

**東海地震注意情報発表時の行政への要望**については、「緊急物資(食料・飲料水・医薬品等)を準備してほしい」(51.5%)が最も高く過半数を占めており、次いで「情報発表後に予想される社会的混乱(交通・通信・物価等)を防止してほしい」(43.4%)、「地震発生までの県民のとるべき行動の広報及び指導をしてほしい」(37.6%)の順となっている。

**地震防災に関する情報の入手**について19項目を「はい」「いいえ」で聞いたところ、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」(75.0%)、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」(70.3%)、「自主防災」新聞を見たことがある」(68.5%)、「災害用伝言ダイヤル「171」を知っている」(62.3%)が6割以上と高いが、半数以上の人を知っていると回答したものは、全19項目中6項目だった。各項目を経年比較でみると、認知率の上昇幅が大きいのが「災害用伝言ダイヤル「171」を知っている」(62.3%)であった。また、認知数でみると、平均は7.4ポイントとなっている。職業別でみると、学生が6.1ポイントであり、他の職業と比べて低くなっている。

## 2 - 8

### 緊急地震速報について .....

**緊急地震速報の認知**については、「名前も内容も知らなかった」(40.7%)が4割と最も高く、「名前は知っていたが内容は知らなかった」(29.1%)、「名前も内容も知っていた」(15.8%)、「名前は知らなかったが内容は知っていた」(11.6%)の順となっている。東海地震への関心度別でみると、関心が高いほど緊急地震速報についての認知度も上昇している。

また、情報体系の認知別でみると、「名前も内容も知っていた」は、認知度が高くなるにつれて、緊急地震速報についての認知度も高くなっている。特に、情報の詳しい内容まで知っている(55.4%)では、過半数を占めている。

**緊急地震速報の誤差**については、「知っている」(56.3%)が過半数を占めており、「知らない」(30.5%)は、3割程である。防災準備度別でみると、防災準備度「高」(76.9%)と防災準備度「低」(50.4%)では、26.5ポイントの差がみられる。また、東海地震への関心度別にみると、関心が高いほど緊急地震速報についての認知度も上昇している。

**緊急地震速報を受け取った時の行動を考えたことがあるか**については、「考えたことがある」

(67.1%) が7割弱となっており、「考えたことがない」(27.1%) を大きく上回っている。東海地震への関心度では、関心が高いほど、割合が高くなっており、非常に関心がある(76.5%)で8割弱となっている。地震メカニズム別でみると、地震メカニズムの認知度が高いほど、割合が高くなっており、よく知っている(83.7%)とまったく知らない(33.3%)では、50.4ポイントの差が見られる。

**緊急地震速報を入手時の行動**については、「その場で身の安全を図る」(61.4%)が最も高く、次いで「屋外へ避難する」(32.4%)、「何もしない」(0.9%)の順となっている。地域別でみると、「その場で身の安全を図る」がどの地域でも最も高くなっている。



---

## 東海地震についての県民意識調査結果

---

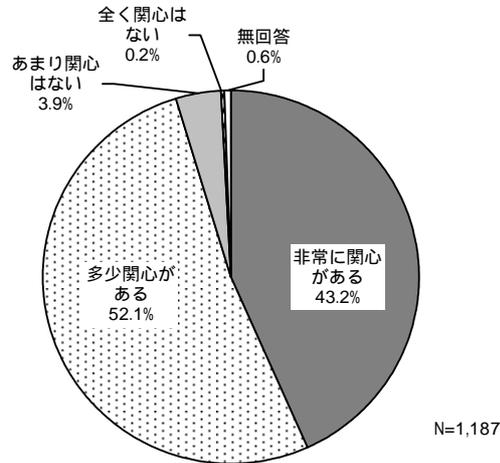


# 1 東海地震について

## 1 - 1

### 東海地震への関心度

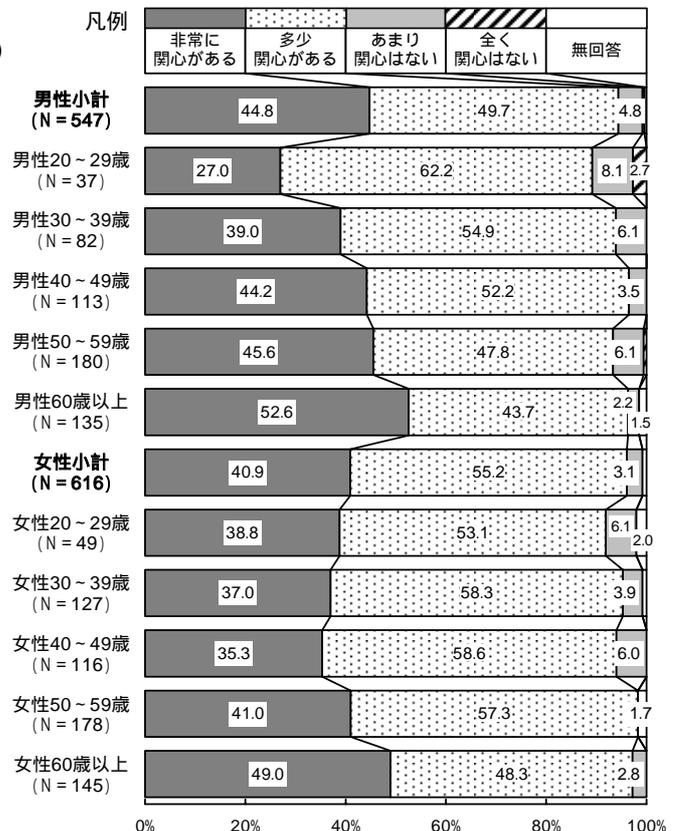
問1 あなたは現在、東海地震にどの程度の関心を持っていますか。



東海地震への関心度についてたずねたところ、「非常に興味がある」（43.2%）と「多少興味がある」（52.1%）を合わせると95.3%と大半を占めている。

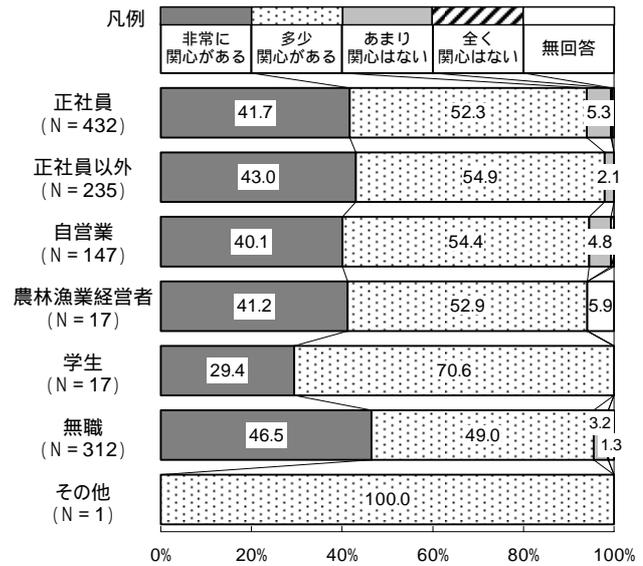
性・年代別でみると、「非常に興味がある」については、男性では、『60歳以上』（52.6%）が特に高く、過半数を超えている。女性においても、『60歳以上』（49.0%）が最も高くなっている。また、男性は「非常に興味がある」は、年代が若いほど低い傾向が見られ、特に『20代』（27.0%）は3割を下回っている。

### 東海地震への関心度 < 性・年代別 >



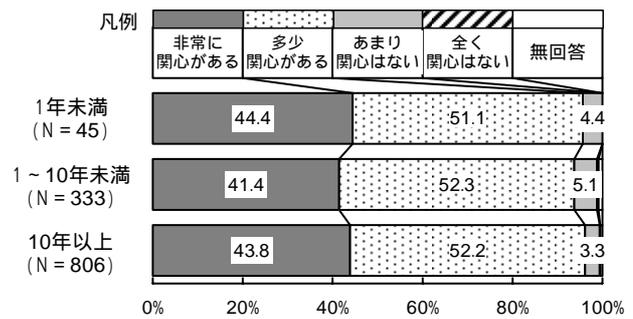
職業別でみると、「非常に関心がある」は、『学生』（29.4%）が他と比較して低くなっている。

### 東海地震への関心度 <職業別>



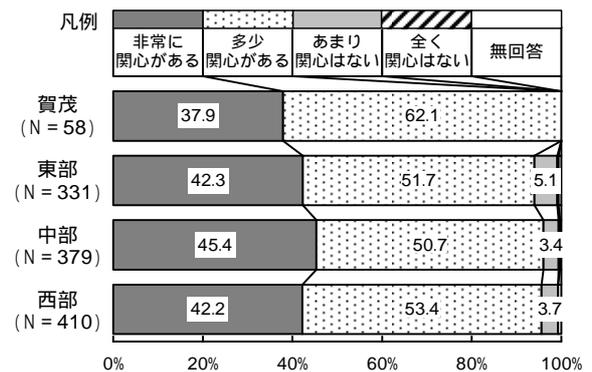
居住年数別でみると、居住年数の長さによる東海地震に対する関心の違いは見られない。

### <居住年数別>



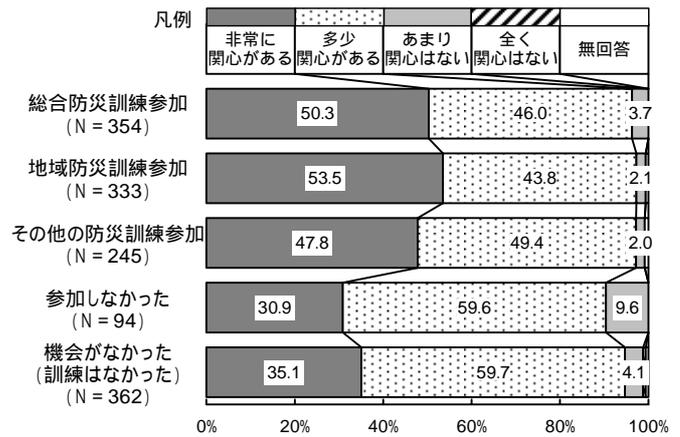
地域別でみると、「非常に関心がある」は、『賀茂』（37.9%）がやや低めである。他の地域（『東部』、『中部』、『西部』）においては、おおむね4割強となっている。

### <地域別>



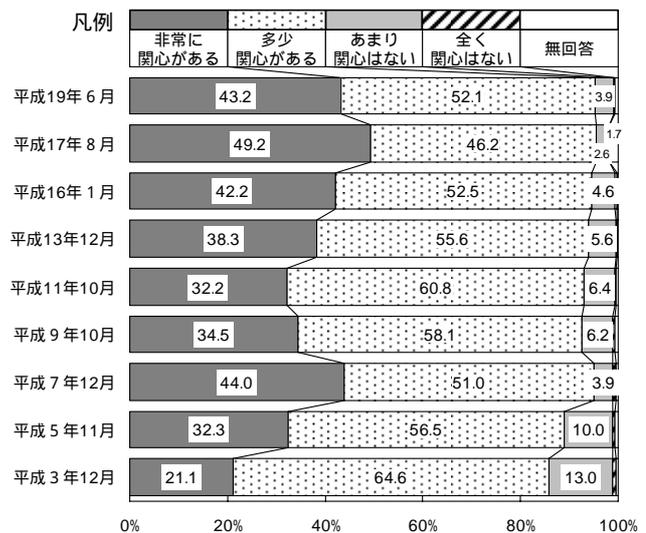
防災訓練参加状況別にみると、「非常に関心がある」は、『総合防災訓練参加』(50.3%)、『地域防災訓練参加』(53.5%)が過半数を超えている。一方、訓練に『参加しなかった』(30.9%)または『機会がなかった(訓練はなかった)』(35.1%)は、3割程度にとどまっている。

### 東海地震への関心度 ＜防災訓練参加状況別＞



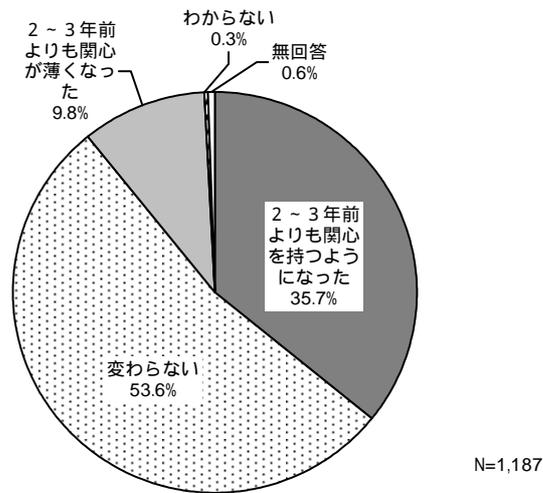
経年比較でみると、「非常に関心がある」は、前回調査(49.2%)に比べると6.0ポイント下回っているが、「多少関心がある」と合わせると、前回の95.4%に対し、今回は95.3%とほぼ同じである。

### ＜経年比較＞



この調査項目は平成3年度調査から設定した。

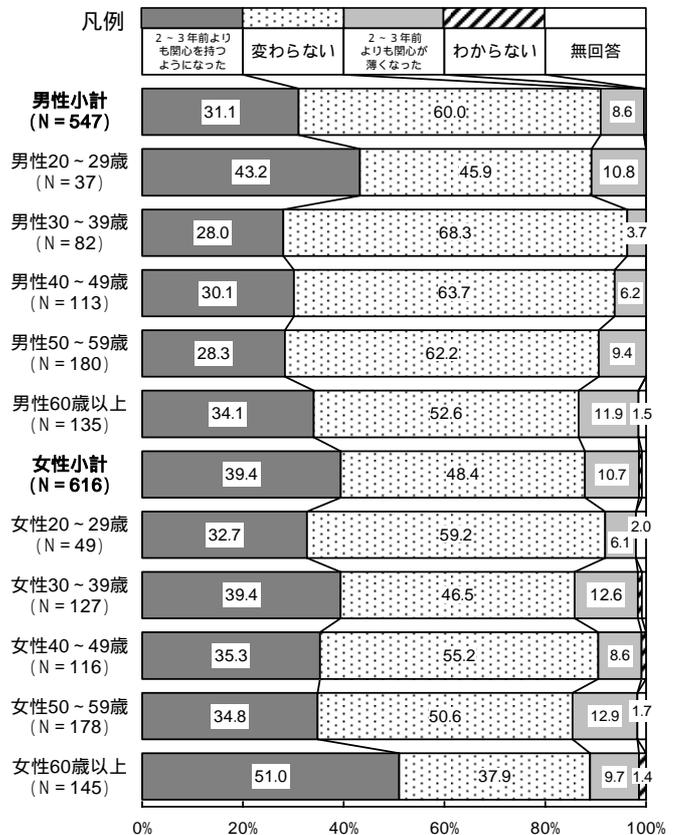
問2 あなたは、東海地震に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。



2～3年前からの関心度の変化についてたずねたところ、「変わらない」(53.6%)が最も高く、過半数を占めている。次いで「2～3年前よりも関心を持つようになった」(35.7%)、「2～3年前よりも関心が薄くなった」(9.8%)、「わからない」(0.3%)の順となっている。

性・年代別で見ると、『女性60歳以上』を除いて、「変わらない」が最も高くなっている。特に、『男性30代』(68.3%)、『男性40代』(63.7%)、『男性50代』(62.2%)が6割を超えている。「2～3年前よりも関心を持つようになった」では、『女性60歳以上』(51.0%)、『男性20代』(43.2%)が他よりも高くなっている。

2～3年前からの関心度の変化 <性・年代別>

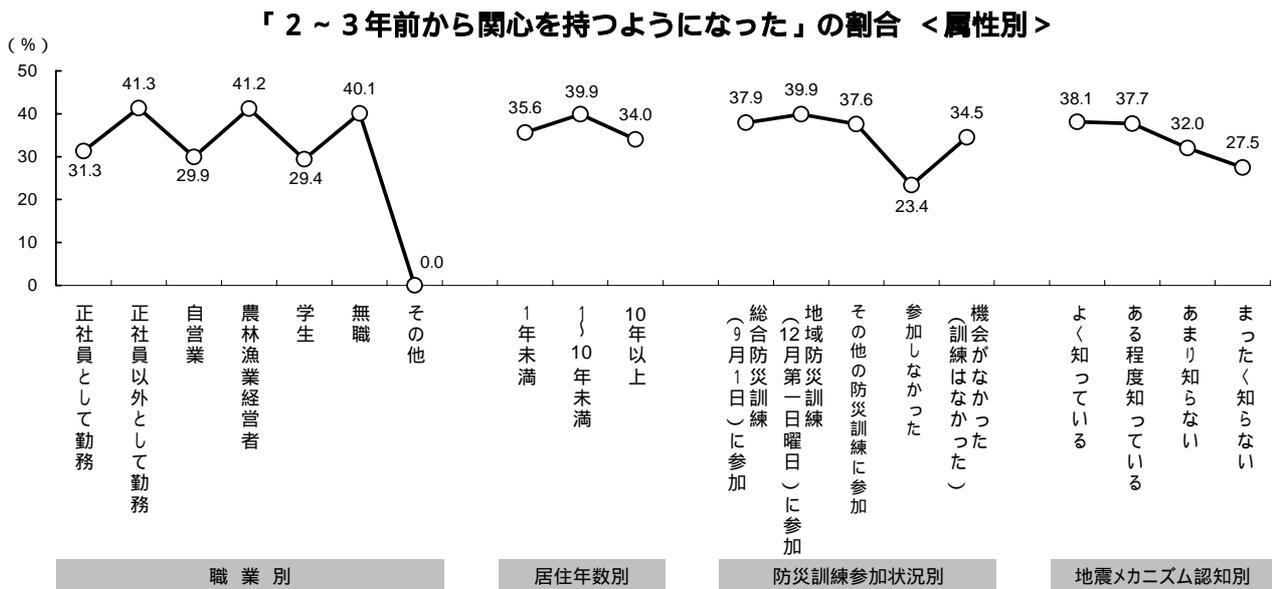


「2～3年前よりも関心を持つようになった」の割合を各属性別でみると、**職業別**では『正社員以外として勤務』（41.3%）、『農林漁業経営者』（41.2%）、『無職』（40.1%）が他と比較すると高くなっている。

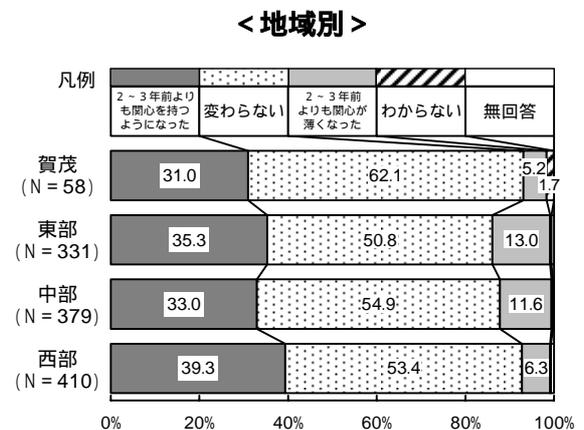
**居住年数別**でみると、居住年数の違いでの違いは見られない。

**防災訓練参加状況別**でみると、『参加しなかった』（23.4%）が他と比較して割合が低くなっている。

**地震メカニズム認知別**でみると、地震発生のメカニズムをよく知っているほど割合が高いという結果となっている。

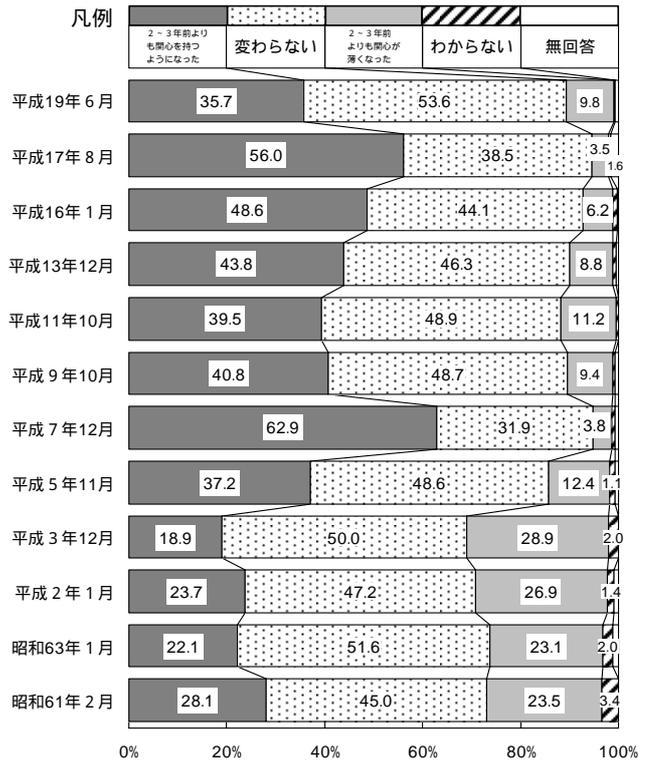


**地域別**でみると、全ての地域で「変わらない」が最も高くなっている。「2～3年前よりも関心が薄くなった」は、最も高い『東部』（13.0%）と最も低い『賀茂』（5.2%）で7.8ポイントの差が見られる。

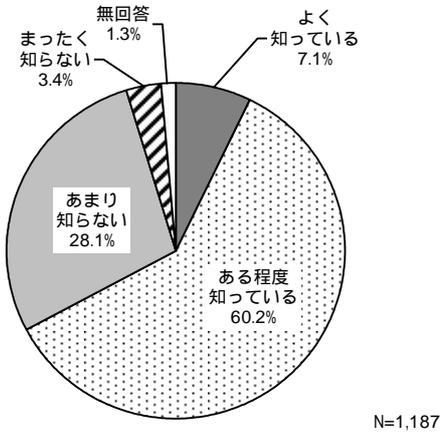


経年比較でみると、阪神・淡路大震災が起きた年の調査（平成7年12月）で「2～3年前よりも関心を持つようになった」（62.9%）が最も高くなっている。平成9年度から平成17年度までの調査においては年々増加傾向であったが、今回の調査（35.7%）では、前回調査（56.0%）より20.3ポイント減少している。また、「変わらない」（53.6%）が前回調査（38.5%）より15.1ポイント増加し、「2～3年前よりも関心が薄くなった」（9.8%）が前回調査（3.5%）より6.3ポイント増加している。

## 2～3年前からの関心度の変化 < 経年比較 >



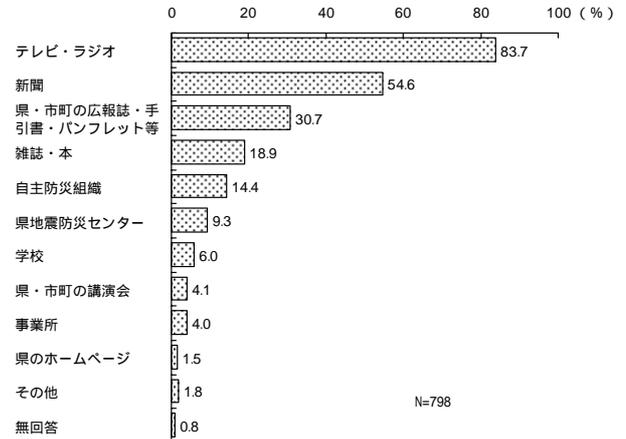
問3 あなたは、東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。



問3-1 <問3で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

その知識はどこから入手しましたか。

(M.A.)

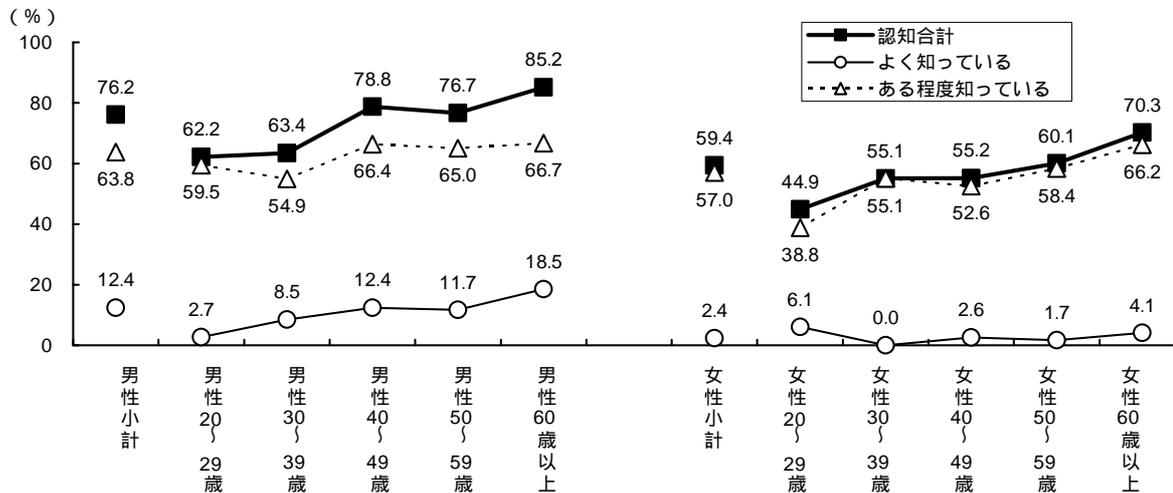


東海地震発生メカニズムの認知についてたずねたところ、「ある程度知っている」（60.2%）が最も高く、過半数を占めている。次いで「あまり知らない」（28.1%）、「よく知っている」（7.1%）、「まったく知らない」（3.4%）の順となっている。

東海地震発生メカニズムの情報の入手については、「テレビ・ラジオ」（83.7%）、「新聞」（54.6%）が過半数となっている。以下、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」（30.7%）、「雑誌・本」（18.9%）、「自主防災組織」（14.4%）の順となっている。

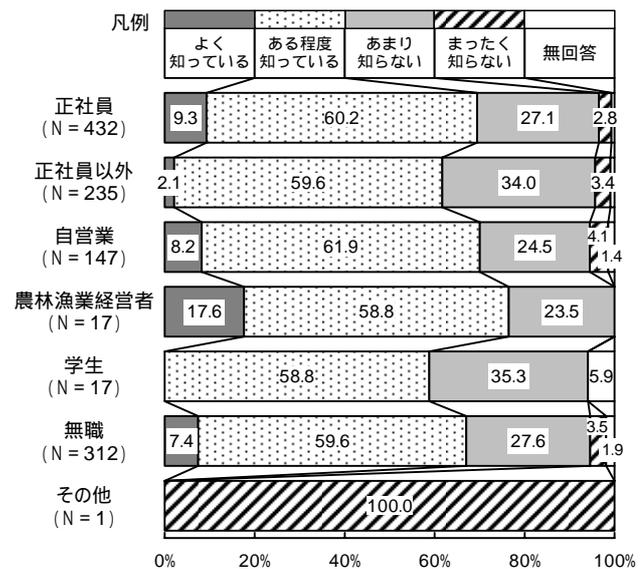
性・年代別でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は、いずれの年代においても男性が女性を上回っている。特に、『男性60歳以上』（85.2%）、『男性40代』（78.8%）、『男性50代』（76.7%）で非常に高くなっている。年代が若いほど「認知合計」は低い傾向が見られ、特に『女性20代』（44.9%）は「認知合計」が最も低くなっている。

東海地震のメカニズムの認知 <性・年代別>



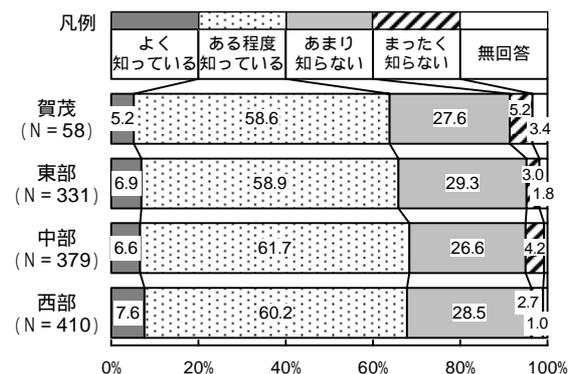
職業別でみると、「よく知っている」は、『農林漁業経営者』（17.6%）が最も高くなっている。「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）においても、『農林漁業経営者』（76.4%）が最も高く、次いで『自営業』（70.1%）、『正社員として勤務』（69.5%）の順となっている。

東海地震のメカニズムの認知 <職業別>



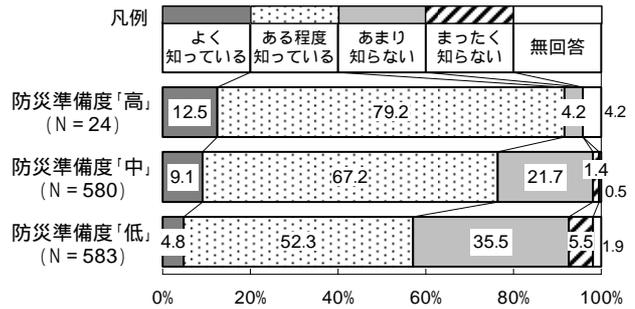
地域別でみると、地域による東海地震のメカニズムの認知に大きな差は見られない。

東海地震のメカニズムの認知 <地域別>



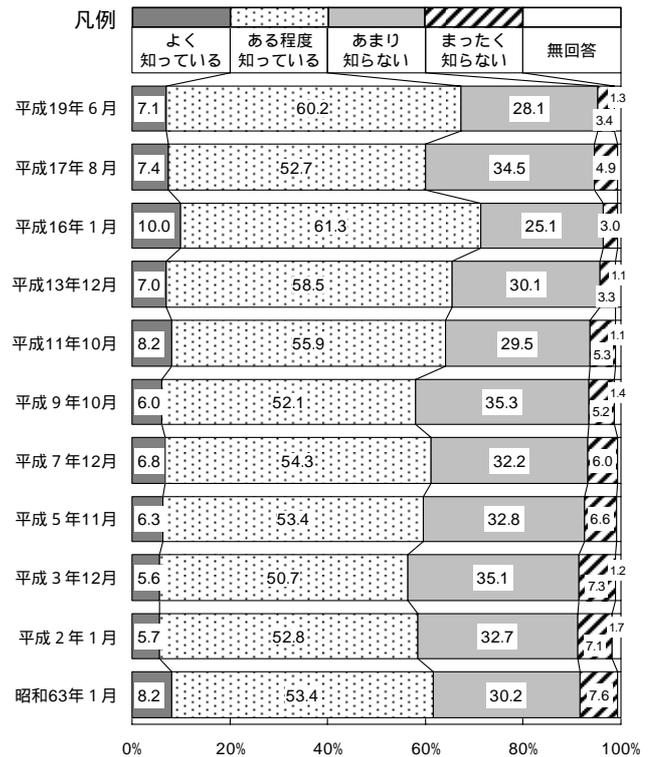
防災準備度別でみると、「認知合計」（「よく知っている」+「ある程度知っている」）は、『防災準備度「高」』（91.7%）が他よりも非常に高くなっている。

### 東海地震のメカニズムの認知 < 防災準備度別 >



経年比較でみると、「認知合計」（「よく知っている」+「ある程度知っている」）は、前回調査(60.1%)では、前々回調査(71.3%)より11.2ポイントの減少となったが、今回の調査(67.3%)では、前回調査より7.2ポイント上回っている。

### 東海地震のメカニズムの認知 < 経年比較 >



この調査項目は昭和62年度調査から設定した。

#### 東海地震発生メカニズムの 認知合計 経年比較

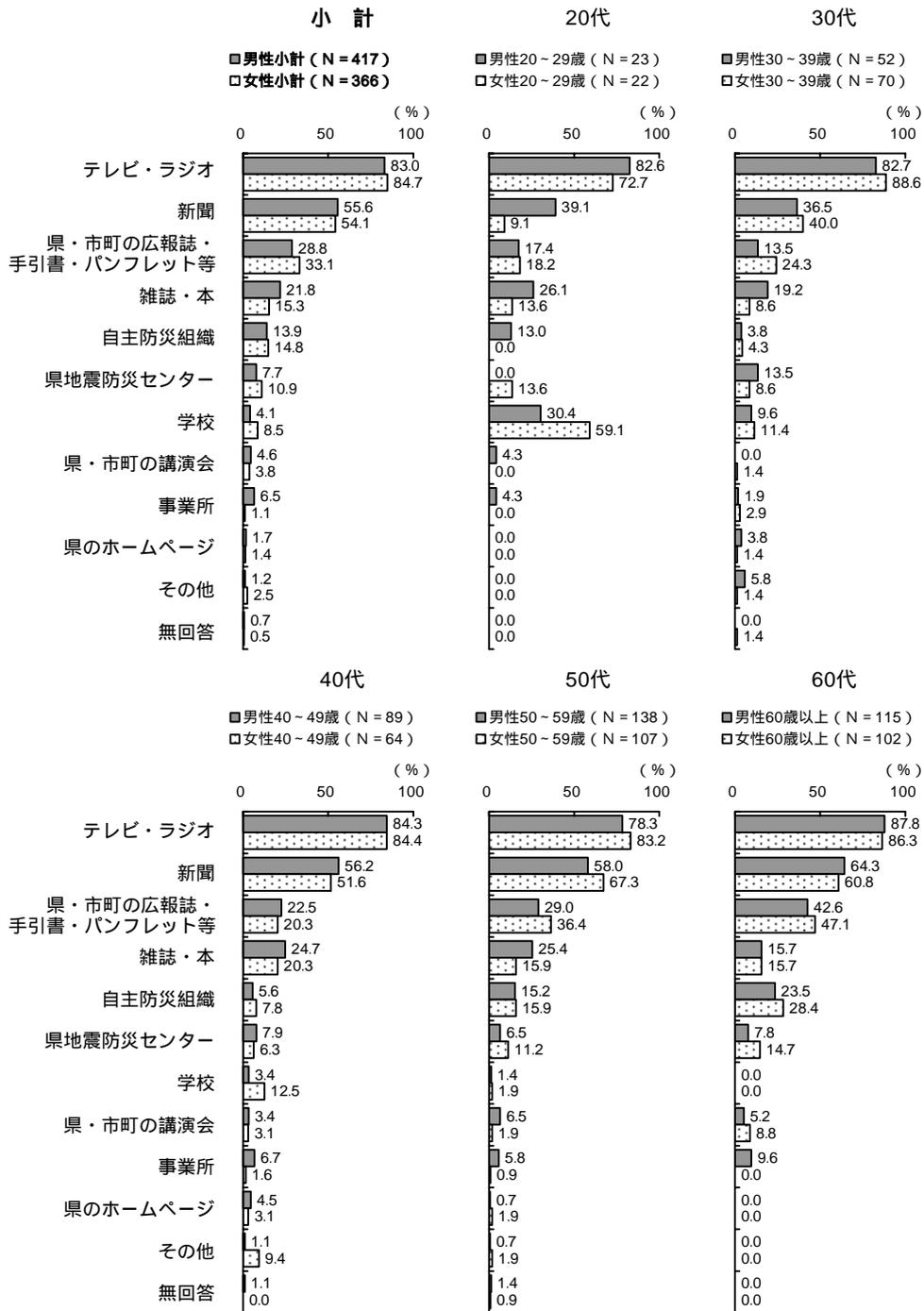
「よく知っている」  
+  
「ある程度知っている」

平成19年6月	67.3%
平成17年8月	60.1%
平成16年1月	71.3%
平成13年12月	65.5%
平成11年10月	64.1%
平成9年10月	58.1%
平成7年12月	61.1%
平成5年11月	59.7%
平成3年12月	56.3%
平成2年1月	58.5%
昭和63年1月	61.6%

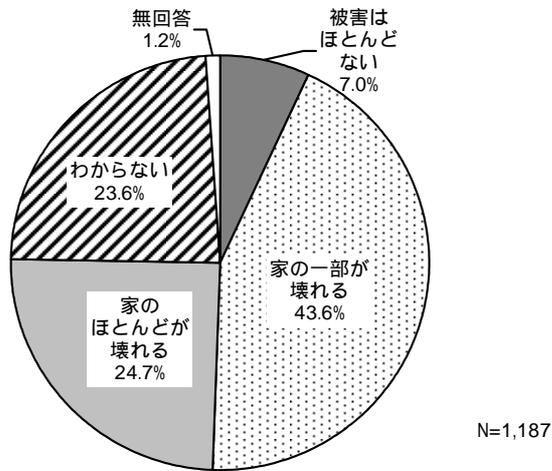
東海地震のメカニズムの情報の入手先について性・年代別でみると、「テレビ・ラジオ」がいずれの性・年代においても高くなっており、最も高いのは『女性30代』（88.6%）となっている。2位の「新聞」は、『40代』以降で過半数となっている。

また、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」と「自主防災組織」は、年代が上がるほど高い傾向が見られる。

## 東海地震のメカニズムの情報の入手先 < 性・年代別 >



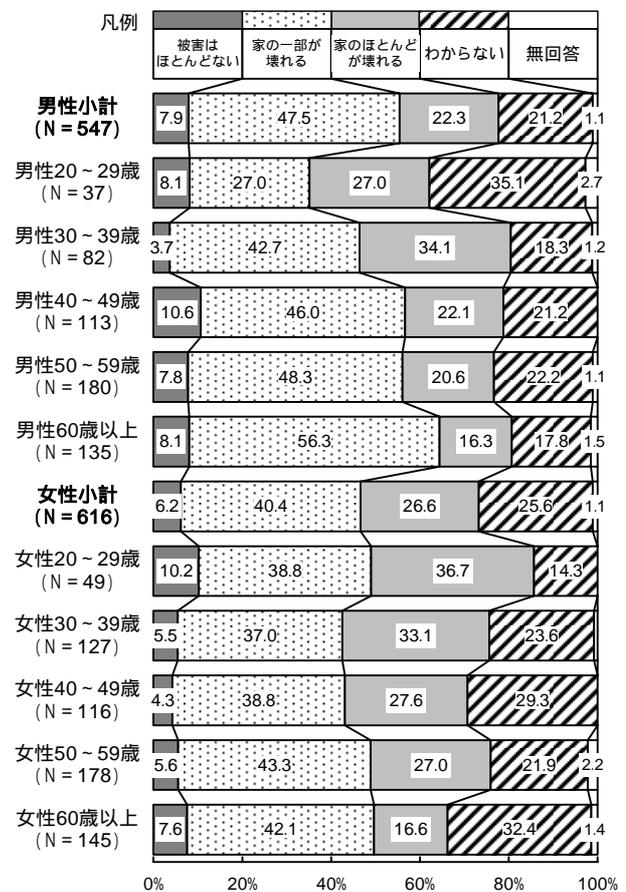
問4 東海地震が起きた場合、あなたのお住まいの家は、どのような被害を受けるとお考えですか。



東海地震による家屋の被害程度についてたずねたところ、「家の一部が壊れる」（43.6%）が最も高くなっており、次いで「家のほとんどが壊れる」（24.7%）、「わからない」（23.6%）、「被害はほとんどない」（7.0%）の順となっている。

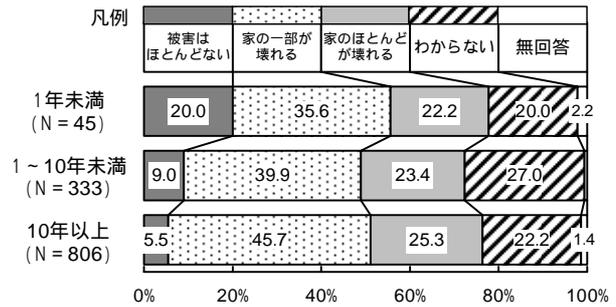
性・年代別でみると、「家の一部が壊れる」は、『男性60歳以上』（56.3%）で過半数を超えている。最も低いのは、『男性20代』（27.0%）で、29.3ポイントの差が見られる。男性は、年代が上がるほど高い傾向が見られるのに対し、女性は全年齢を通じてほぼ4割程度の回答となっている。

東海地震による家屋の被害 <性・年代別>



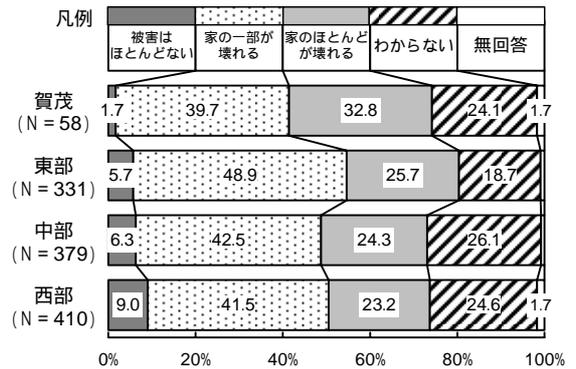
**居住年数別**でみると、居住年数が長くなるほど「被害はほとんどない」の割合が低くなり、「家の一部が壊れる」の割合が高い傾向が見られる。

**東海地震による家屋の被害 <居住年数別>**



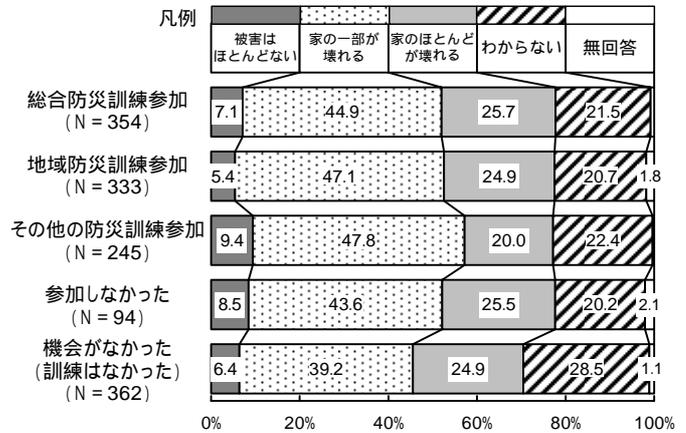
**地域別**でみると、「被害はほとんどない」は、最も高い『西部』(9.0%)と、最も低い『賀茂』(1.7%)では、7.3ポイントの差が見られる。「家の一部が壊れる」+「家のほとんどが壊れる」は、『東部』(74.6%)と『賀茂』(72.5%)が『中部』(66.8%)と『西部』(64.7%)より割合が高くなっている。

**<地域別>**



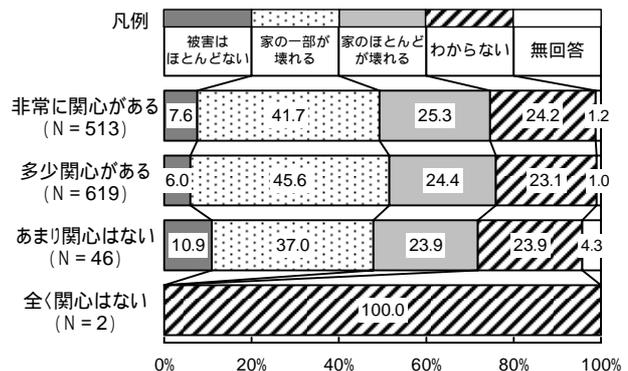
**防災訓練参加状況別**でみると、参加状況によって東海地震における家屋の被害に大きな違いは見られない。

**<防災訓練参加状況別>**



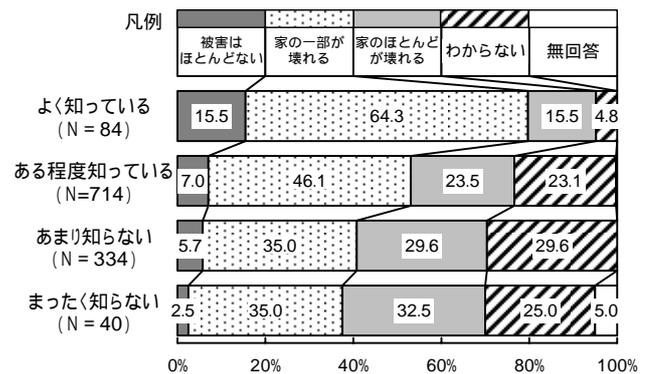
**東海地震への関心度別**でみると、『あまり関心がない』と答えた人は「家の一部が壊れる」+「家のほとんどが壊れる」の割合が他よりも低くなっている。

**<東海地震への関心度別>**



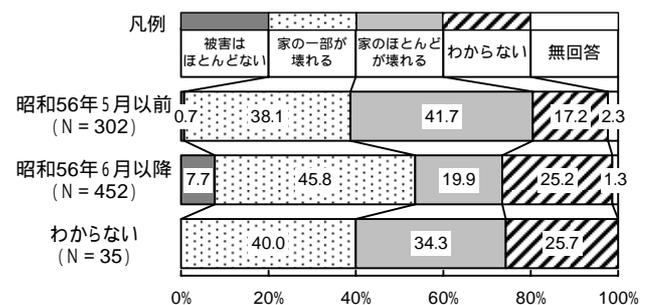
地震メカニズム認知別でみると、「被害はほとんどない」と「家の一部が壊れる」は、よく認知している人ほど割合が高くなっている。また、「わからない」は、『よく知っている人』（4.8%）で、他よりも低くなっている。

### 東海地震による家屋の被害 ＜地震メカニズム認知別＞



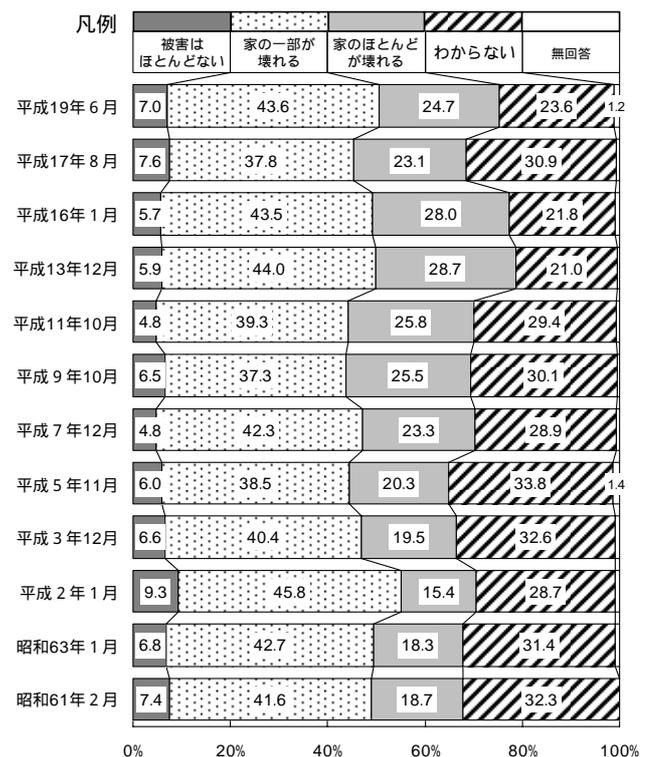
木造住宅建築時期別でみると、「家のほとんどが壊れる」は、『昭和56年5月以前』（41.7%）で、『昭和56年6月以降』（19.9%）の2倍以上となっている。また、「被害はほとんどない」は、『昭和56年6月以降』（7.7%）は、『昭和56年5月以前』（0.7%）より高い割合となっている。

### ＜木造住宅建築時期別＞

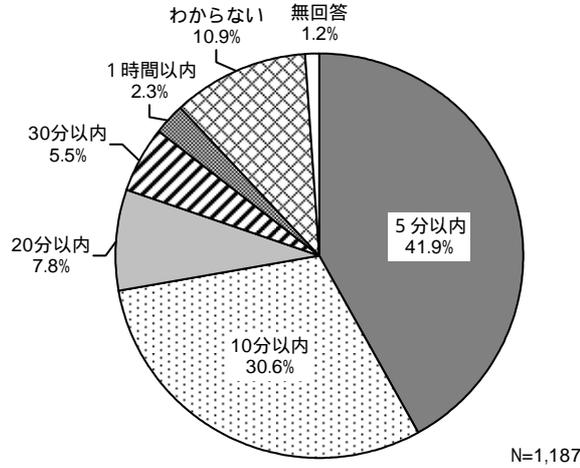


経年比較でみると、今回調査の「家のほとんどが壊れる」+「家の一部が壊れる」（68.3%）は、前回調査（60.9%）よりも7.4ポイント上回っている。また、「わからない」（23.6%）は、前回調査（30.9%）を7.3ポイント下回っている。

### ＜経年比較＞



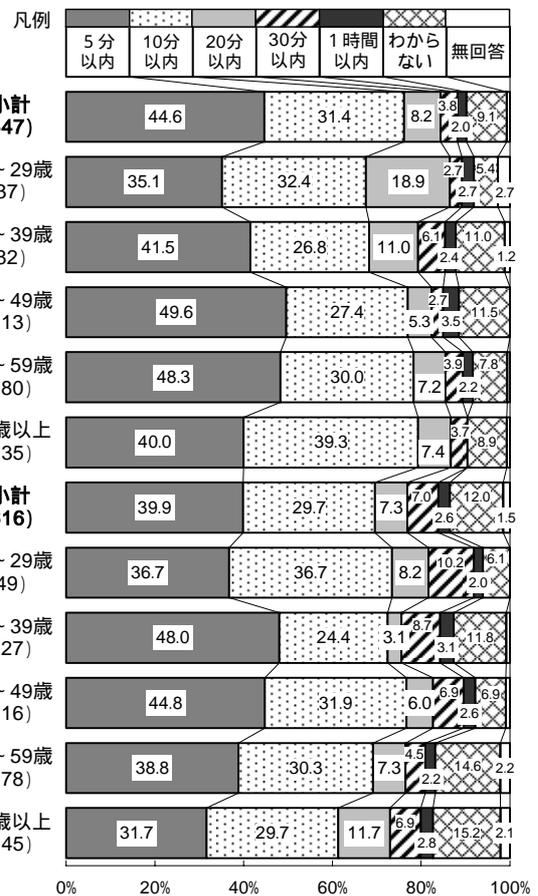
問5 駿河湾内で東海地震が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。



予想される到達時間は、駿河湾や遠州灘の沿岸では地震発生直後～5分程度であるが、東海地震発生時の津波のはやさの認知についてたずねたところ、「5分以内」（41.9%）が最も高く、次いで「10分以内」（30.6%）、「20分以内」（7.8%）の順となっている。

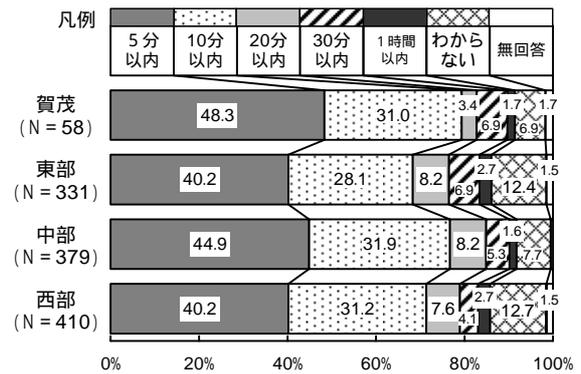
性・年代別でみると、「5分以内」と答えた人の割合が高かったのは、『男性40代』（49.6%）、『男性50代』（48.3%）、『女性30代』（48.0%）、『女性40代』（44.8%）となっている。一方、『女性60歳以上』（31.7%）では、「5分以内」と答えた人が全体で最も低く、次いで『男性20代』（35.1%）、『女性20代』（36.7%）の順となっている。

津波の沿岸到達時間 < 性・年代別 >



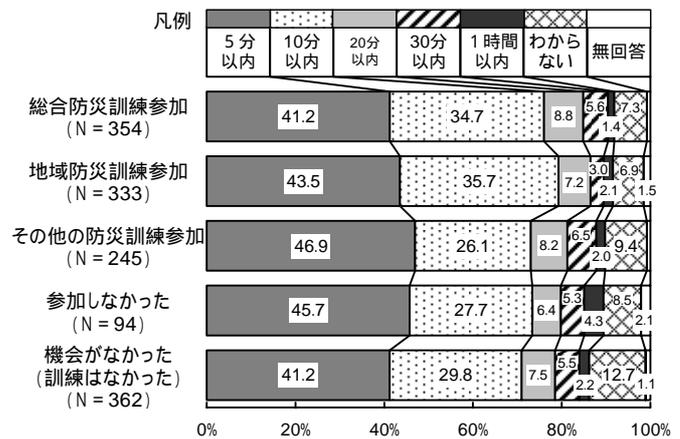
**地域別**でみると、「5分以内」は『賀茂』（48.3%）で最も高くなっている。「5分以内」の割合が低い『東部』と『西部』（40.2%）では、「わからない」の割合が他の地域よりも高くなっている。

**<地域別>**



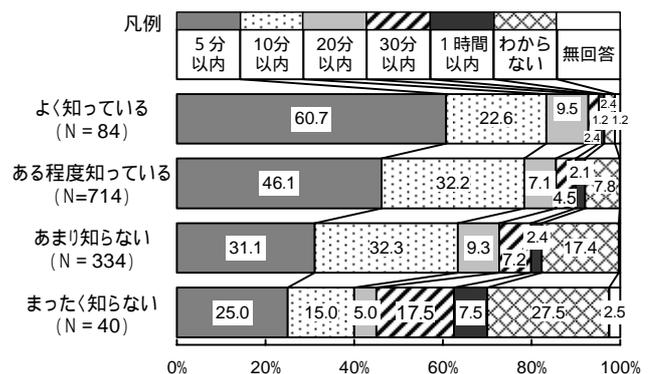
**防災訓練参加状況別**でみると、参加状況によって津波の沿岸到達時間に大きな違いは見られない。

**津波の沿岸到達時間 <防災訓練参加状況別>**



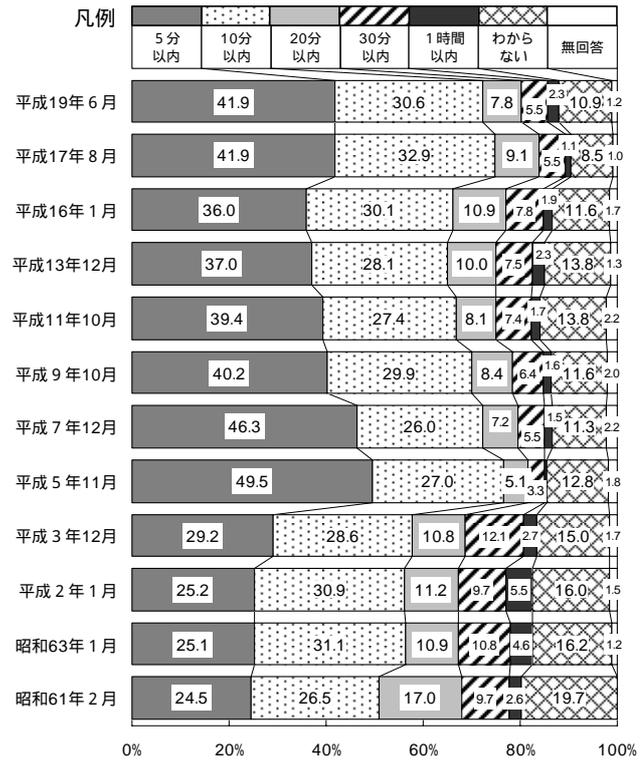
**地震メカニズム認知別**でみると、『知っている』ほど「5分以内」が高くなる傾向が見られる。一方、『まったく知らない』では「わからない」（27.5%）が高い割合となっている。

**<地震メカニズム別>**

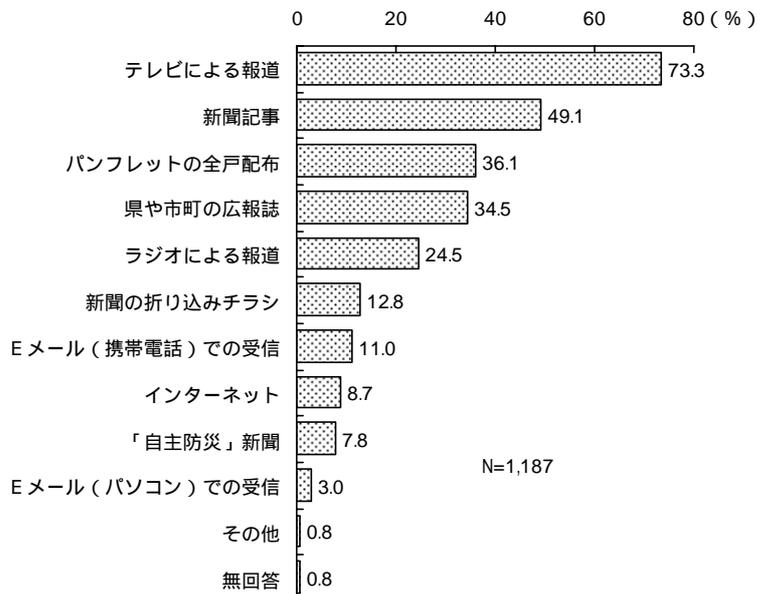


### < 経年比較 >

経年比較でみると、北海道南西沖地震（平成5年7月）が起きた年の調査（平成5年11月）で「5分以内」（49.5%）が最も高くなっており、以降「5分以内」と答えた人の割合は減少傾向にあったが、今回の調査は前回調査と同じ41.9%となっている。



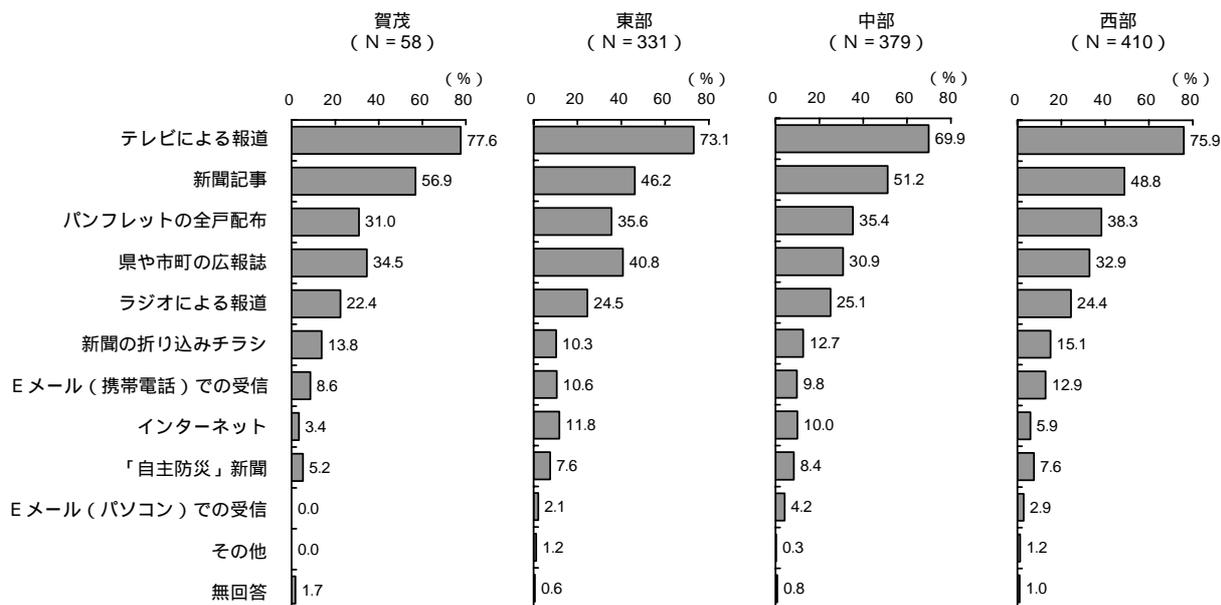
問6 東海地震を中心とした情報を定期的に皆様へ提供する方法について、確実に情報が手に入る方法は次のどれですか。(M.A)



東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法についてたずねたところ、「テレビによる報道」(73.3%)、次いで「新聞記事」(49.1%)、「パンフレットの全戸配布」(36.1%)、「県や市町の広報誌」(34.5%)の順となっている。

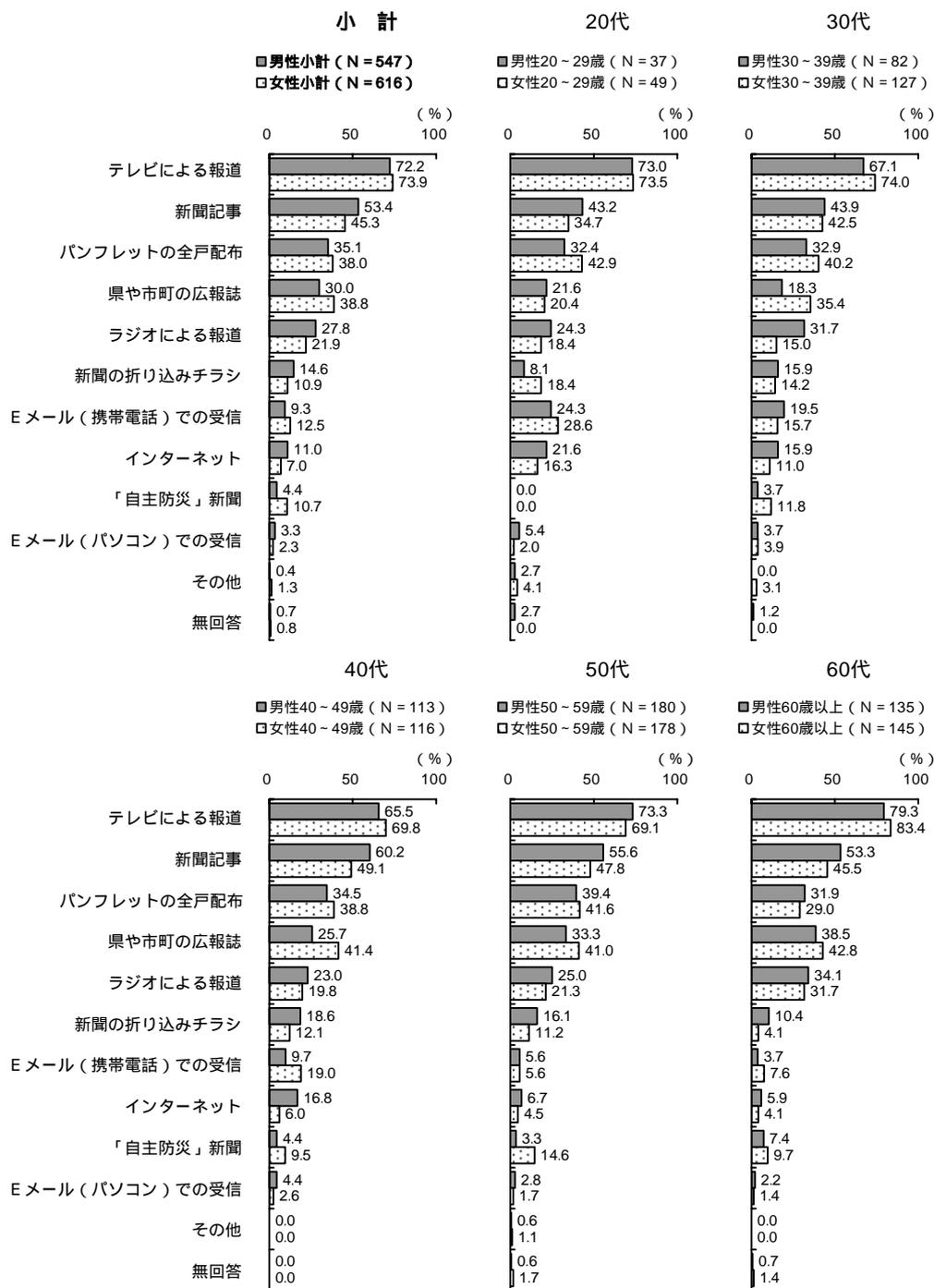
地区別でみると、地区による大きな差は見られない。「県や市町の広報誌」が『東部』(40.8%)でやや高く、『中部』(30.9%)でやや低めとなっている。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法<地域別>



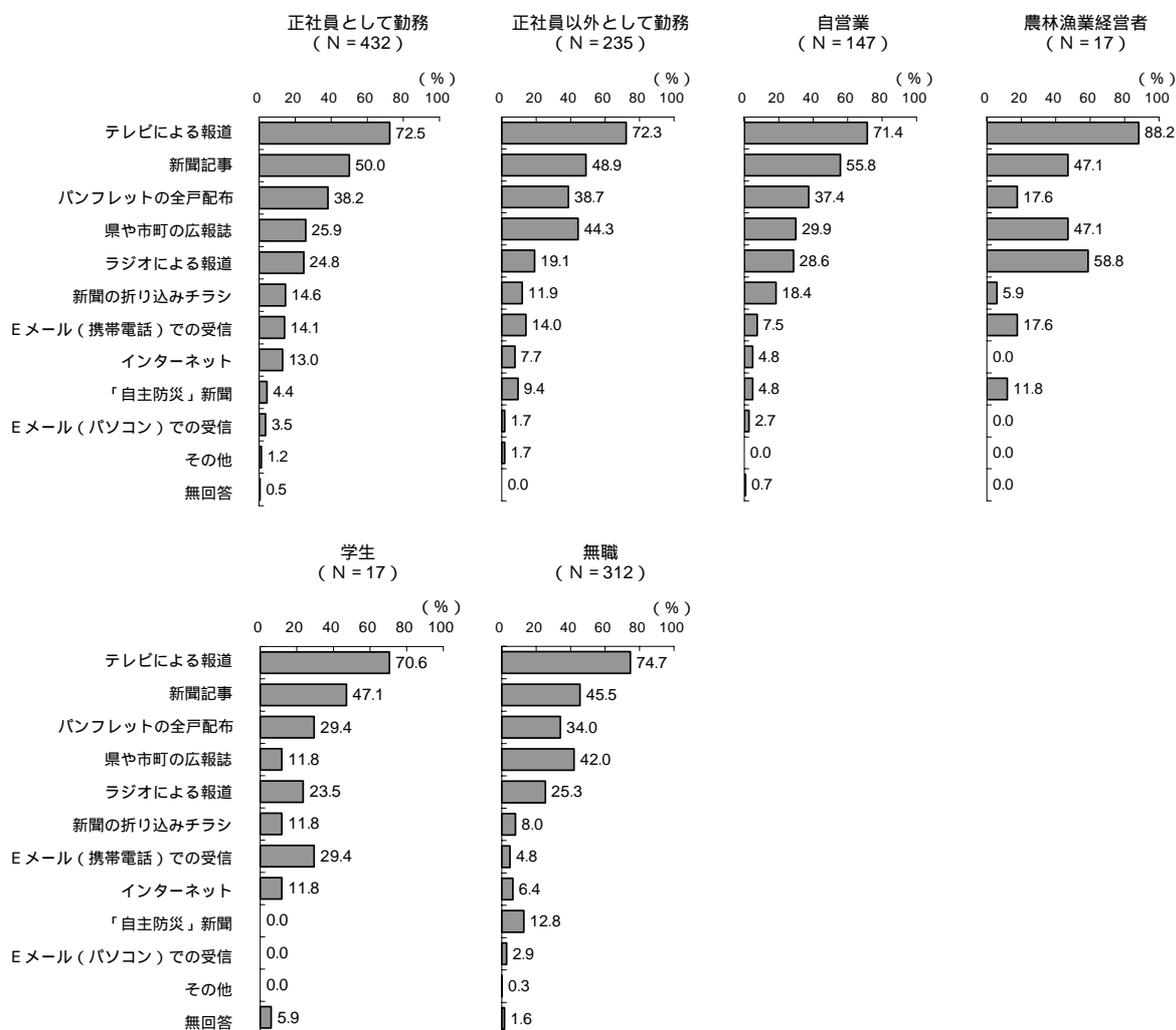
性・年代別でみると、「テレビによる報道」が全年代で最も高くなっている。「新聞記事」は、『男性40代』（60.2%）で最も高く、全年代を通して『男性』が『女性』よりも高い傾向が見られる。「Eメール（携帯電話）での受信」は、年代が若いほど高い傾向が見られる。

### 東海地震を中心とした情報を定期的提供する方法<性・年代別>



職業別でみると、いずれの職業においても「テレビによる報道」が高くなっている。「ラジオによる報道」は、『農林漁業経営者』(58.8%)が他の職業に比べて高くなっている。「Eメール(携帯電話)での受信」は、『学生』(29.4%)がやや高めとなっている。

### 東海地震を中心とした情報を定期的提供する方法<職業別>



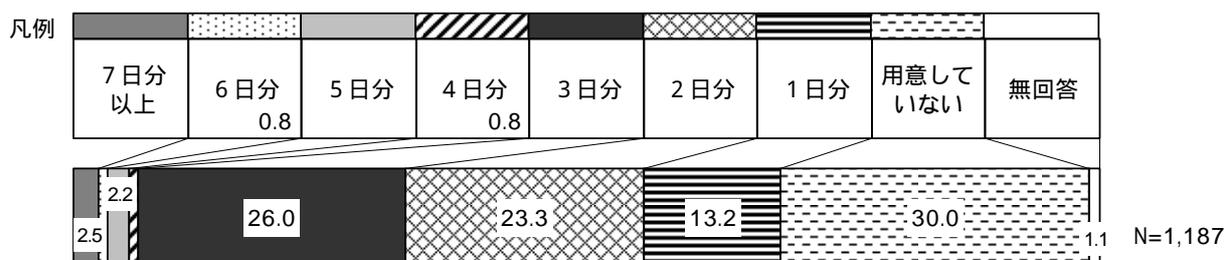


## 2 日ごろの防災対策について

### 2 - 1

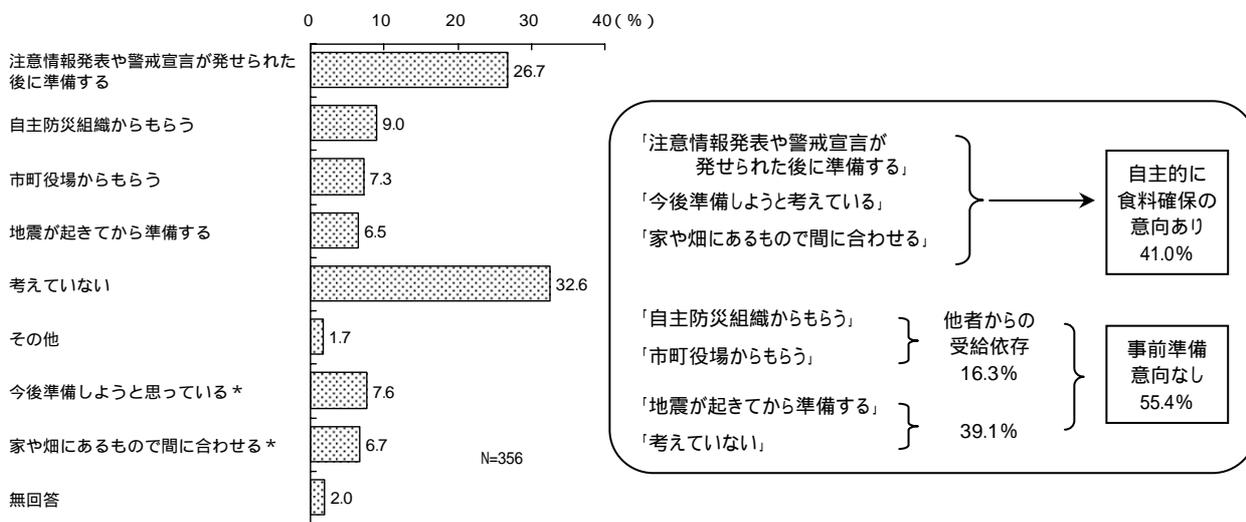
### 食料の備蓄日数

問7 あなたのお宅では、非常持ち出し用を含めて家族の何日分の食料を用意していますか。



**3日分以上の備蓄率 32.3%**  
**平均：1.8日（前回：1.6日）**

問7 - 1 <問7で「8 用意していない」を選んだ方にお伺いします。>  
 食料はどのようにして確保するつもりですか。



\* 「その他」の具体的記入欄に多く挙げられた回答内容

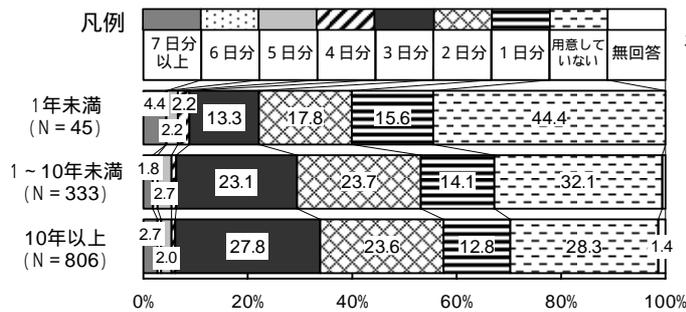
非常持出用食料の備蓄日数についてたずねたところ、「3日以上」用意している家庭は32.3%で、平均備蓄数は1.8日である。

また、問7で「用意していない」と回答した人に、食料確保の手段をたずねたところ、「考えていない」(32.6%)が最も高く、次いで「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」(26.7%)、「自主防災組織からもらう」(9.0%)の順となっている。

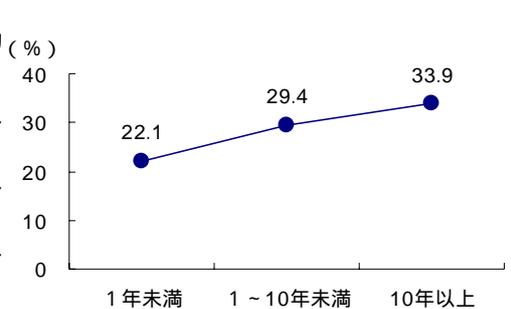
居住年数別でみると、いずれの年数においても、「用意していない」が最も高くなっているが、『1年未満』（44.4%）と『10年以上』（28.3%）では16.1ポイントの差があり、居住年数が長くなるにつれて備蓄日数は長くなっている。

3日以上の備蓄率を居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれて備蓄率も上昇しており、『10年以上』（33.9%）は『1年未満』（22.1%）を11.8ポイント上回っている。

非常持出用食料の備蓄日数 <居住年数別>



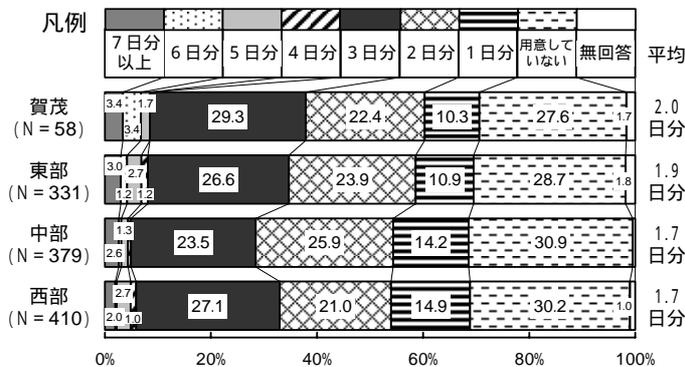
3日以上の備蓄率 <居住年数別>



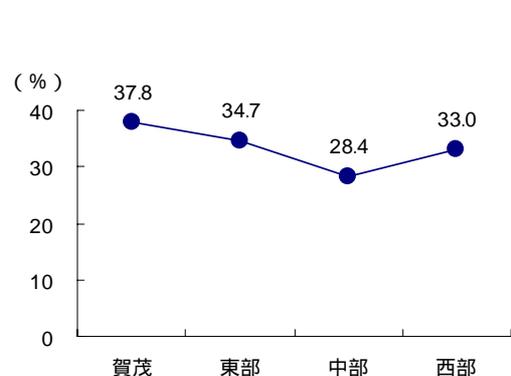
地域別でみると、『賀茂』では、「3日分」（29.3%）が最も高くなっており、その他の地域では「用意していない」が最も高くなっている。

3日以上の備蓄率を地域別でみると、『賀茂』（37.8%）で最も高くなっており、一番低い『中部』（28.4%）とは、9.4ポイントの差が見られる。

非常持出用食料の備蓄日数 <地域別>



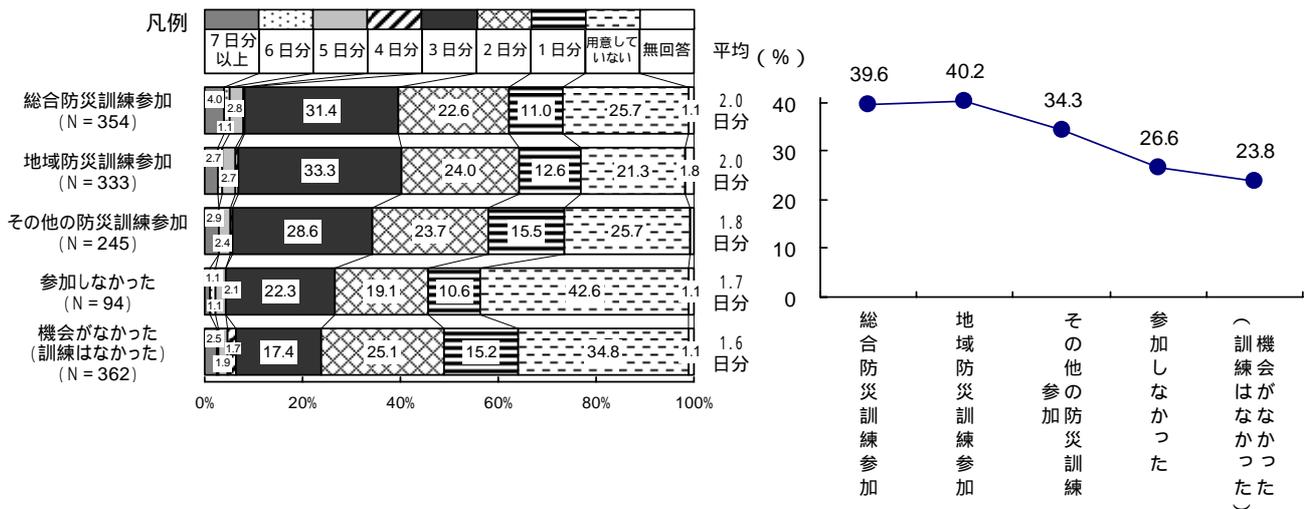
3日以上の備蓄率 <地域別>



防災訓練参加状況別でみると、「用意していない」が、『参加しなかった』（42.6%）で特に高くなっている。また、備蓄日数の平均をみると、『総合防災訓練参加』と『地域防災訓練参加』が2.0日分に対し、『機会がなかった（訓練はなかった）』では1.6日分となっており、備蓄日数がやや短めとなっている。

3日分以上の備蓄率を防災訓練参加状況別でみると、最も割合が高いのは、『地域防災訓練参加』（40.2%）で、最も割合が低いのは、『機会がなかった（訓練はなかった）』（23.8%）である。

**非常持出用食料の備蓄日数 < 防災訓練参加状況別 >      3日分以上の備蓄率 < 防災訓練参加状況別 >**

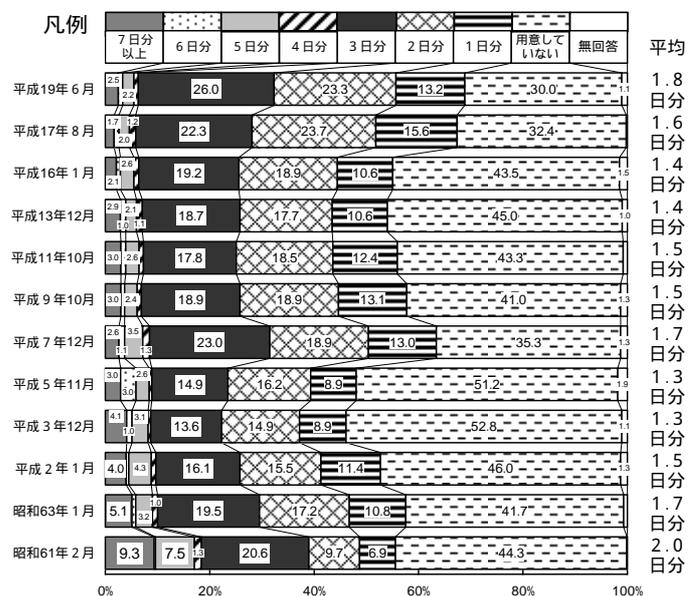


経年比較でみると、平成7年12月の調査では阪神・淡路大震災（平成7年1月）をきっかけに、備蓄率が急増した。しかしながらそれ以降、備蓄率は徐々に低下していたが、平成16年の新潟県中越地震（平成16年10月）、スマトラ沖地震（平成16年12月）、能登半島地震（平成19年3月）などが発生したこともあり、平成17年以降、「用意していない」が減少し『非常持出用食料3日分以上』が増加している。また、『非常持出用食料3日分以上』は、今回の調査（32.3%）では、前回調査（28.1%）より4.2ポイント増加している。

**非常持出用食料3日分以上**

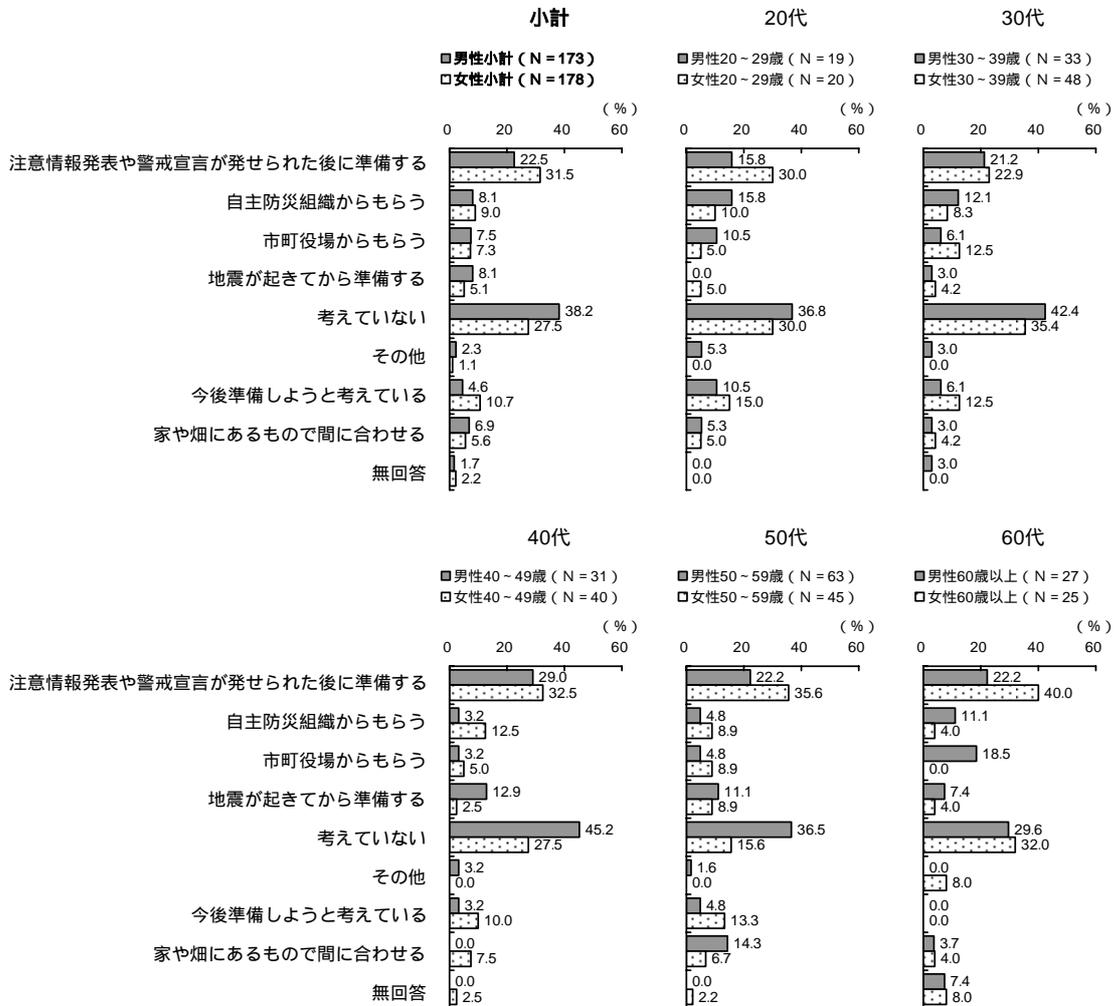
備蓄率	経年比較
平成19年6月	32.3%
平成17年8月	28.1%
平成16年1月	25.6%
平成13年12月	25.8%
平成11年10月	25.1%
平成9年10月	25.8%
平成7年12月	31.5%
平成5年11月	21.8%
平成3年12月	22.3%
平成2年1月	25.8%
昭和63年1月	29.5%
昭和61年2月	39.0%

**非常持出用食料の備蓄日数 < 経年比較 >**



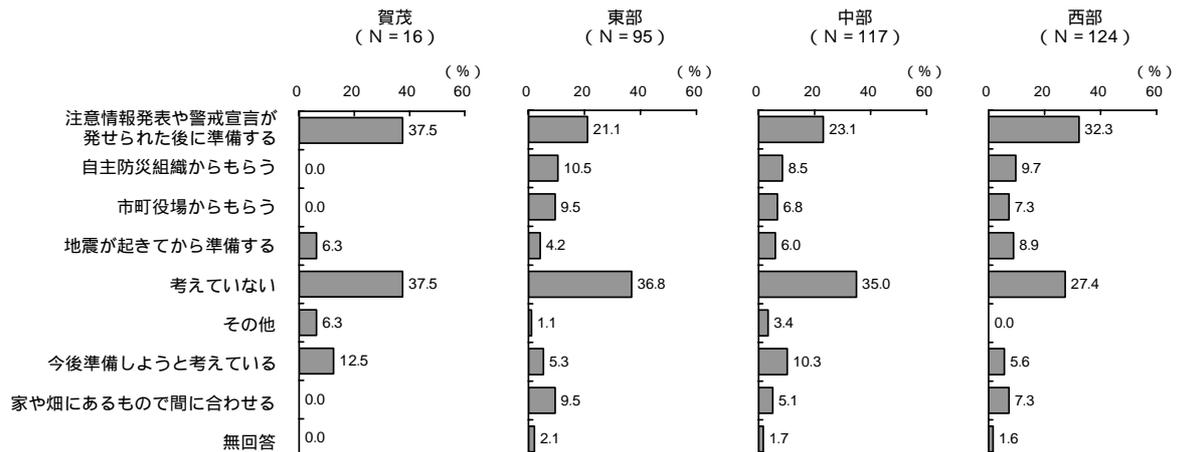
非常持出用食料を用意していない人の食料確保の手段を性・年代別でみると、男性は、全年代を通して「考えていない」が最も高くなっている。一方、女性は、『30代』を除いて「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」が最も高くなっており、女性の方が食料確保の手段を考慮しているという傾向が見られる。

### 非常持ち出し用食料を用意していない人の食料確保の手段 <性・年代別>



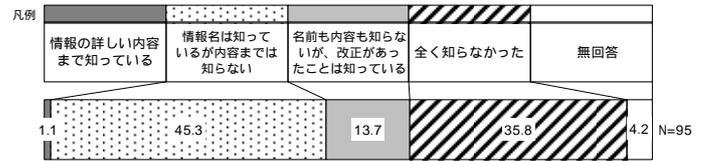
食料確保の手段を地域別でみると、「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」が最も高いのは、『西部』（32.3%）で、「考えていない」が最も高いのは、『東部』（36.8%）となっている。

### <地域別>

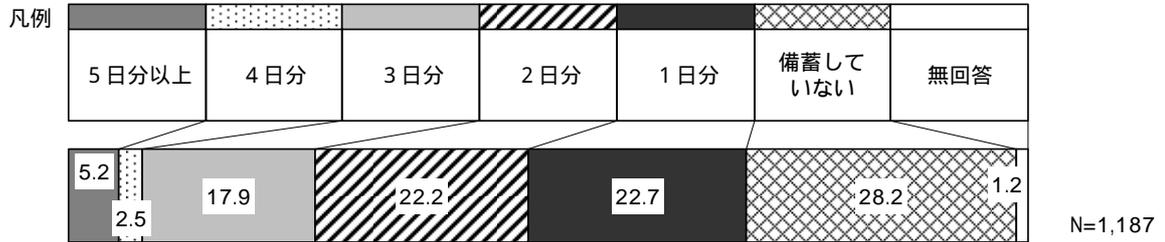


食料確保の手段を「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人を、問 28 の**情報体系の認知別**でみると、「情報名は知っているが内容までは知らない」(45.3%) が 4 割を超えており、次いで「全く知らなかった」(35.8%)、「名前も内容も知らないが、改正があったことは知っている」(13.7%) の順となっている。

**食料確保の手段**  
**< 情報体系の認知別 >**

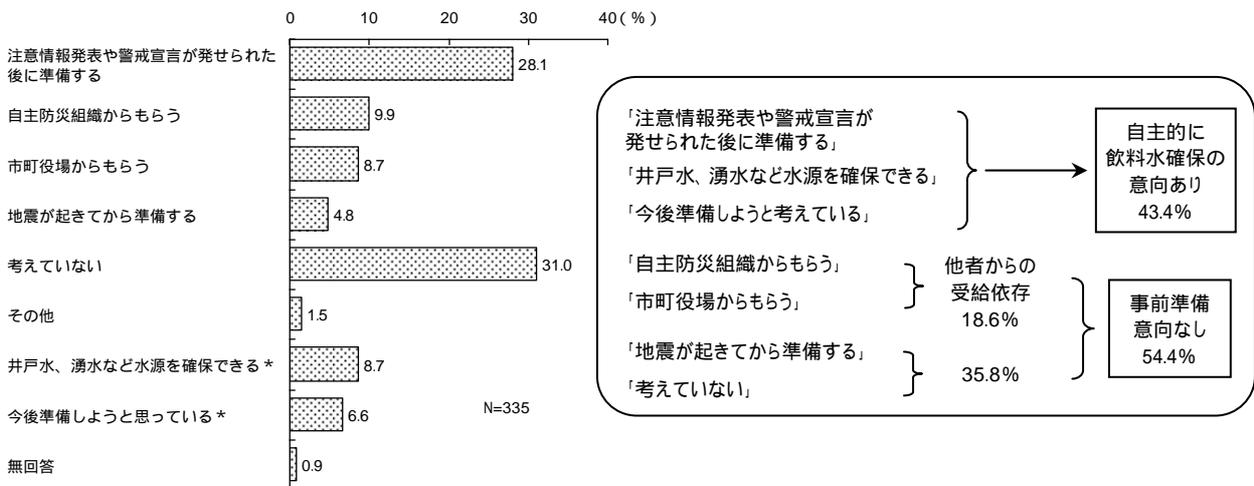


問8 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。



**3日分以上の備蓄率 25.6%**  
**平均：1.6日（前回：1.9日）**

問8 - 1 <問8で「6 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします。>  
 飲料水はどのようにして確保するつもりですか。



\* 「その他」の具体的記入欄に多く挙げられた回答内容

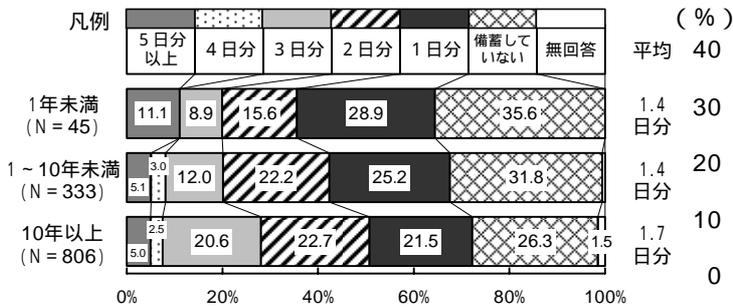
飲料水の備蓄日数についてたずねたところ、「備蓄していない」（28.2%）が最も高く、3日以上用意している家庭は25.6%で、平均備蓄数は1.6日である。

また、問8で「備蓄していない」と回答した人に、飲料水確保の手段をたずねたところ、「考えていない」（31.0%）が最も高く、次いで「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」（28.1%）、「自主防災組織からもらう」（9.9%）の順となっている。

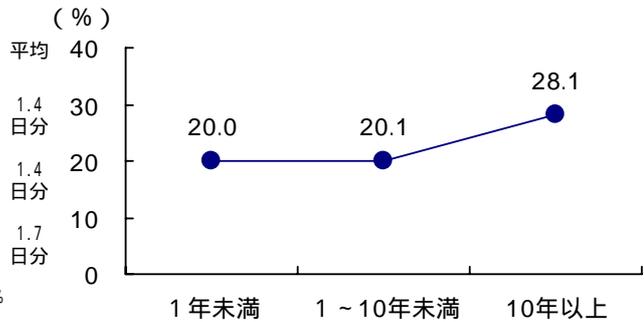
居住年数別でみると、「備蓄していない」は居住年数が長くなるにつれて減少しており、『1年未満』（35.6%）と『10年以上』（26.3%）では、9.3ポイントの差が見られる。

3日分以上の備蓄率を居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれて備蓄率も上昇しており、『10年以上』（28.1%）と『1年未満』（20.0%）では、8.1ポイントの差が見られる。

飲料水備蓄日数 <居住年数別>



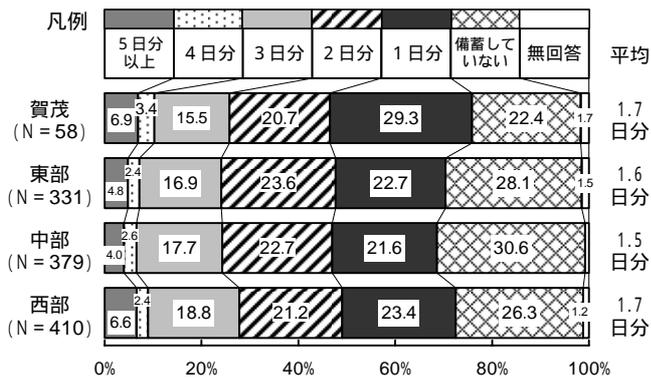
3日分以上の備蓄率 <居住年数別>



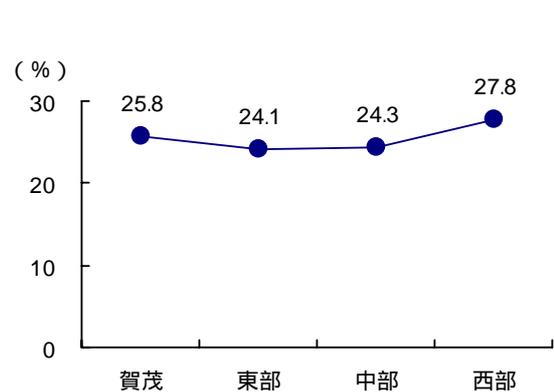
地域別でみると、「備蓄していない」が『中部』（30.6%）で最も高くなっており、一番低い『賀茂』（22.4%）とは、8.2ポイントの差が見られる。しかしながら、平均備蓄日数では地域差は見られない。

3日分以上の備蓄率を地域別でみると、地域による大きな差は見られない。

飲料水備蓄日数 <地域別>



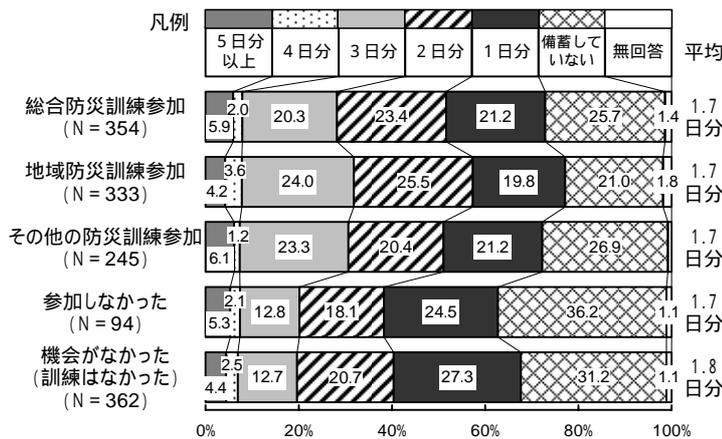
3日分以上の備蓄率 <地域別>



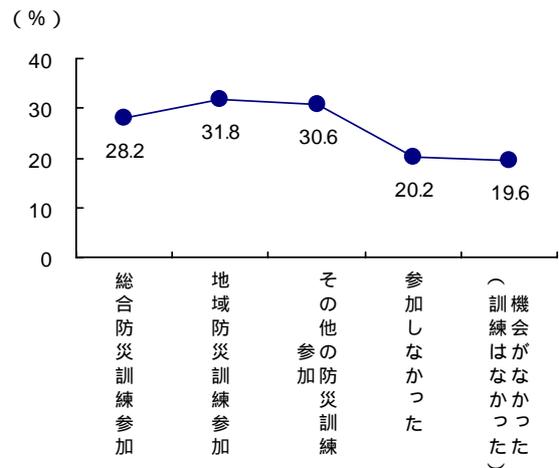
防災訓練参加状況別でみると、「備蓄していない」が、『参加しなかった』（36.2%）と『機会がなかった（訓練はなかった）』（31.2%）で3割を超えており、いずれかの訓練に参加した人と比較すると、やや高くなっている。また、「3日分」では、『参加しなかった』（12.8%）と『機会がなかった（訓練はなかった）』（12.7%）が約1割なのに対し、いずれかの訓練に参加している人は、2割以上となっている。

3日分以上の備蓄率を防災訓練参加状況別でみると、『地域防災訓練に参加した』（31.8%）が最も高く、『機会がなかった（訓練はなかった）』（19.6%）と12.2ポイントの差が見られる。

飲料水備蓄日数 < 防災訓練参加状況別 >



3日分以上の備蓄率 < 防災訓練参加状況別 >

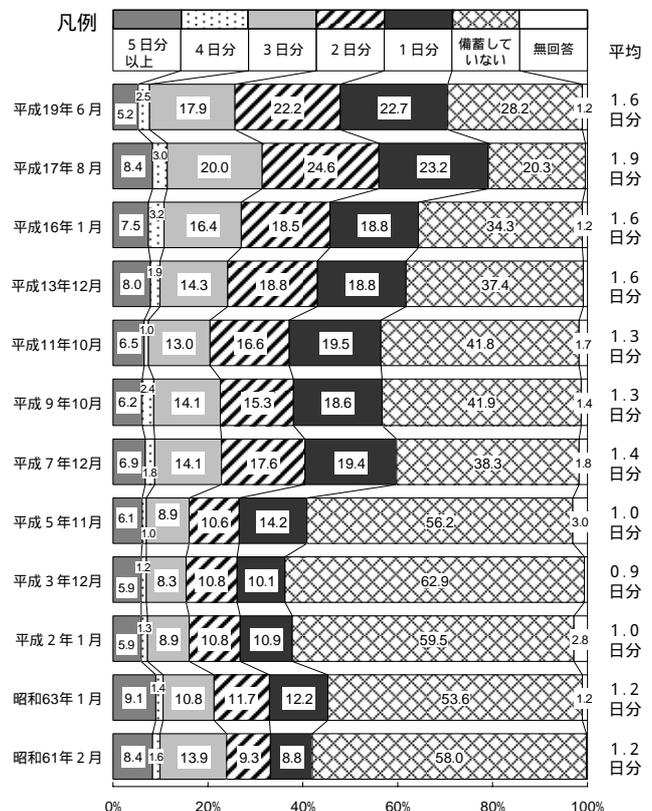


経年比較でみると、阪神・淡路大震災（平成7年1月）が発生した年の平成7年12月の調査以降、「備蓄していない」が減少傾向にあった。しかしながら今回の調査（28.2%）では、前回調査（20.3%）より7.9ポイント増加している。また、『飲料水3日分以上の備蓄率』は、今回調査（25.6%）では、前回調査（31.4%）より5.8ポイント減少している。

飲料水3日分以上  
備蓄率 経年比較

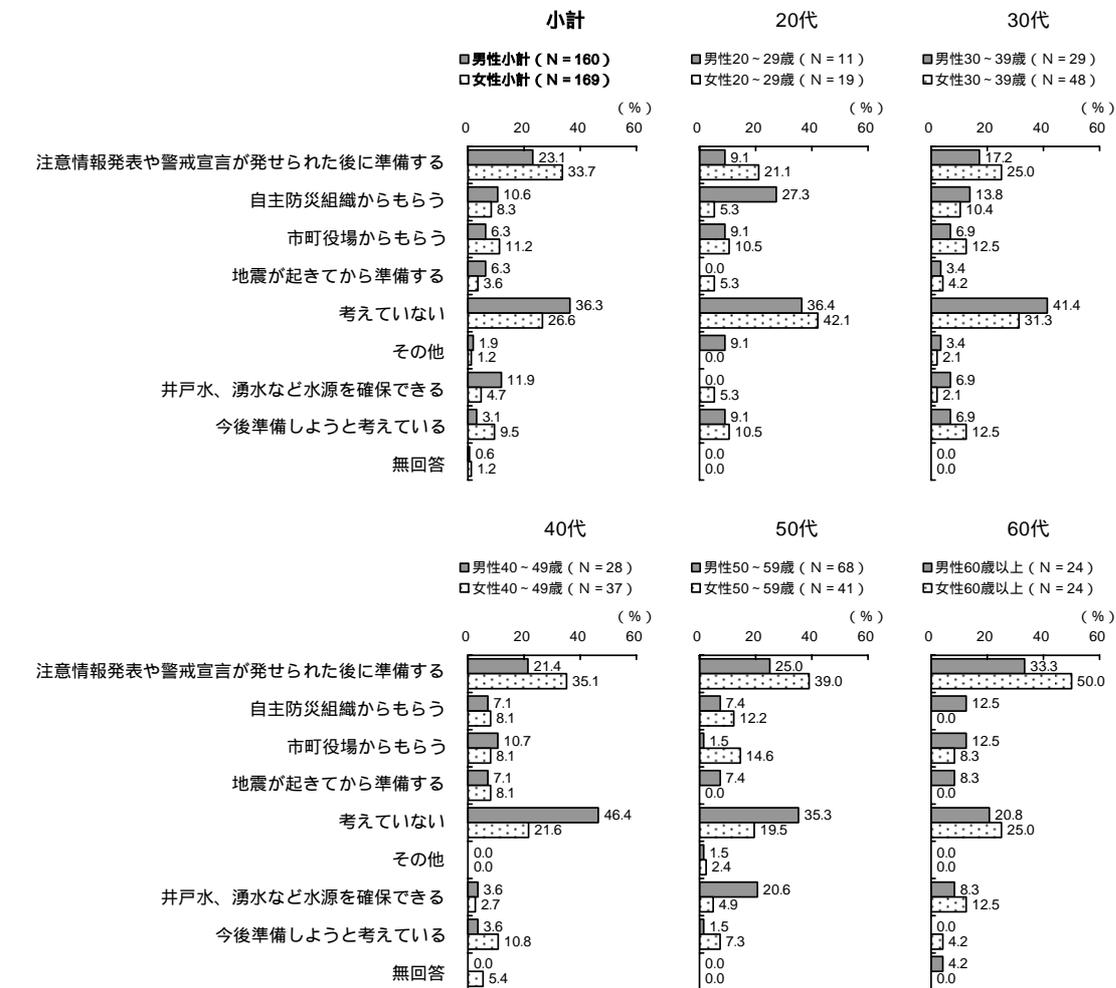
平成19年6月	25.6%
平成17年8月	31.4%
平成16年1月	27.1%
平成13年12月	24.2%
平成11年10月	20.5%
平成9年10月	22.7%
平成7年12月	22.8%
平成5年11月	16.0%
平成3年12月	15.4%
平成2年1月	16.1%
昭和63年1月	21.3%
昭和61年2月	23.9%

飲料水の備蓄日数 < 経年比較 >



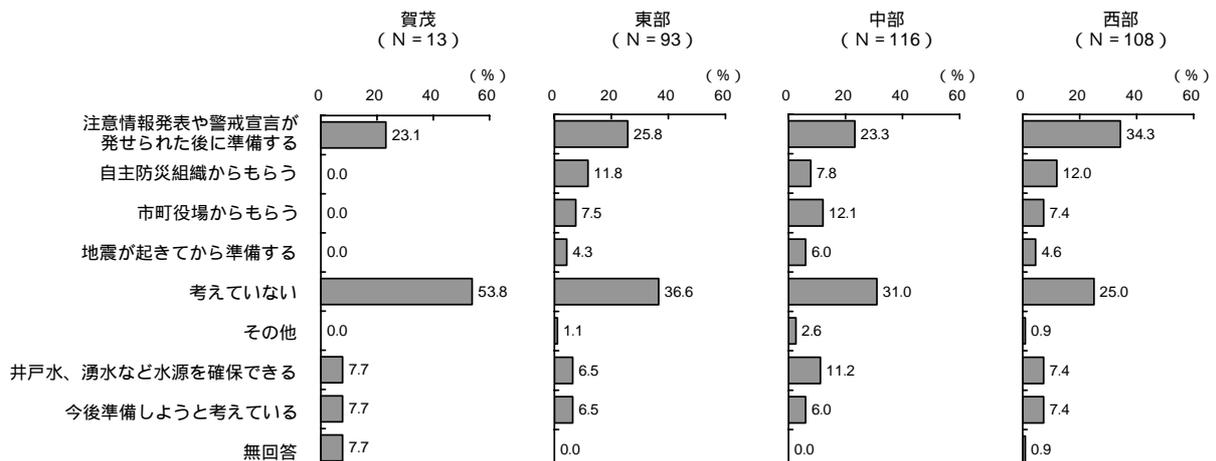
飲料水を備蓄していない人の飲料水確保の手段を性・年代別でみると、男性は『60歳以上』を除いて「考えていない」が最も高くなっている。女性は、『20代』、『30代』では、「考えていない」が最も高くなっており、『40代』、『50代』、『60歳以上』では、「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」が最も高くなっている。

### 飲料水確保の手段 <性・年代別>



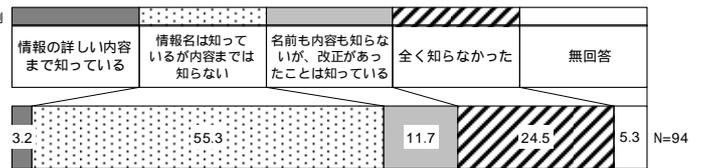
飲料水確保の手段を地域別でみると、『賀茂』、『東部』、『中部』では「考えていない」が最も高くなっており、『西部』では「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」が最も高くなっている。

### 飲料水確保の手段 <地域別>

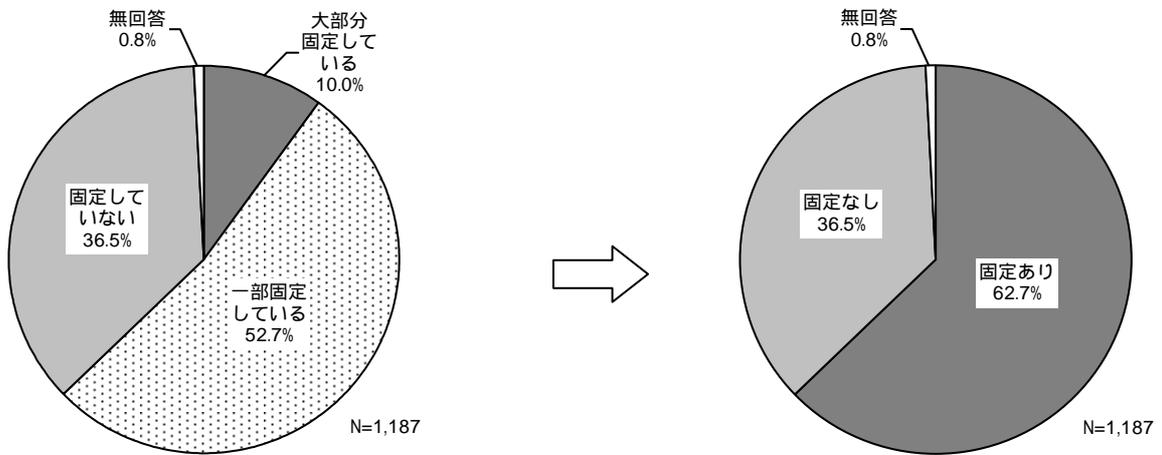


飲料水を備蓄していない人の飲料水確保の手段を「注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人を、問 28 の**情報体系の認知別**でみると、「情報は知っているが内容までは知らない」（55.3%）が半数を超えており、次いで「全く知らなかった」（24.5%）、「名前も内容も知らないが、改正があったことは知っている」（11.7%）の順となっている。

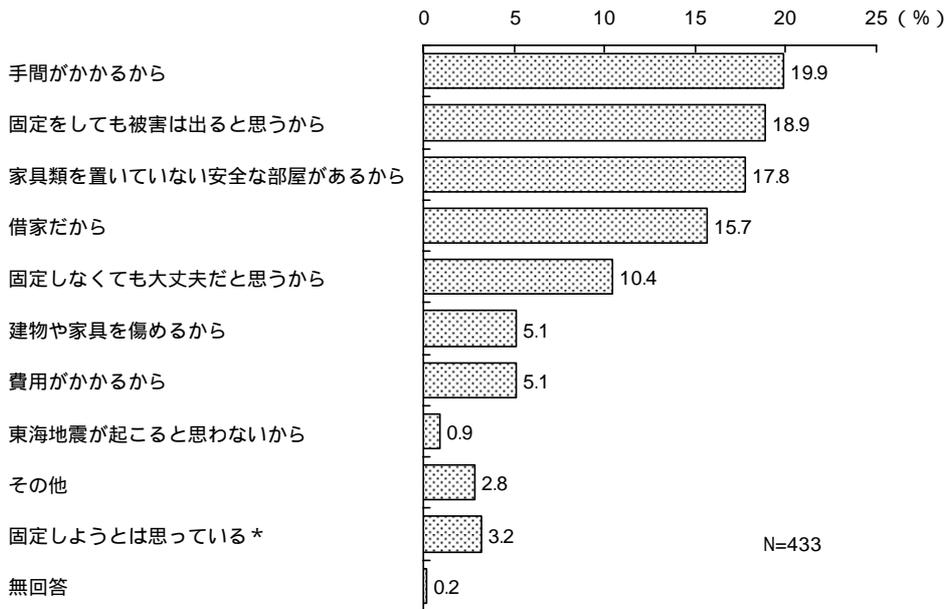
**飲料水確保の手段**  
**< 情報体系の認知別 >**



問9 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。



問9 - 1 <問9で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>  
なぜですか。



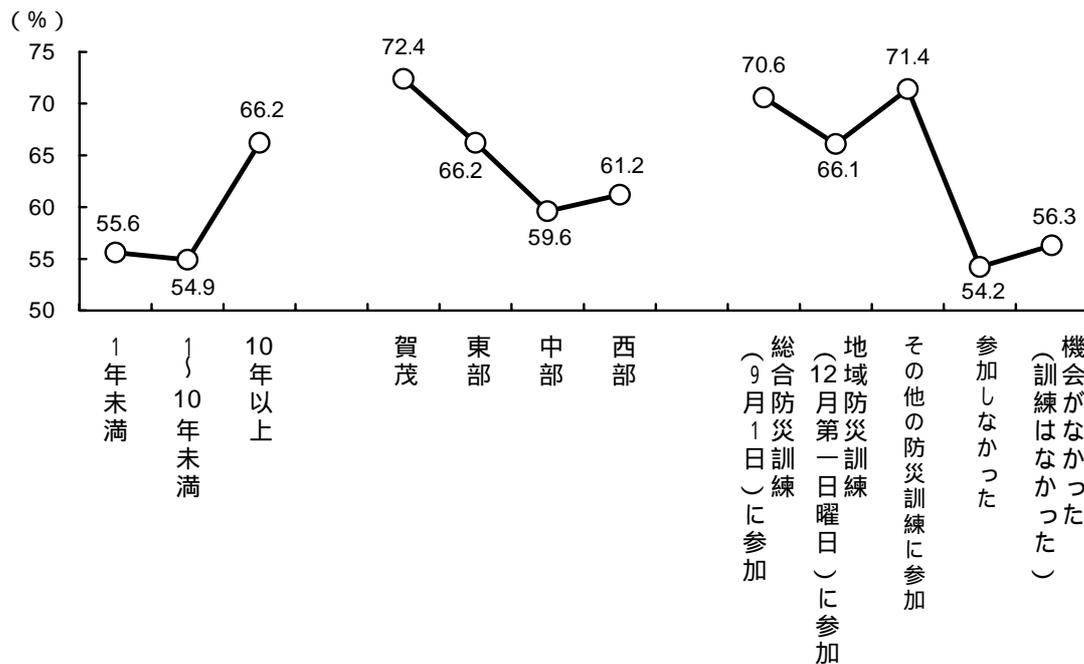
\* 「その他」の具体的記入欄に多く挙げられた回答内容

家具類の固定状況については、「大部分固定している」(10.0%)と「一部固定している」(52.7%)を合わせると、固定実施率は62.7%である。

また、問9で「固定していない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「手間がかかるから」(19.9%)が最も高く、次いで「固定をしても被害は出ると思うから」(18.9%)、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」(17.8%)の順となっている。

家具類の固定実施率を**居住年数別**でみると、『10年以上』（66.2%）が、『1年未満』（55.6%）を10.6ポイント上回っている。**地域別**でみると、最も高い『賀茂』（72.4%）と最も低い『中部』（59.6%）では、12.8ポイントの差が見られる。**防災訓練参加状況別**でみると、いずれかの防災訓練に参加している人は、参加していない人よりも固定実施率が高い傾向が見られる。

**家具類の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」）**  
**<居住年数・地域・防災訓練参加状況別>**

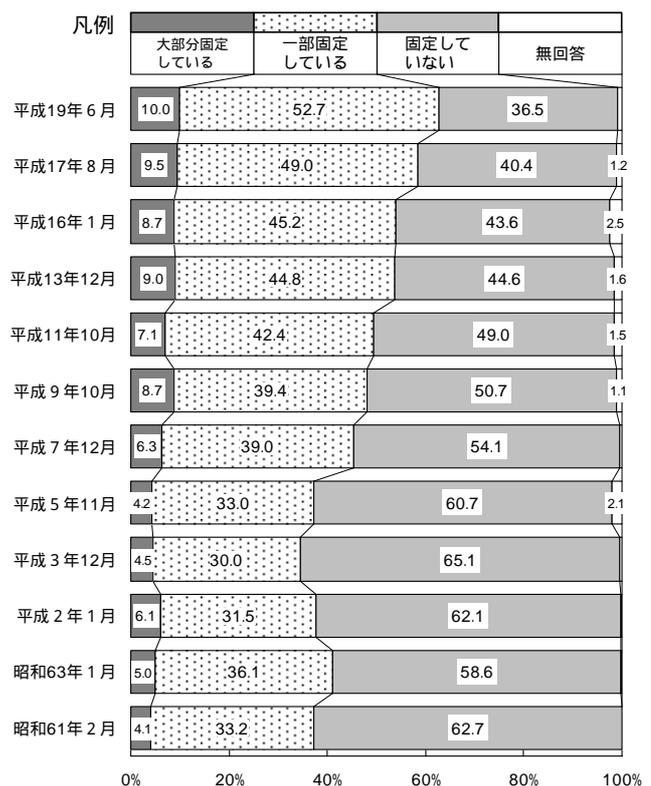


**経年比較**でみると、家具の固定実施率は平成3年以降、年々増加傾向となっている。今回の調査（62.7%）は、前回調査（58.5%）を4.2ポイント上回っている。

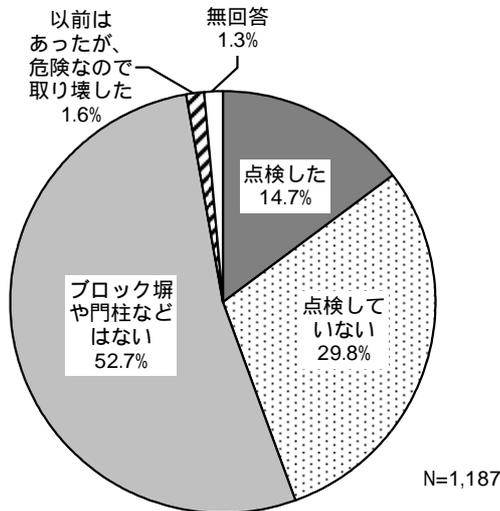
**家具類の固定実施率**  
**経年比較**

平成 19年 6月	62.7%
平成 17年 8月	58.5%
平成 16年 1月	53.9%
平成 13年 12月	53.8%
平成 11年 10月	49.5%
平成 9年 10月	48.1%
平成 7年 12月	45.3%
平成 5年 11月	37.2%
平成 3年 12月	34.5%
平成 2年 1月	37.6%
昭和 63年 1月	41.1%
昭和 61年 2月	37.3%

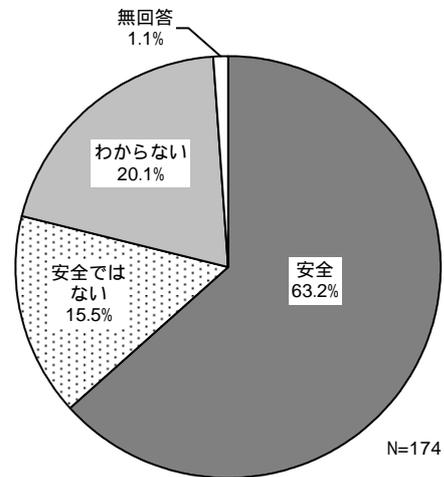
**家具類の固定実施状況 <経年比較>**



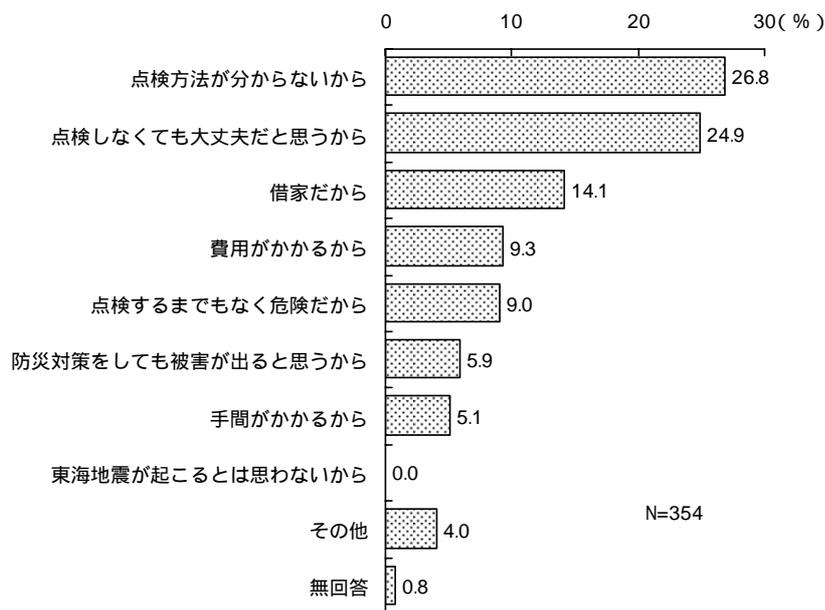
問 10 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。



問 10 - 1 <問 10 で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします。> 点検結果はいかがでしたか。



問 10 - 2 <問 10 で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。> どのような理由からですか。

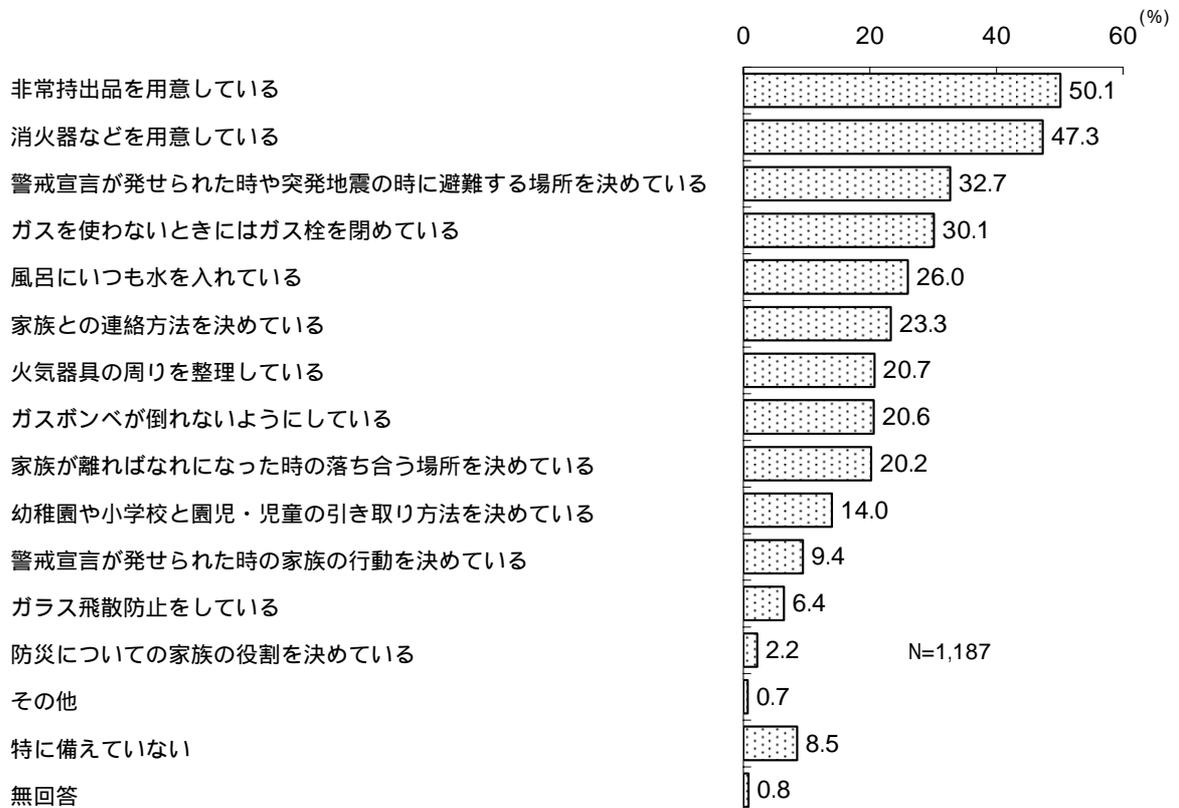


ブロック塀・門柱などの安全性の点検については、「ブロック塀や門柱などはない」(52.7%)が最も高く、次いで「点検していない」(29.8%)、「点検した」(14.7%)、「以前はあったが、危険なので取り壊した」(1.6%)の順となっている。

点検をした人に結果をたずねたところ、「安全」(63.2%)が最も高く、次いで「わからない」(20.1%)、「安全ではない」(15.5%)の順となっている。

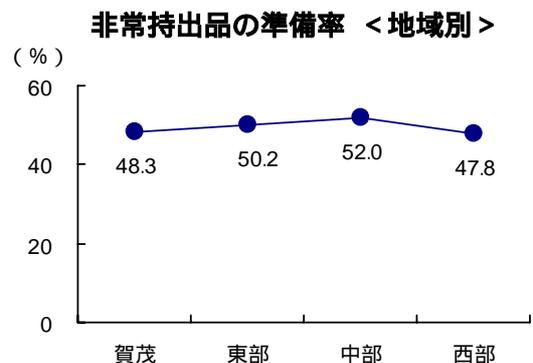
また、点検していない人の点検をしない理由については、「点検方法が分からないから」(26.8%)が最も高く、次いで「点検しなくても大丈夫だと思うから」(24.9%)、「借家だから」(14.1%)の順となっている。

問 11 次にあげるものの中で、東海地震に備えてあなたのお宅で行っているものについて、いくつかでもお答えください。(M.A.)

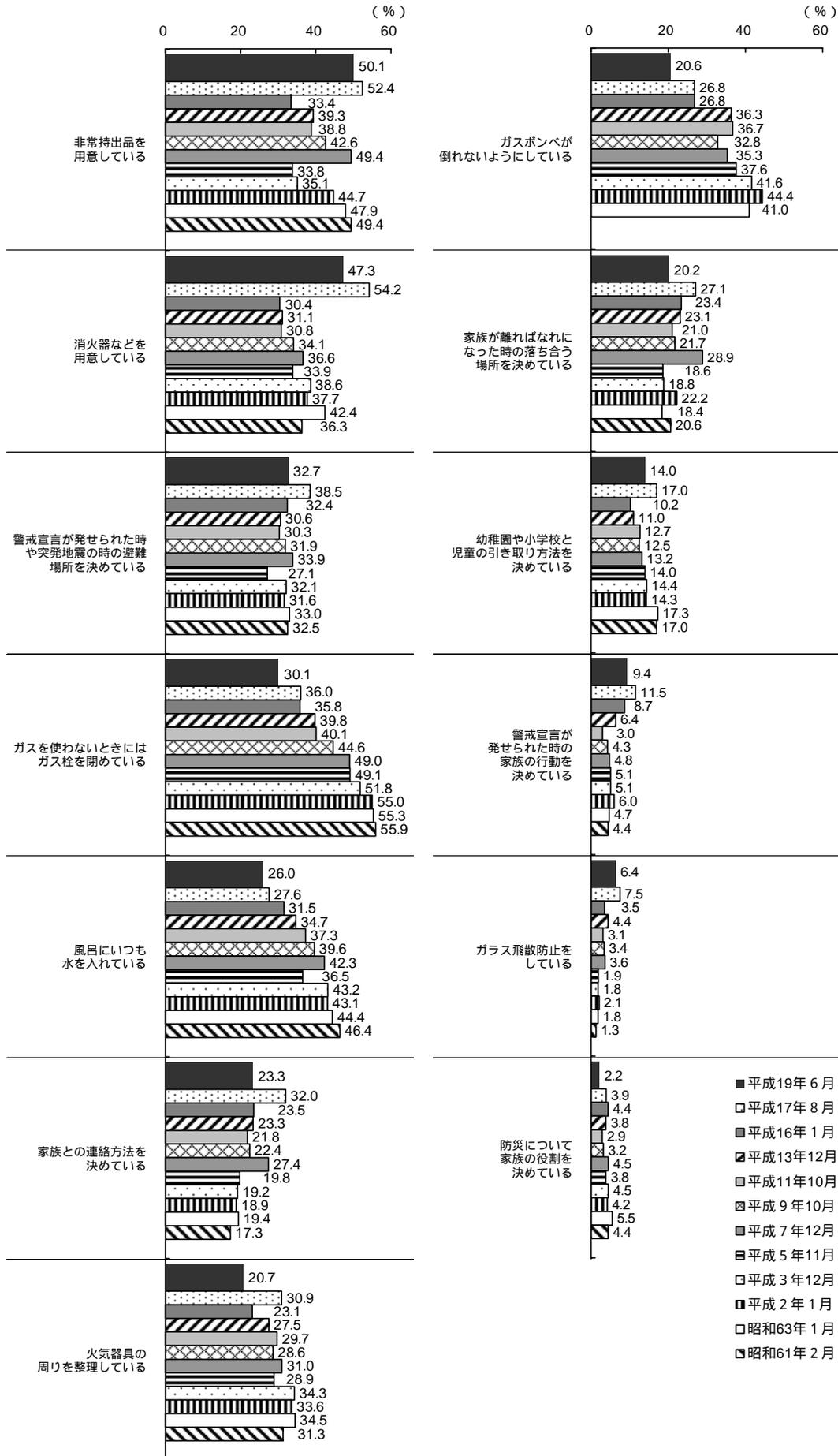


東海地震に備えて行っているものについてたずねると、「非常持出品を用意している」(50.1%)が最も高く、次いで「消火器などを用意している」(47.3%)、「警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている」(32.7%)、「ガスを使わないときにはガス栓を閉めている」(30.1%)の順となっている。

非常持出品の準備率を地域別で見ると、地域によって非常持出品の準備率に差は特に見られない。



### 東海地震に対する防災対策 <経年比較>



地震に備えて実施している防災対策の項目について**経年比較**でみると、前回調査と比較して日常面での備えでは、上位5項目の全てにおいてポイントが減少している。特に5位の「火気器具の周りを整理している」では10.2ポイントと大きく減少し、2位の「消火器などを用意している」が6.9ポイント、3位の「ガスを使わないときにはガス栓を閉めている」で5.9ポイントの減少となっている。また、行動面での備えでも、上位5項目の全てにおいてポイントは減少しており、2位の「家族との連絡方法を決めている」で8.7ポイント、3位の「家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている」で6.9ポイントの減少となっている。

### 日常面での備え 上位5位（平成19年） <経年比較>

上位5項目	平成19年 6月	前年比	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 非常持出品を用意している	50.1	(-2.3)	52.4	33.4	39.3	38.8	42.6	49.4	33.8	35.1	44.7	47.9	49.4
2位 消火器などを用意している	47.3	(-6.9)	54.2	30.4	31.1	30.8	34.1	36.6	33.9	38.6	37.7	42.4	36.3
3位 ガスを使わないときにはガス栓を閉めている	30.1	(-5.9)	36.0	35.8	39.8	40.1	44.6	49.0	49.1	51.8	55.0	55.3	55.9
4位 風呂にいつも水を入れている	26.0	(-1.6)	27.6	31.5	34.7	37.3	39.6	42.3	36.5	43.2	43.1	44.4	46.4
5位 火気器具の周りを整理している	20.7	(-10.2)	30.9	23.1	27.5	29.7	28.6	31.0	28.9	34.3	33.7	34.5	31.3

### 行動面での備え 上位5位（平成19年） <経年比較>

上位5項目	平成19年 6月	前年比	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 警戒宣言が発せられた時や突発地震の時の避難場所を決めている	32.7	(-5.8)	38.5	32.4	30.6	30.3	31.9	33.9	27.1	32.1	31.6	33.0	32.5
2位 家族との連絡方法を決めている	23.3	(-8.7)	32.0	23.5	23.3	21.8	22.4	27.4	19.8	19.2	18.9	19.4	17.3
3位 家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている	20.2	(-6.9)	27.1	23.4	23.1	21.0	21.7	28.9	18.6	18.8	22.2	18.4	20.6
4位 幼稚園や小学校と児童の引き取り方法を決めている	14.0	(-3.0)	17.0	10.2	11.0	12.7	12.5	13.2	14.0	14.4	14.3	17.3	17.0
5位 警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている	9.4	(-2.1)	11.5	8.7	6.4	3.0	4.3	4.9	5.1	5.2	6.0	4.7	4.4

東海地震に備えた防災対策で実施している項目1項目につき1点というポイントを与え、各属性ごとに平均ポイントを算出し、防災準備数にて比較を行う。なお、全体平均は3.4ポイントである。

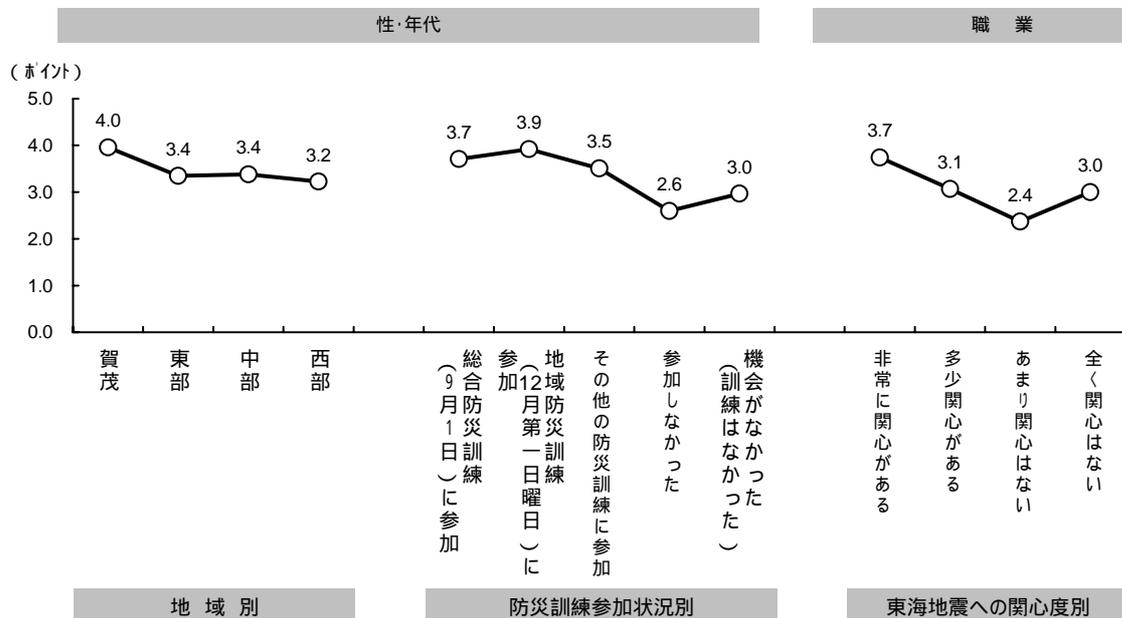
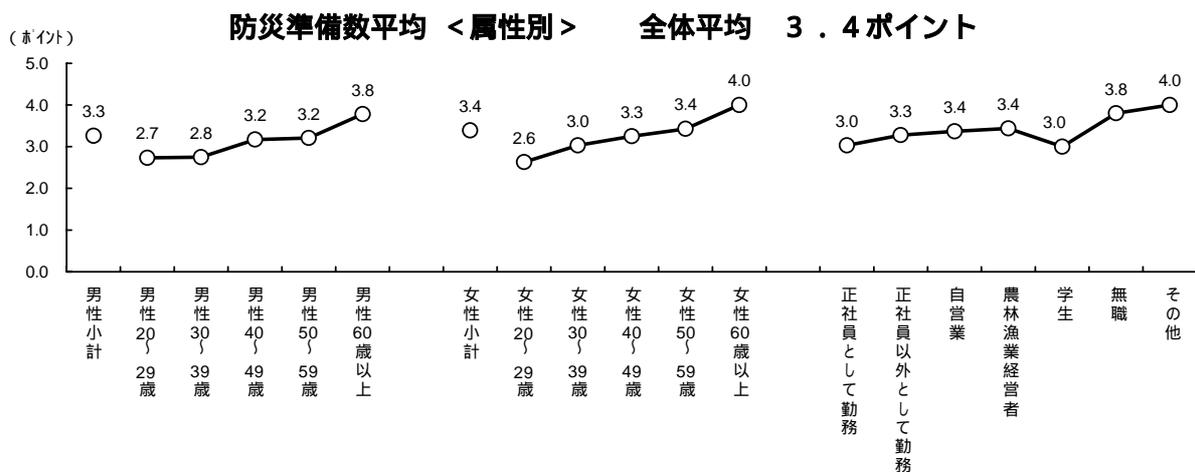
**性・年代別**でみると、男女ともに年代が上がるにつれて防災準備数は多くなる傾向が見られる。最も得点が高かったのは、『女性60歳以上』（4.0ポイント）で、最も得点が低かったのは、『女性20代』（2.6ポイント）で、その差は1.4ポイントとなっている。

**職業別**でみると、最も得点が高かったのは、『無職』（3.8ポイント）で、最も得点が低かったのは、『正社員として勤務』と『学生』（3.0ポイント）で、その差は0.8ポイントとなっている。

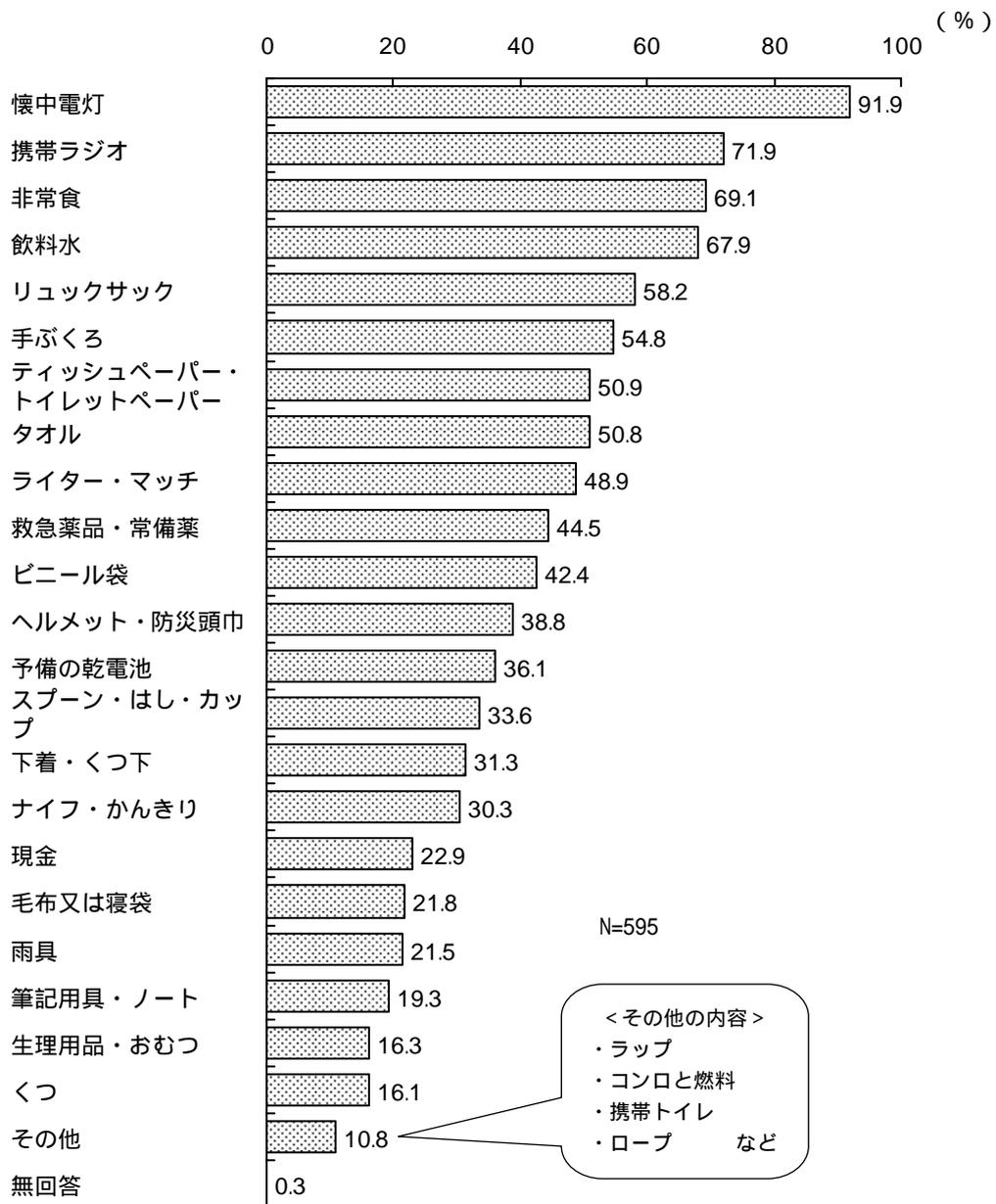
**地域別**でみると、最も得点が高かったのは、『賀茂』（4.0ポイント）で、最も得点が低かったのは、『西部』（3.2ポイント）で、その差は0.8ポイントとなっている。

**防災訓練参加状況別**でみると、最も得点が高かったのは、『地域防災訓練に参加』（3.9ポイント）で、次いで『総合防災訓練に参加』（3.7ポイント）、『その他の防災訓練に参加した』（3.5ポイント）の順となっている。一方、『参加しなかった』（2.6ポイント）、『機会がなかった（訓練はなかった）』（3.0ポイント）で、訓練に参加しなかった人といずれかの訓練に参加した人を比較すると、訓練に参加しなかった人の防災準備数は少なくなっている。

**東海地震への関心度別**でみると、最も得点が高かったのは、『非常に興味がある』（3.7ポイント）で、最も得点が低かったのは、『あまり関心がない』（2.4ポイント）で、その差は1.3ポイントとなっている。



問 11 - 1 <問 11 で「13 非常持出品を用意している」を選んだ方にお伺いします。>  
 非常持出品として何を用意していますか。( M . A . )

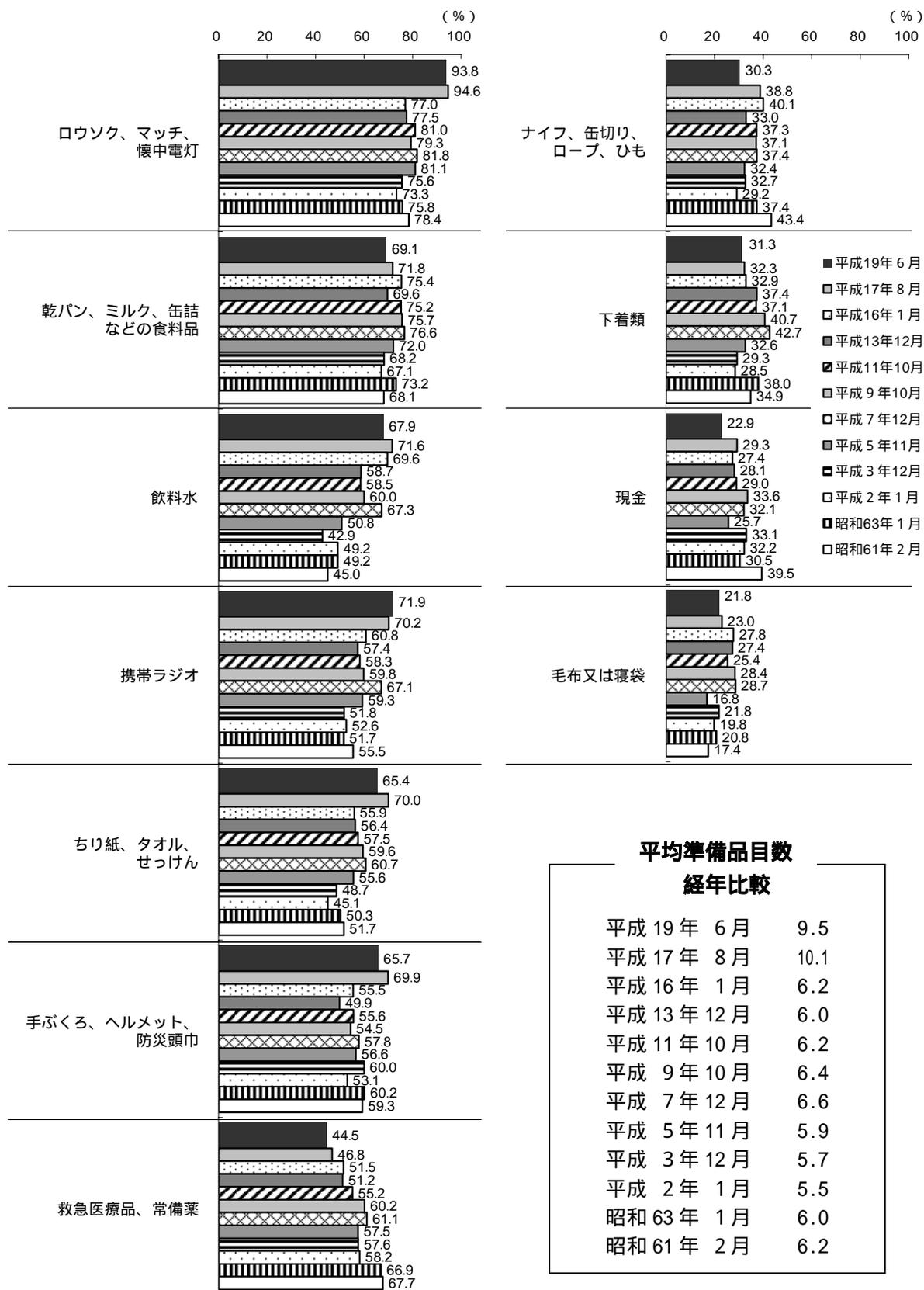


平均準備品目数 9.5

問 11 で「非常持出品を用意している」と回答した人に何を用意しているかをたずねたところ、「懐中電灯」(91.9%)が最も高かった。次いで「携帯ラジオ」(71.9%)、「非常食」(69.1%)、「飲料水」(67.9%)、「リュックサック」(58.2%)の順となっている。

用意している**非常持出品**を経年比較でみると、「携帯ラジオ」は今回の調査（71.9%）では前回調査（70.2%）より1.7ポイント増加しているが、他の持出品ではポイントが減少している。

### 用意している非常持出品 < 経年比較 >



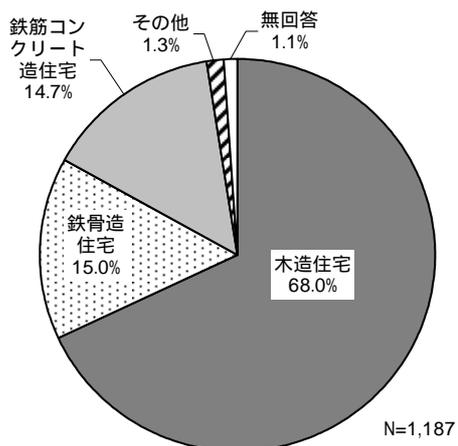


### 3 住宅の耐震補強について

#### 3 - 1

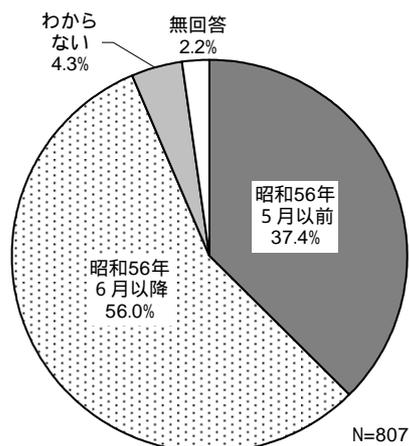
#### 家屋の構造と耐震診断

問 12 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。



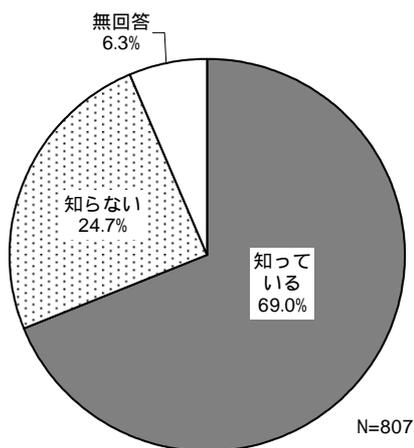
問 12 - 1 <問 12 で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。



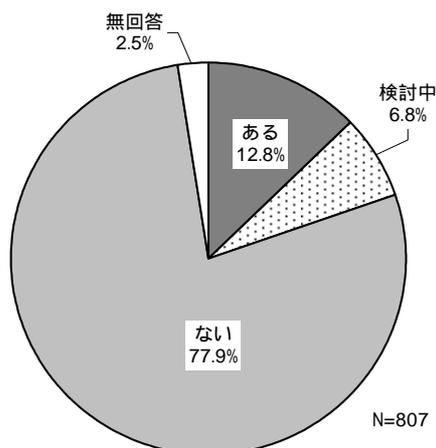
問 12 - 2 <問 12 で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

市町では、昭和 56 年 5 月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。

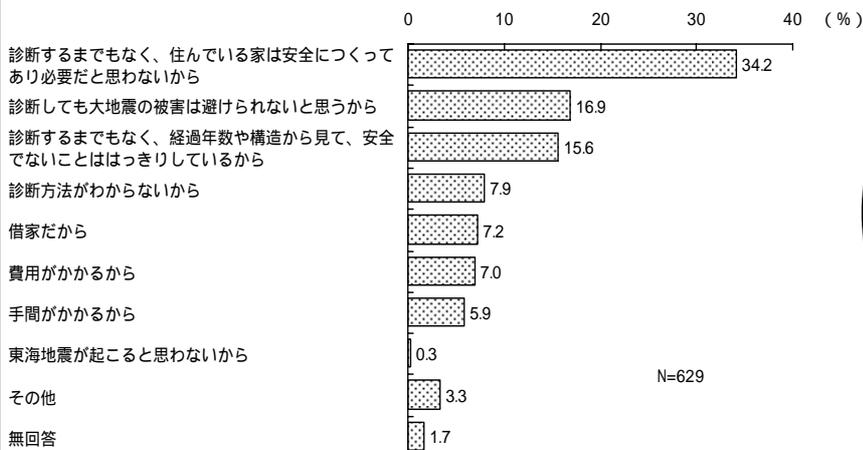


問 12 - 3 <問 12 で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

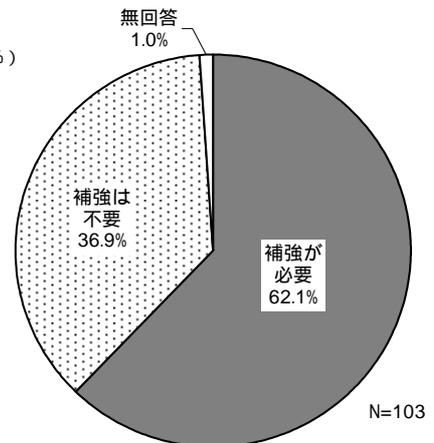
耐震診断をしたことがありますか。



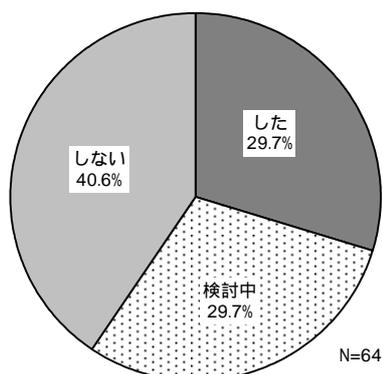
問 12 - 3 - 1 <問 12 - 3 で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>  
耐震診断をしないのはなぜですか。( 1 つ )( M . A . )



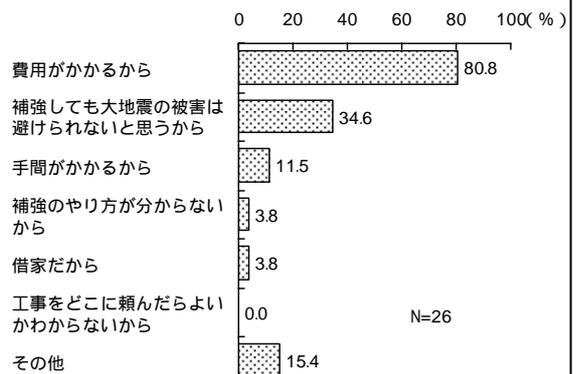
問 12 - 3 - 2 <問 12 - 3 で「1 ある」を選んだ方にお伺いします。>  
結果はいかがでしたか。



問 12 - 3 - 3 <問 12 - 3 - 2 で「1 補強が必要」を選んだ方にお伺いします。>  
診断後、補強しましたか。



問 12 - 3 - 4 <問 12 - 3 - 3 で「3 しない」を選んだ方にお伺いします。>  
補強をしないのはなぜですか。( M . A . )



家屋の構造をたずねたところ、「木造住宅」(68.0%)、次いで「鉄骨造住宅」(15.0%)、「鉄筋コンクリート造住宅」(14.7%)の順となっている。

問 12 で「木造住宅」と回答した人の建築時期については、建築基準法が改正された『昭和 56 年 6 月以降』(56.0%)が過半数を占めている。

また、耐震診断の有無については、耐震診断をしたことが「ない」(77.9%)が最も高く、次いで「ある」(12.8%)、「検討中」(6.8%)の順となっている。

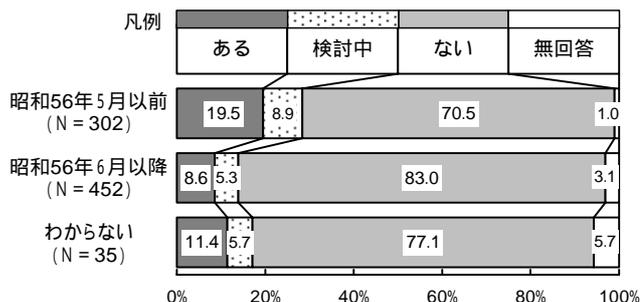
さらに、問 12 - 3 で耐震診断を「した」と回答した人に診断結果をたずねたところ、「補強が必要」(62.1%)、「補強は不要」(36.9%)の順となっている。

また、問 12 - 3 - 2 で「補強が必要」と回答した人が診断後、補強をしたかについては、補強を「しない」(40.6%)が最も高く、「した」(29.7%)、と「検討中」(29.7%)が同率となっている。

問 12 - 3 - 3 で補強を「しない」と回答した人の理由については、「費用がかかるから」(80.8%)が最も高く 8 割以上を占めており、次いで「補強しても大地震の被害は避けられないと思うから」(34.6%)、「手間がかかるから」(11.5%)の順となっている。

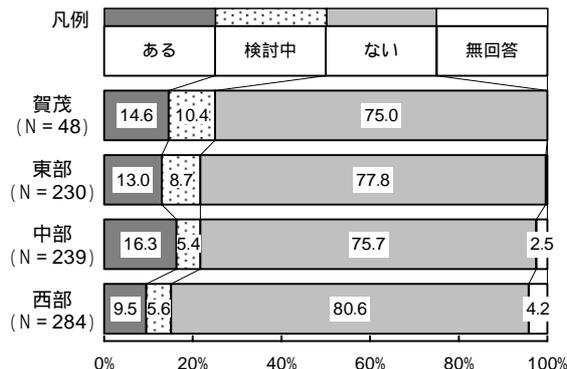
耐震診断の実施率を木造住宅建築時期別で見ると、『昭和56年5月以前』の家に住んでいる人は19.5%であり、『昭和56年6月以降』の家に住んでいる人は8.6%であった。

耐震診断の実施率 <木造住宅建築時期別>



耐震診断の実施率を地域別で見ると、『中部』(16.3%)が最も高く、『西部』(9.5%)が最も低くなっており、6.8ポイントの差が見られる。

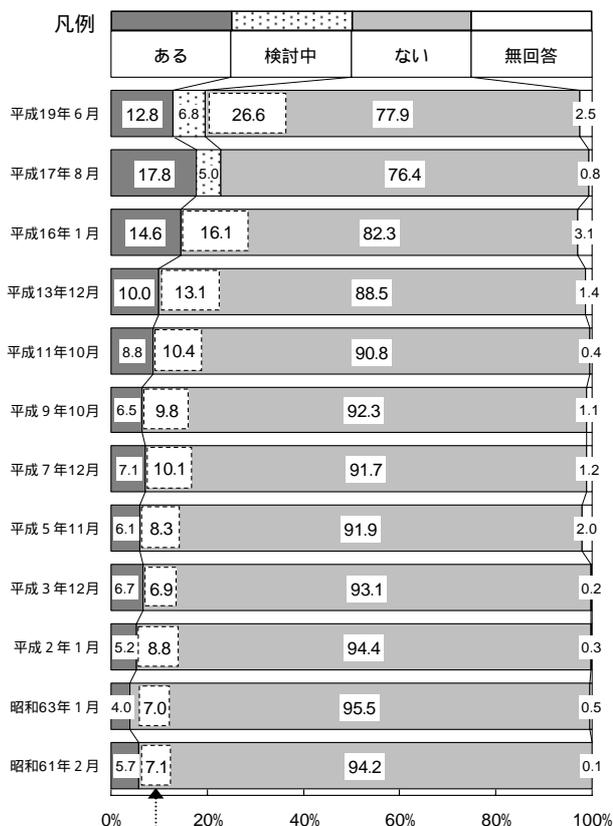
耐震診断の実施率 <地域別>



耐震診断の実施率を経年比較で見ると、実施率は年々増加傾向にあったが、今回の調査(12.8%)は、前回調査(17.8%)を5.0ポイント下回っている。

耐震診断の実施率 <経年比較>

一方、耐震診断を実施しない理由のうち「診断するまでもなく安全だから」と回答した割合は増加傾向にあり、今回調査では26.6%だったことから、昭和56年以降の新しい耐震基準に基づく住宅の増加や建物の補強等により全体的に耐震化は進んでいるものと推測される。



「検討中」という項目は、平成17年度から追加。耐震診断していない理由(「診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから」)について、平成17年度は未調査。

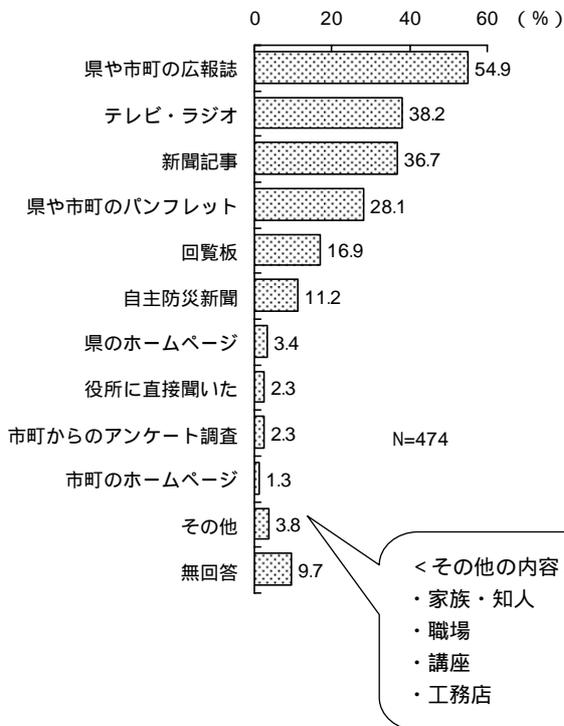
問 13 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）”』を推進しています。この事業の内容は、**専門家による無料耐震診断** **耐震補強計画策定への補助** **耐震補強工事への補助**の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知でしたか。



問 13 - 1

<問 13 で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

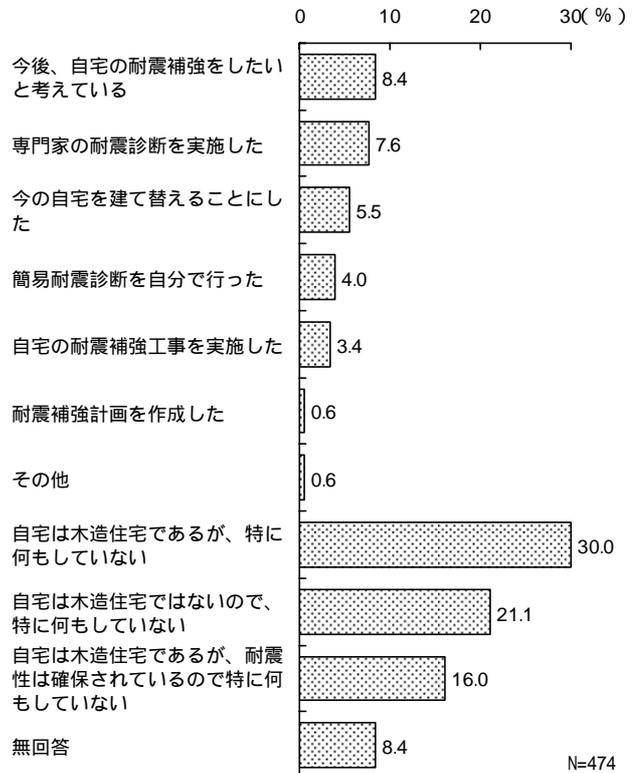
あなたは『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）”』をどのようにして知りましたか。（M.A.）



問 13 - 2

<問 13 で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

あなたは『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）”』を知って、どのような行動をされましたか。（M.A.）



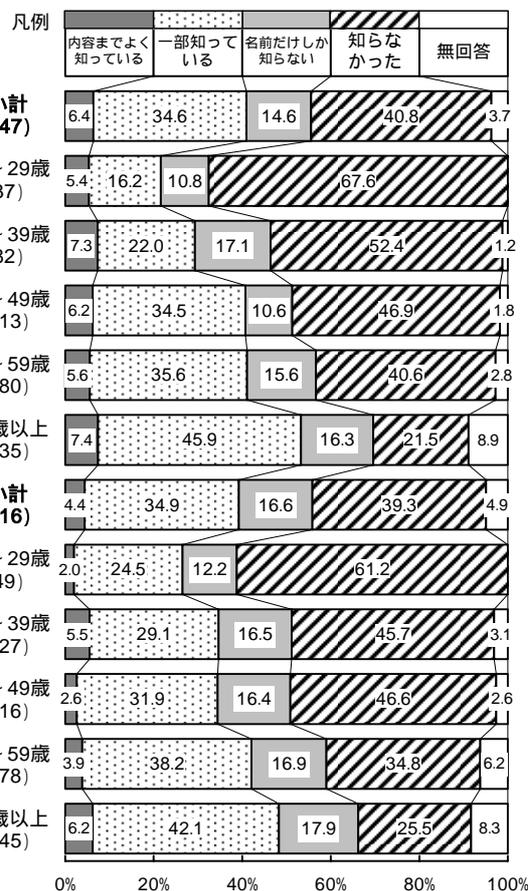
『プロジェクト“TOUKAI - 0”』の認知についてたずねたところ、「知らなかった」(39.8%)が最も高く、次いで「一部知っている」(34.6%)、「名前だけしか知らない」(15.9%)、「内容までよく知っている」(5.3%)の順となっており、内容を知らない人(「名前だけしか知らない」+「知らなかった」)(55.7%)が過半数を占めている。

ある程度内容を理解している人(「内容までよく知っている」+「一部知っている」)の認知方法については、「県や市町の広報誌」(54.9%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」(38.2%)、「新聞記事」(36.7%)、「県や市町のパンフレット」(28.1%)の順となっている。

また、認知後の行動については、「自宅は木造住宅であるが、特に何もしていない」(30.0%)が最も高く、次いで「自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない」(21.1%)、「自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない」(16.0%)の順となっている。具体的に行った行動としては、「今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている」(8.4%)、「専門家の耐震診断を実施した」(7.6%)が高くなっている。

プロジェクト“TOUKAI - 0”の認知率  
 <性・年代別>

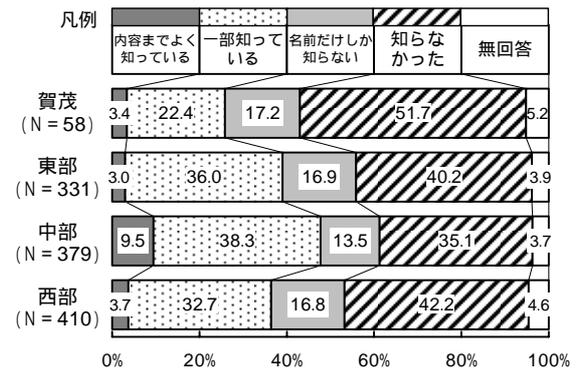
性・年代別で見ると、男女とも『20代』で「知らなかった」が他の年代に比べ高くなっており、6割を超えている。年代が上がるほど「知らなかった」の割合は低くなり、「一部知っている」が高くなっている。



## プロジェクト“TOUKAI-0”の認知率

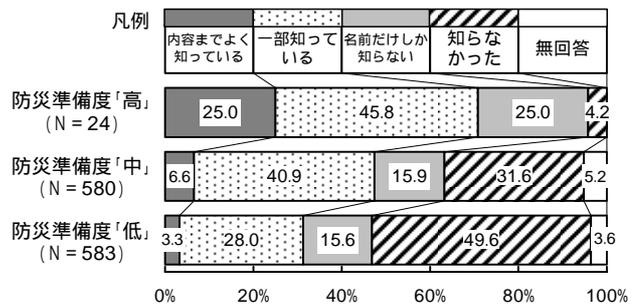
### <地域別>

地域別でみると、「一部知っている」は、『中部』(38.3%)で、最も高くなっている。「知らなかった」は、『賀茂』(51.7%)、『西部』(42.2%)、『東部』(40.2%)で最も高くなっている。



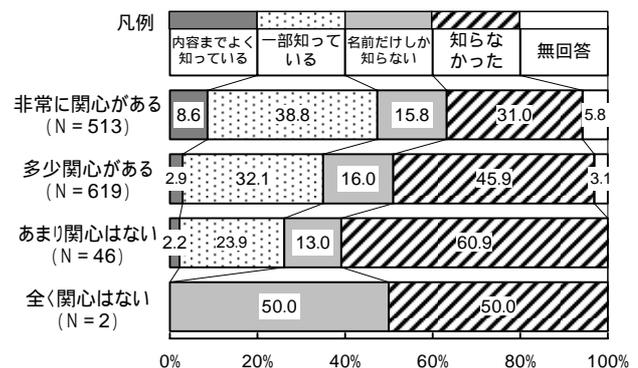
### <防災準備度別>

防災準備度別でみると、防災準備度が高い人ほど認知率は高い。また、「知らなかった」は、最も高い『防災準備度「低」』(49.6%)と最も低い『防災準備度「高」』(4.2%)では、45.4ポイントの差が見られる。



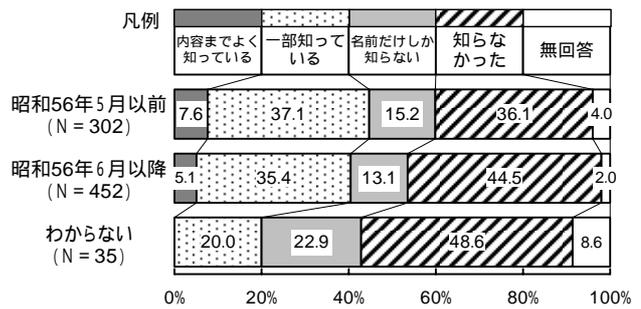
### <東海地震への関心度別>

東海地震の関心度別でみると、関心が高い人ほど認知率は高く、「内容までよく知っている」と「一部知っている」と答えた人を合わせると、『非常に関心がある』(47.4%)ではほぼ半数の人が知っているのに対して、『多少関心がある』(35.0%)、『あまり関心はない』(26.1%)、『全く関心はない』(0.0%)と関心が低くなるほど、割合が低くなっている。



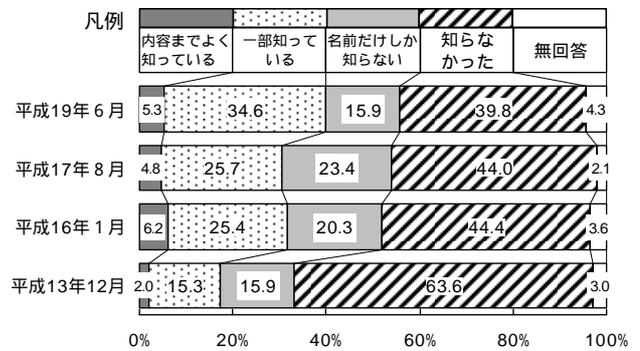
木造住宅建築時期別でみると、「内容までよく知っている」と「一部知っている」と答えた人を合わせると、『昭和56年5月以前』（44.7%）と『昭和56年6月以降』（40.5%）では、4.2ポイントの差が見られる。

### プロジェクト“TOUKAI-0”の認知率 ＜木造住宅建築時期別＞



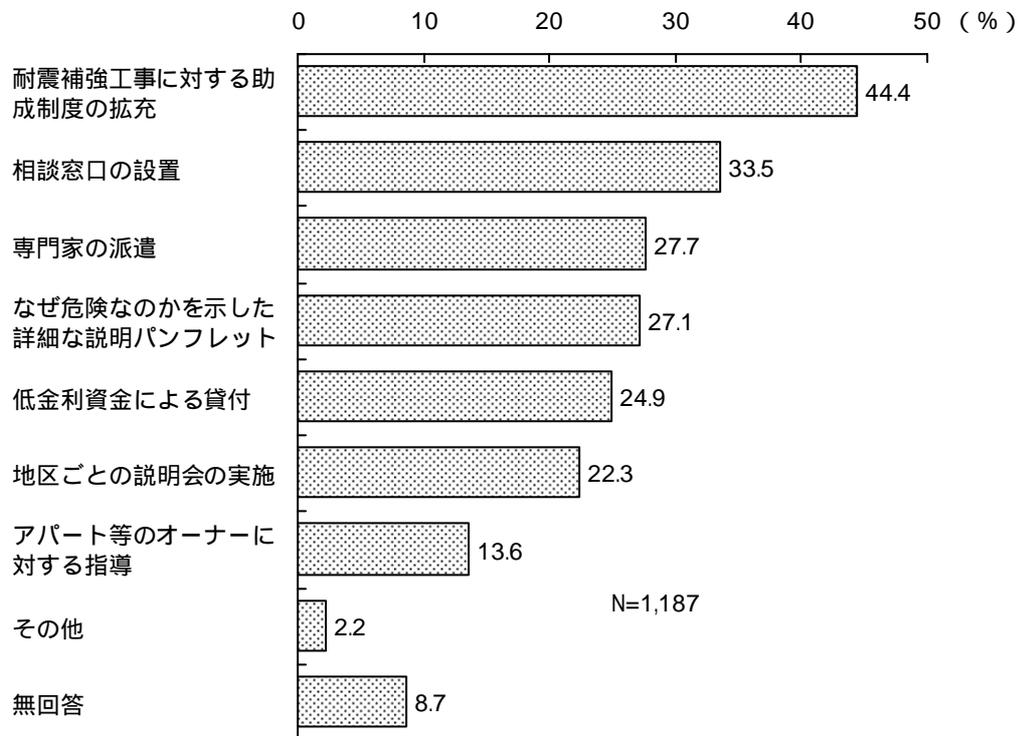
経年比較でみると、「一部知っている」が今回調査（34.6%）は、前回調査（25.7%）より8.9ポイント増加しており、「知らなかった」が今回調査（39.8%）は、前回調査（44.0%）より4.2ポイント減少している。

### ＜経年比較＞



この調査項目は平成13年度調査から設定した。

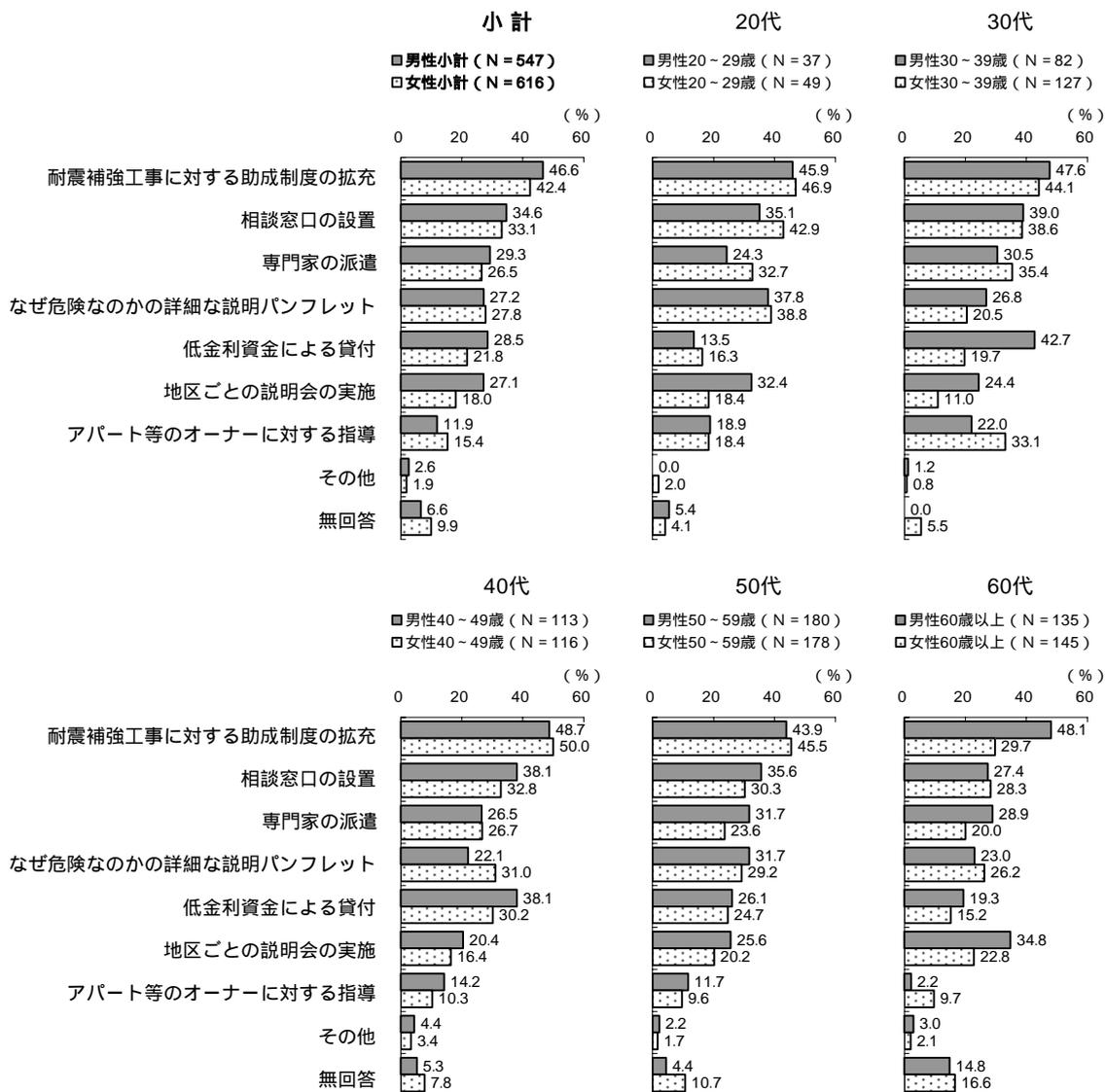
問 14 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。(M.A.)



耐震化に対する行政への要望については、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(44.4%)が最も高く、次いで「相談窓口の設置」(33.5%)、「専門家の派遣」(27.7%)の順となっている。

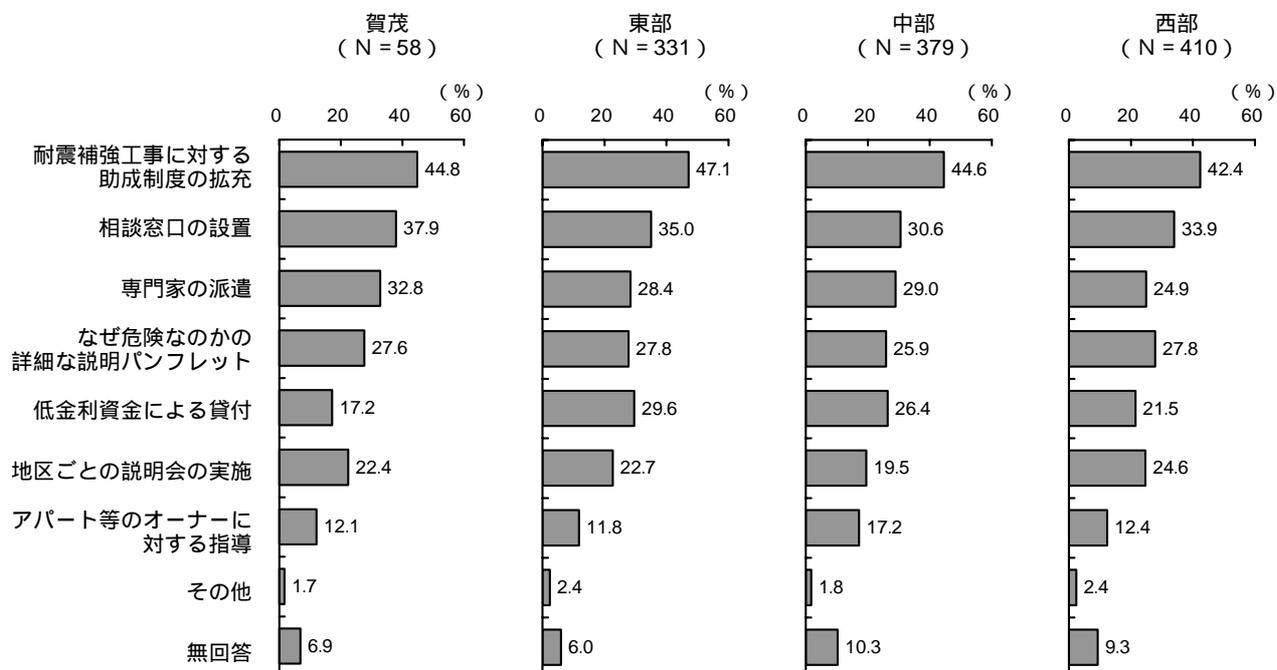
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が最も高くなっている。「低金利資金による貸付」は、特に『男性 30 代』（42.7%）、『男性 40 代』（38.1%）で高くなっている。「地区ごとの説明会の実施」は、男性が女性より高くなっており、特に『男性 60 代』（34.8%）、『男性 20 代』（32.4%）で高くなっている。

### 耐震化に対する行政への要望 < 性・年代別 >



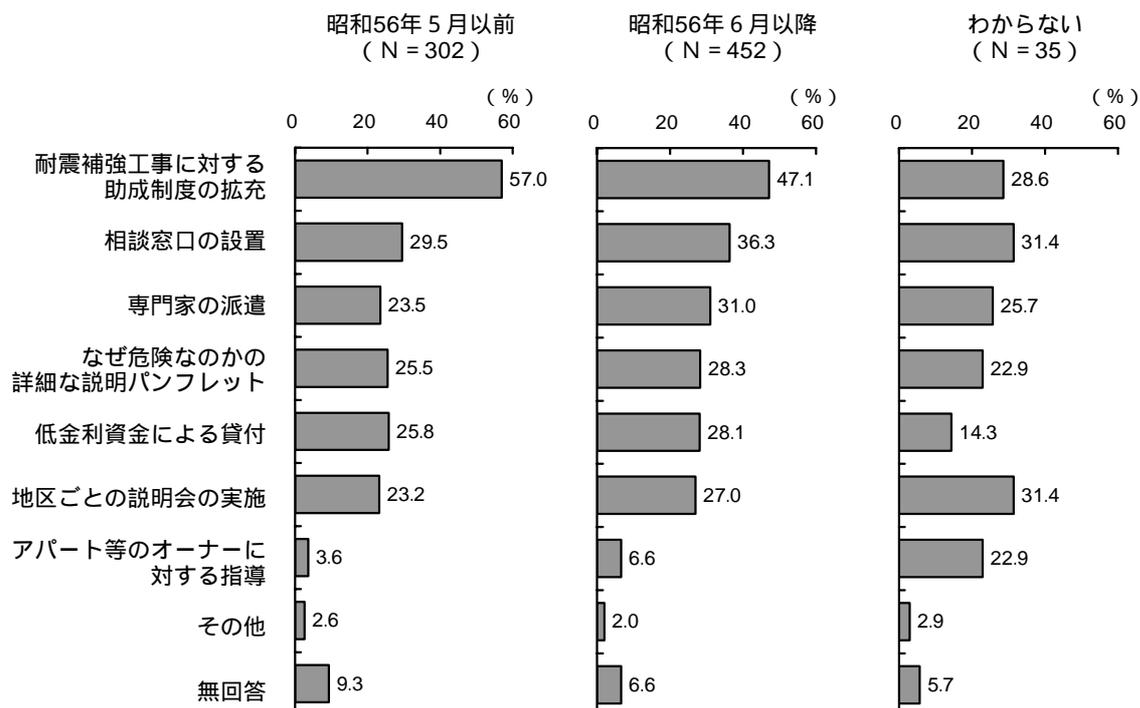
地域別でみると、いずれの地域においても「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が最も高くなっている。「相談窓口の設置」は、最も高い『賀茂』（37.9%）と最も低い『中部』（30.6%）では、7.3ポイントの差が見られる。「低金利資金による貸付」は、最も高い『東部』（29.6%）と最も低い『賀茂』（17.2%）では、12.4ポイントの差が見られる。

### 耐震化に対する行政への要望 <地域別>



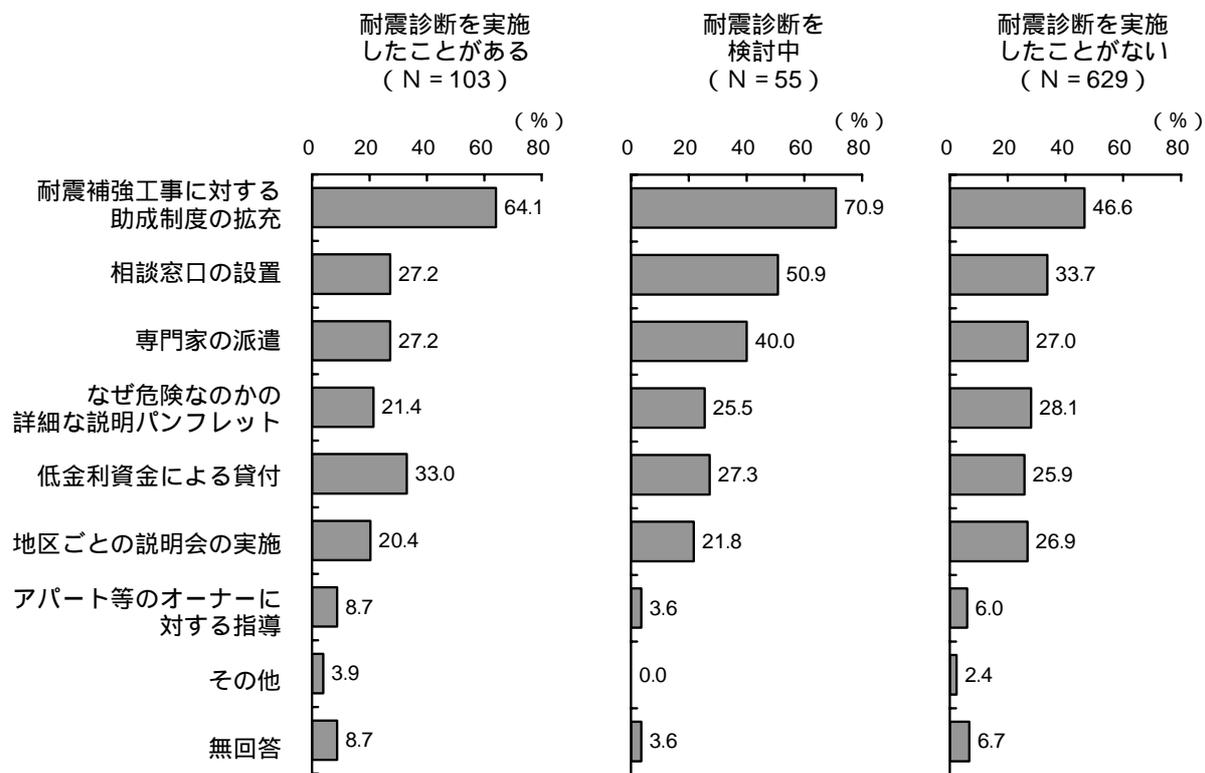
木造住宅建築時期別でみると、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」について、最も高い『昭和56年5月以前』（57.0%）と最も低い『わからない』（28.6%）では、28.4ポイントの差が見られる。また、「アパート等のオーナーに対する指導」が『わからない』（22.9%）で高くなっている。

### 耐震化に対する行政への要望 <木造住宅建築時期別>



耐震診断実施別で見ると、耐震診断実施の有無に関わらず「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が最も高くなっている。「相談窓口の設置」は、『耐震診断を検討中』（50.9%）では、『耐震診断を実施したことがない』（33.7%）、『耐震診断を実施したことがある』（27.2%）よりも高い割合となっている。また、「専門家の派遣」も、『耐震診断を検討中』（40.0%）では、やや高めとなっている。

### 耐震化に対する行政への要望 <耐震診断実施別>



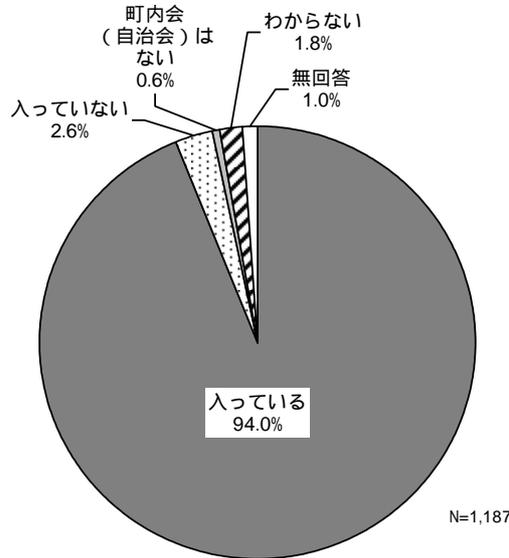


## 4 自主防災組織・防災訓練について

### 4 - 1

### 町内会への加入

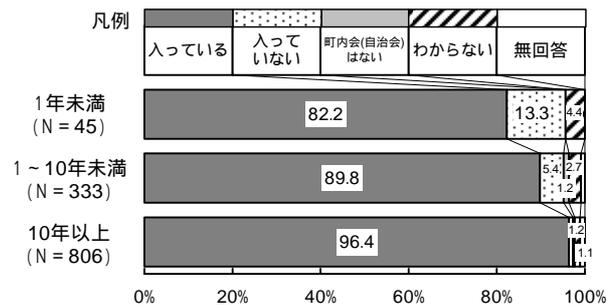
問 15 あなたのお宅は、町内会（自治会）に入っていますか。



町内会（自治会）への加入についてたずねたところ、「入っている」（94.0%）が大半を占め、「入っていない」（2.6%）、「町内会（自治会）はない」（0.6%）、「わからない」（1.8%）となっている。

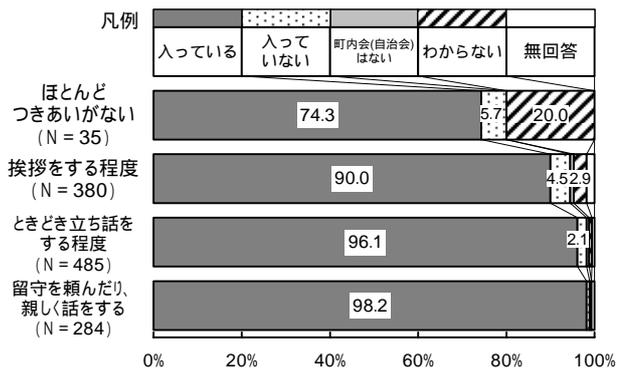
居住年数別でみると、「入っている」と回答した人は、『10年以上』が96.4%であるのに対し、『1～10年未満』は89.8%、『1年未満』82.2%となっている。

#### 町内会への加入 <居住年数別>

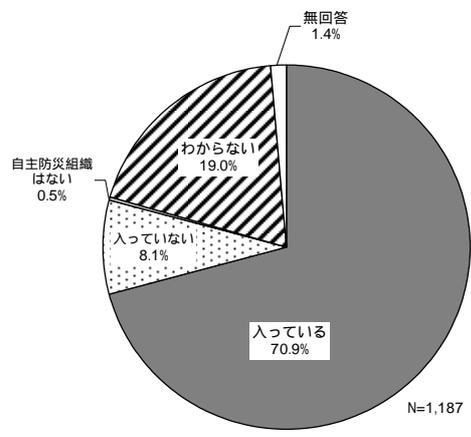


#### <近所づきあいの程度別>

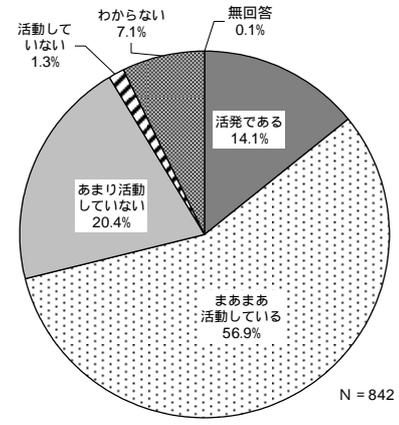
近所づきあいの程度別でみると、「入っている」と回答した人は『ほとんどつきあがない』（74.3%）が低くなっているが、それ以外では9割以上となっている。最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（98.2%）と比較すると、23.9ポイントの差が見られる。



問 16 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



問 16 - 1 <問 16 で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。> あなたの地区の自主防災組織の活動は活発ですか。

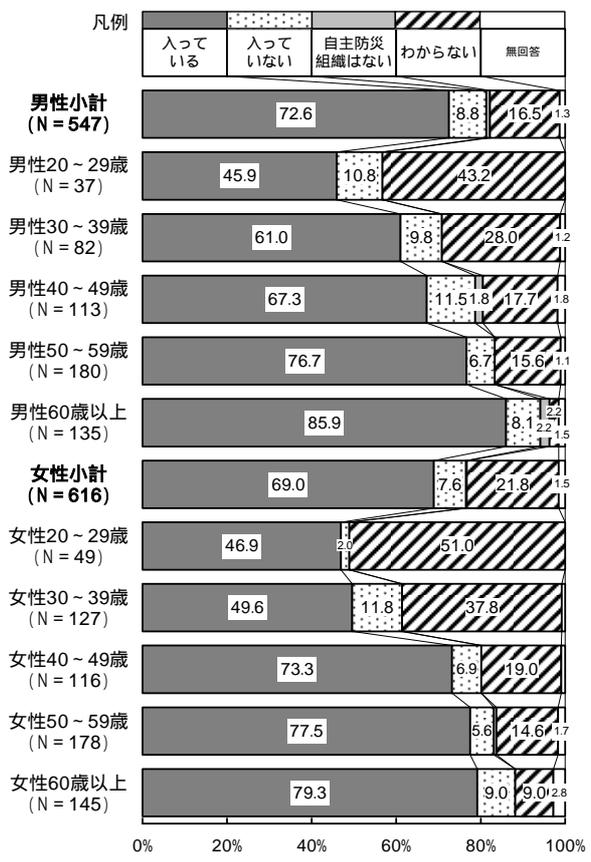


自主防災組織への加入についてたずねたところ、「入っている」(70.9%)が最も高く、次いで「わからない」(19.0%)、「入っていない」(8.1%)、「自主防災組織はない」(0.5%)の順となっている。

また、自主防災組織に「入っている」と回答した人に自主防災組織の活動状況についてたずねたところ、「まあまあ活動している」(56.9%)が最も高く、次いで「あまり活動していない」(20.4%)、「活発である」(14.1%)、「わからない」(7.1%)、「活動していない」(1.3%)の順となっている。「活発である」と「まあまあ活動している」を合わせると71.0%となる。

性・年代別でみると、男女ともに年代が上がるほど「入っている」が高くなっており、特に『男性 60 歳以上』(85.9%)では、9 割近くになっている。また、「わからない」は年代が若いほど高くなる傾向が見られる。

自主防災組織への加入状況 <性・年代別>



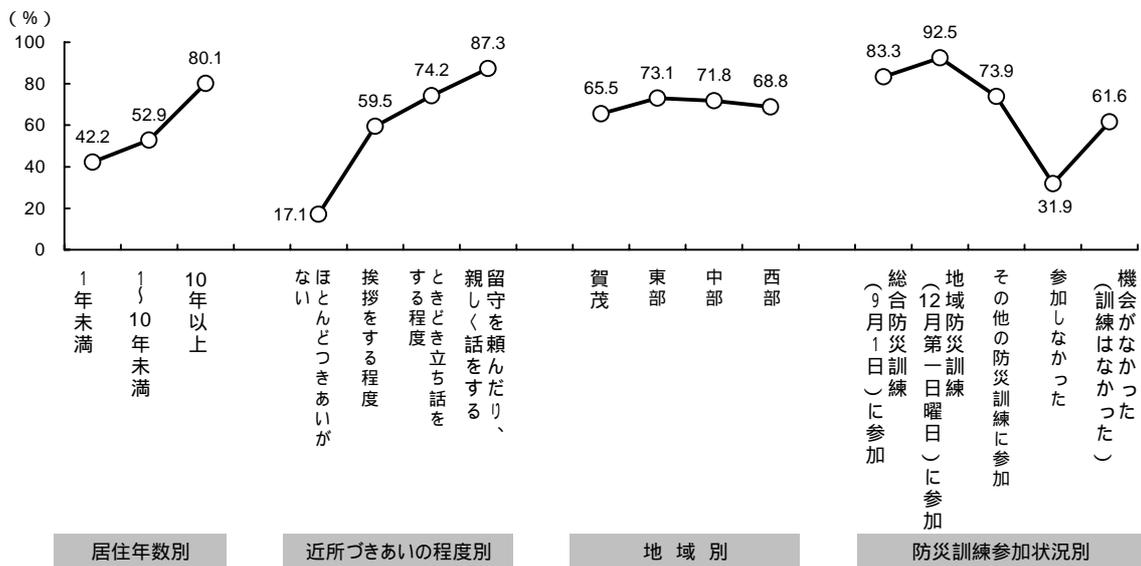
自主防災組織への加入率を属性別でみると、**居住年数別**では、年数が長くなるにつれて加入が高くなっており、『10年以上』（80.1%）と、『1年未満』（42.2%）では、37.9ポイントの差が見られる。

**近所づきあいの程度別**では、親しくなるほど加入率は高くなっており、『留守を頼んだり、親しく話をする』（87.3%）と、最も低い『ほとんどつきあいがいい』（17.1%）では、70.2ポイントの差が見られる。

**地域別**では、いずれの地域も6割後半から7割前半となっており、地域差は見られない。

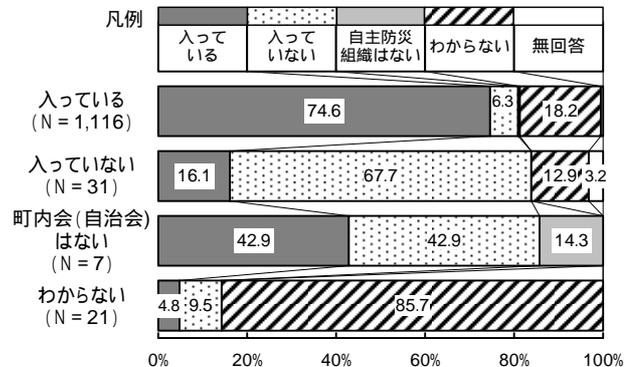
**防災訓練参加状況別**では、『地域防災訓練に参加した』（92.5%）が最も高く、次いで『総合防災訓練に参加した』（83.3%）、『その他防災訓練に参加した』（73.9%）となっている。一方、訓練に『参加しなかった』は、31.9%となっており、いずれかの訓練に参加した人と比較すると、その差は大きくなっている。

自主防災組織への加入率 <属性別>



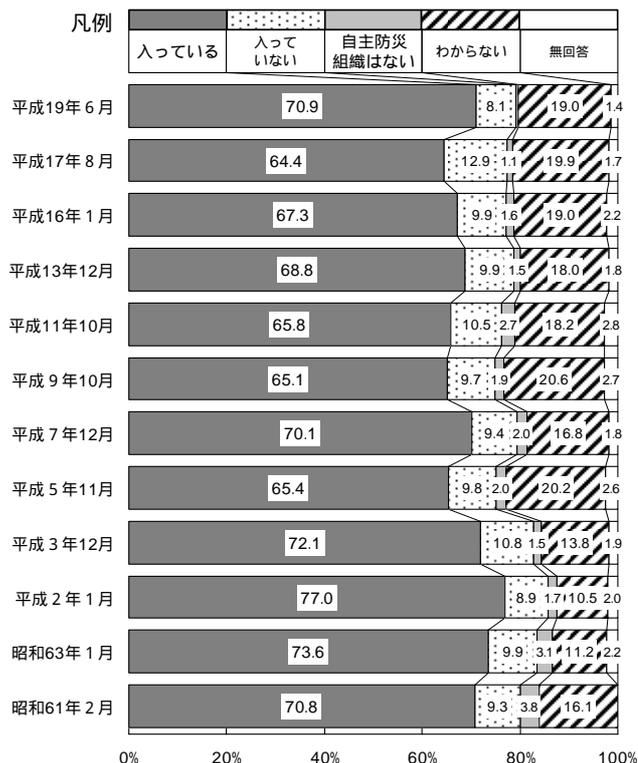
自主防災組織への加入状況を町内会への加入別でみると、町内会に『入っている』人は、自主防災組織へ「入っている」人(74.6%)が多く、町内会に『入っていない』人で自主防災組織へ「入っている」人(16.1%)とは、58.5ポイントの差が見られる。

自主防災組織への加入状況 <町内会への加入別>



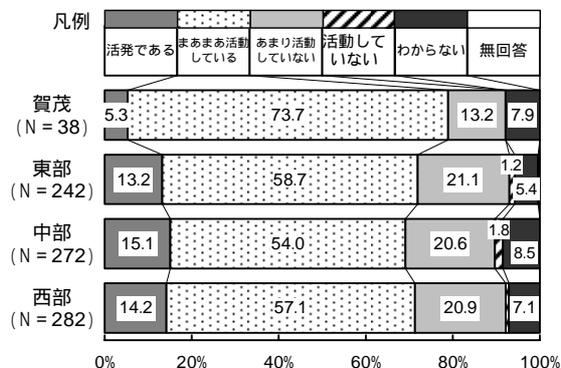
経年比較でみると、平成2年1月で「入っている」(77.0%)が最も高くなっており、以降は6割後半を推移している。今回調査(70.9%)は、前回調査(64.4%)より6.5ポイント上回っている。

### 自主防災組織への加入状況 <経年比較>



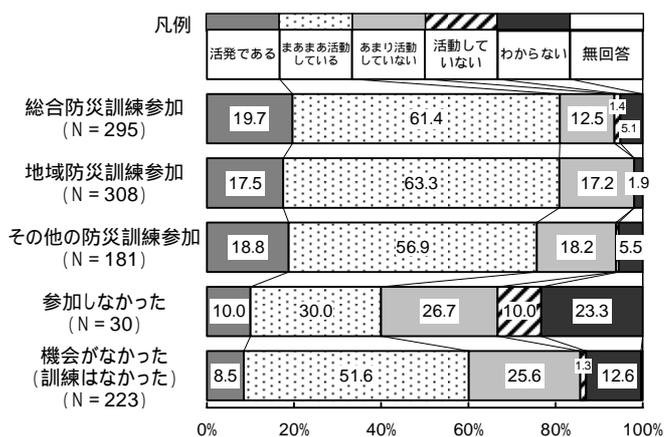
自主防災組織の活動状況を地域別でみると、いずれの地域においても「まあまあ活動している」が最も高くなっている。

### 自主防災組織の活動状況 <地域別>



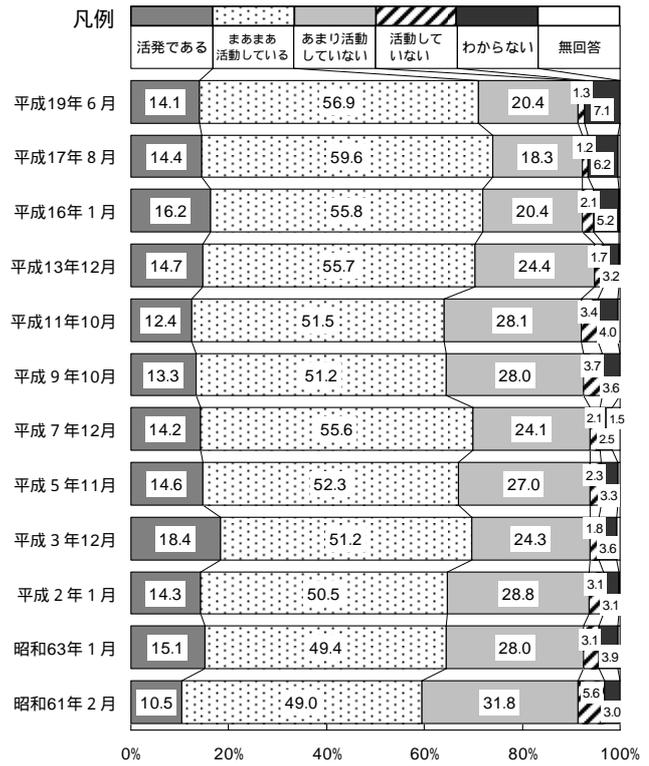
防災訓練参加状況別でみると、いずれの参加状況においても「まあまあ活動している」が最も高くなっているが、『参加しなかった』では、「活発である」(10.0%)と「まあまあ活動している」(30.0%)が他と比較すると低くなっている。

### 自主防災組織の活動状況 <防災訓練参加状況別>

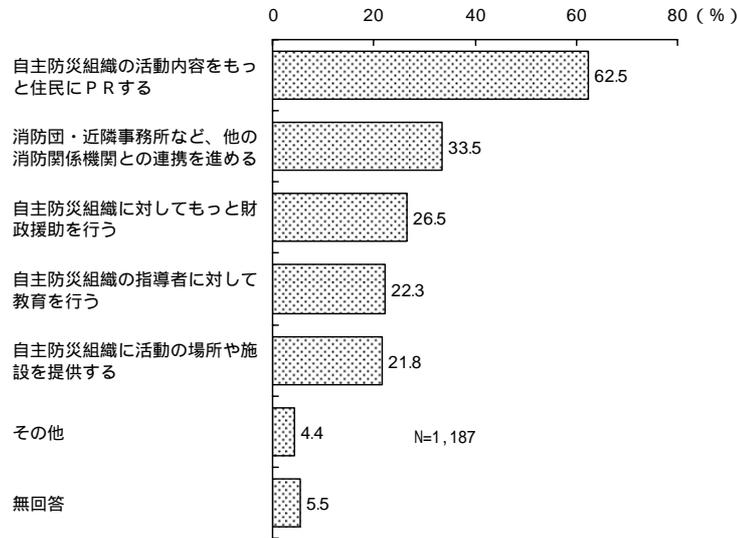


### 自主防災組織の活動状況 < 経年比較 >

自主防災組織の活動状況を**経年比較**で見ると、「活発である」と「まあまあ活動している」を合わせた値は、今回調査では71.0%となっており、前回調査の74.0%より3.0ポイント減少している。

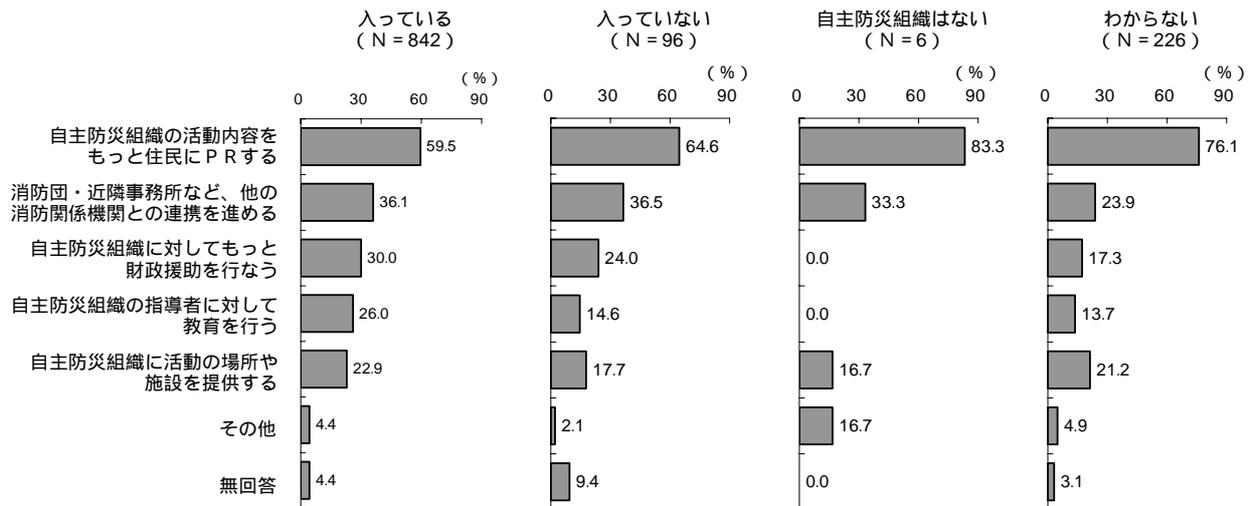


問 17 自主防災組織の活動をさらに高めるには、県や市町はどのようにすればよいと思いますか。  
( M . A . )



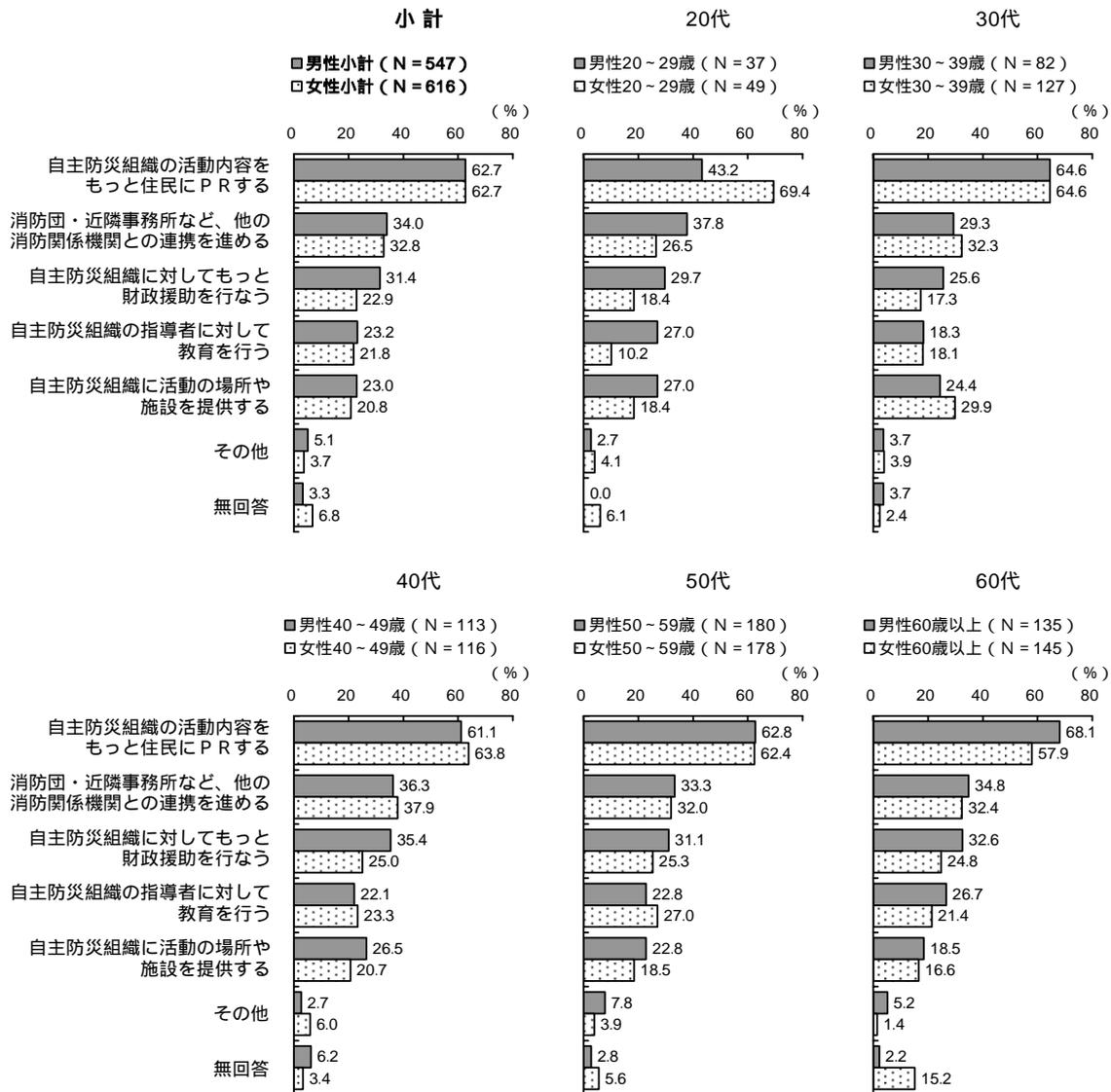
自主防災組織の活性化のための方策についてたずねたところ、「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」(62.5%)が最も高く6割以上となっており、次いで「消防団・近隣事務所など、他の消防関係機関との連携を進める」(33.5%)、「自主防災組織に対してもっと財政援助を行う」(26.5%)の順となっている。

自主防災組織加入別で見ると、いずれにおいても「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」が最も高くなっている。

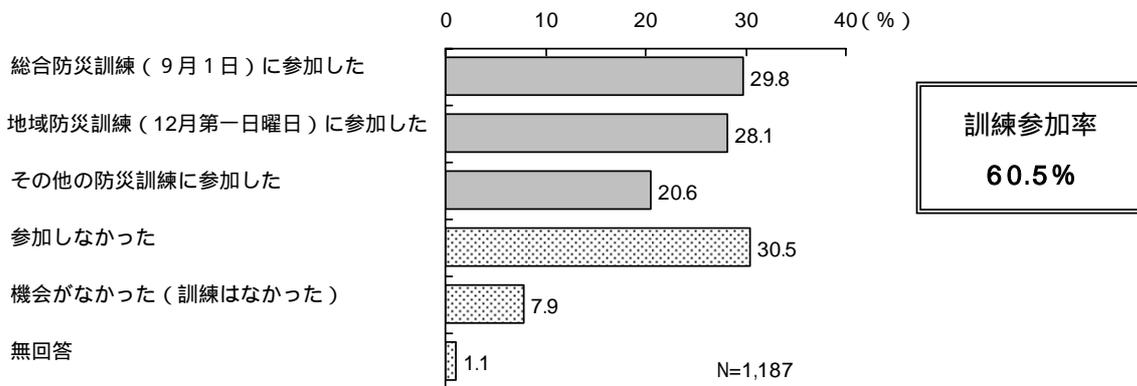


性・年代別でみると、いずれの年代においても「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」が最も高くなっており、殆どの年代において、性別による差は見られないが、『20代』は、大きな差が見られ、『女性20代』（69.4%）と『男性20代』（43.2%）では、26.2ポイントの差が見られる。

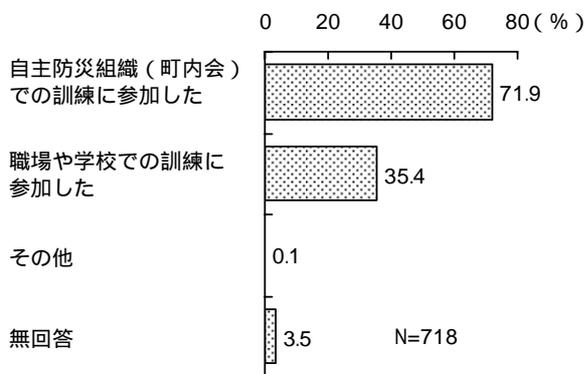
### 自主防災組織の活性化のための方策 <性・年代別>



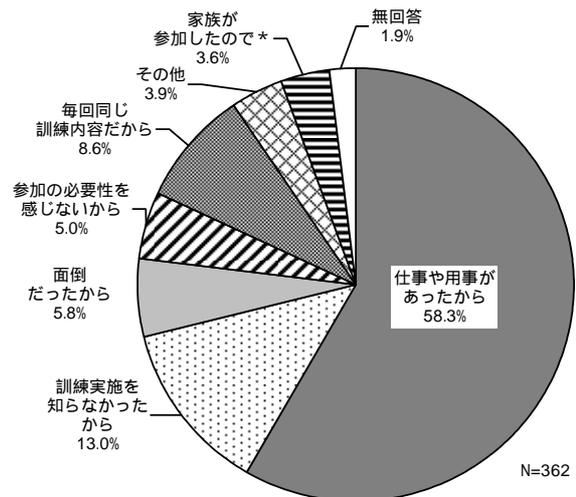
問 18 あなたは、過去 1 年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。  
( M . A . )



問 18 - 1 <問 18 で「 1 総合防災訓練(9月1日)に参加した」「 2 地域防災訓練 (12月第一日曜日)に参加した」「 3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。 >  
その防災訓練はどちらで参加しましたか。( M . A . )



問 18 - 2 <問 18 で「 4 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。 >  
参加しなかった理由は何ですか。



\* 「その他」の具体的記入欄に多く挙げられた回答内容

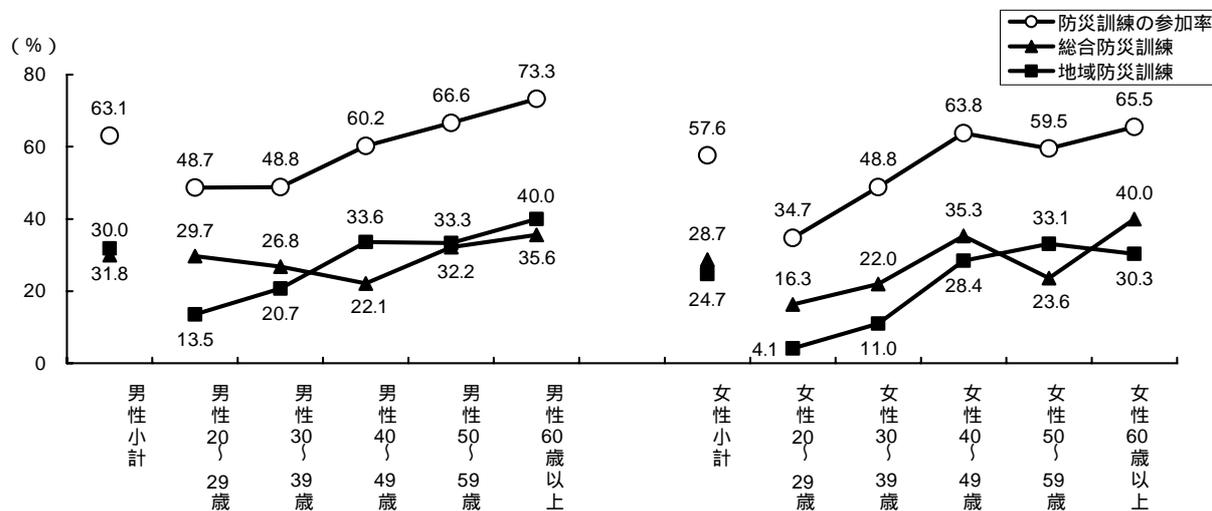
過去 1 年間の地震防災訓練参加状況についてたずねたところ、「参加しなかった」(30.5%)が最も高く、次いで、「総合防災訓練(9月1日)に参加した」(29.8%)、「地域防災訓練(12月第一日曜日)に参加した」(28.1%)、「その他の防災訓練に参加した」(20.6%)「機会がなかった(訓練はなかった)」(7.9%)の順となっており、いずれかの訓練に参加した人は60.5%となっている。

また、問 18 で地震防災訓練に参加したと回答した人の参加形態については、「自主防災組織(町内会)での訓練に参加した」(71.9%)が最も高く、次いで「職場や学校での訓練に参加した」(35.4%)となっている。

一方、問 18 で地震防災訓練に「参加しなかった」と回答した人の理由は、「仕事や用事があったから」(58.3%)が最も高く約 6 割を占めており、次いで「訓練実施を知らなかったから」(13.0%)、「毎回同じ訓練内容だから」(8.6%)、「面倒だったから」(5.8%)の順となっている。

地震防災訓練の参加率を性別でみると、『男性』（63.1%）と『女性』（57.6%）では、『男性』の訓練参加率が5.5ポイント高くなっている。また、性・年代別でみると、最も高い『男性60歳以上』（73.3%）と、最も低い『女性20代』（34.7%）では、38.6ポイントの差が見られる。さらに、参加した防災訓練の種類についてみると、『女性20代』では「地域防災訓練」（4.1%）への参加が、他の性・年代と比べ特に低くなっている。

地震防災訓練の参加率と訓練別の参加率 <性・年代別>

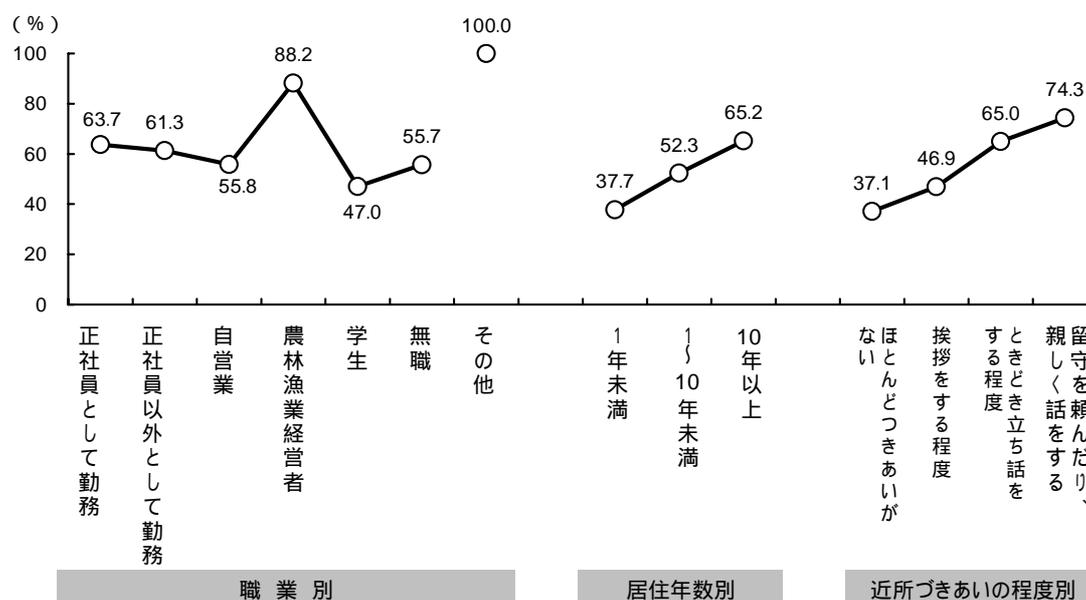


地震防災訓練の参加率を属性別でみると、職業別では、『学生』（47.0%）を除いたいずれの職業でも参加率は半数以上となっており、なかでも『農林漁業経営者』（88.2%）が最も高く、次いで『正社員として勤務』（63.7%）となっている。

居住年数別では、居住年数が長くなるにつれて参加率は高くなっており、『10年以上』（65.2%）と『1年未満』（37.7%）では、27.5ポイントの差が見られる。

近所づきあいの程度別では、親しくなるほど参加率は高く、『留守を頼んだり、親しく話をする』（74.3%）と『ほとんどつきあいがいい』（37.1%）では、37.2ポイントの差が見られる。

地震防災訓練の参加率 <属性別>



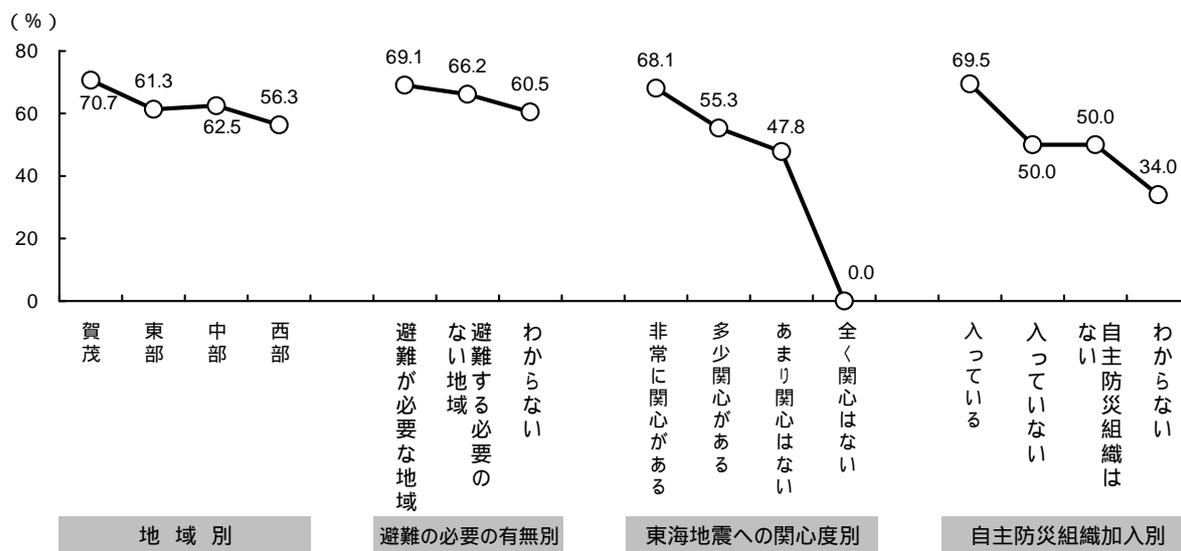
地震防災訓練の参加率を属性別で見ると、**地域別**では、最も高い『賀茂』（70.7%）と最も低い『西部』（56.3%）では、14.4ポイントの差が見られる。

**避難該当地域であるかの認知状況別**では、『わからない』（60.5%）がやや低くなっている。

**東海地震への関心度別**では、『非常に関心がある』（68.1%）が最も高くなっている。

**自主防災組織加入別**では、『入っている』（69.5%）の参加率が高く、『わからない』（34.0%）は低くなっている。

地震防災訓練の参加率 <属性別>



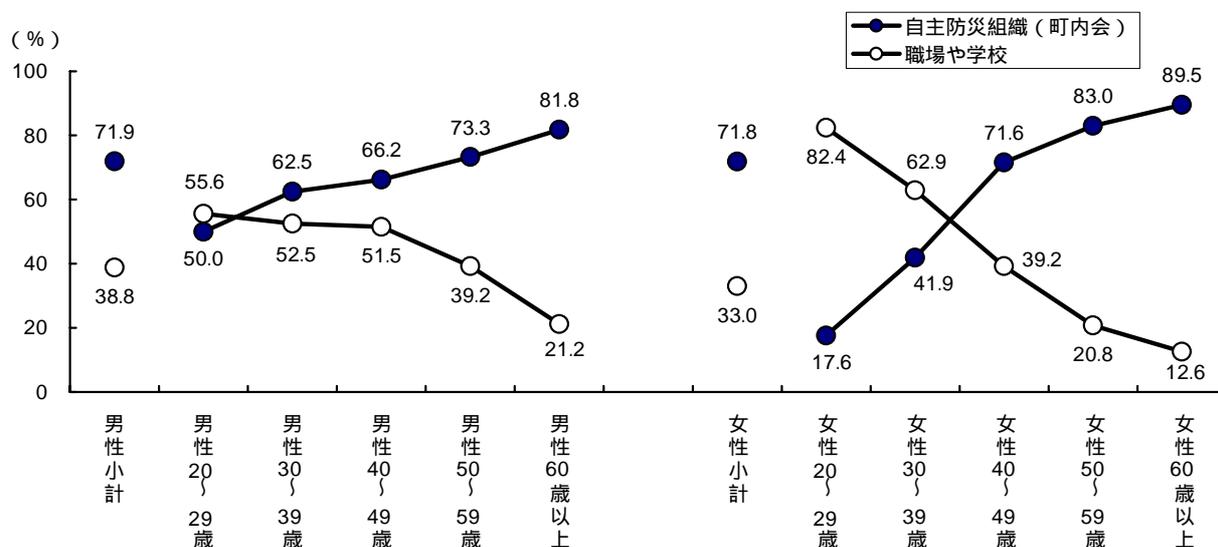
**経年比較**で見ると、いずれの年度でも「参加した」が6割前後を占めており、今回の調査（60.5%）も同様である。「機会がなかった（訓練はなかった）」（7.9%）は、前回調査（10.4%）より2.5ポイント減少している。

地震防災訓練の参加率 <経年比較>



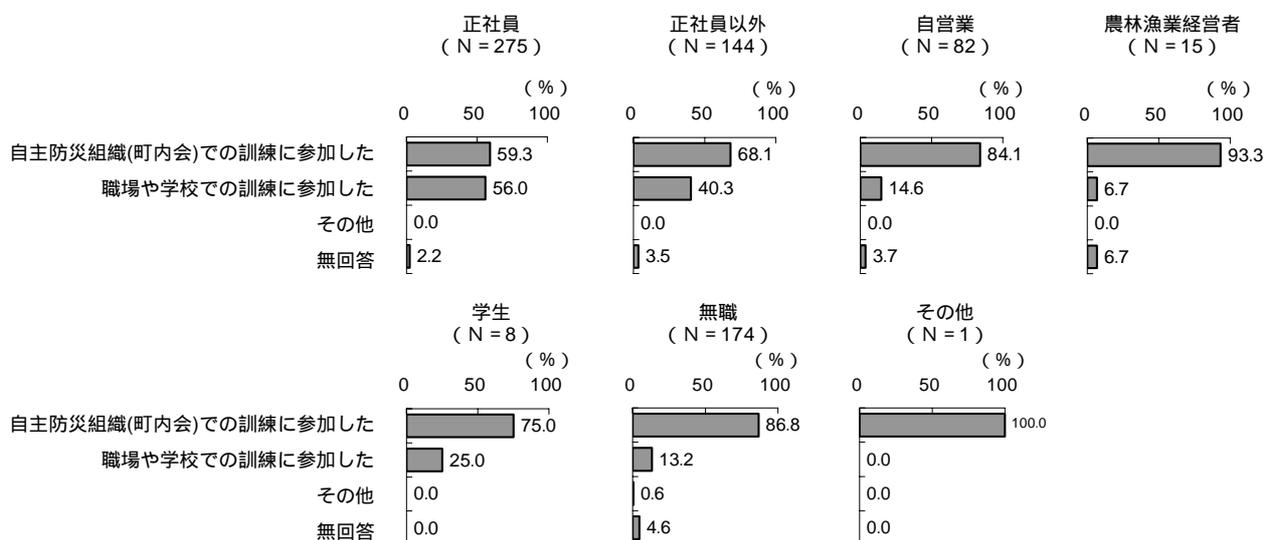
地震防災訓練の参加形態について、性・年代別でみると、男女ともに年代が上がるほど「自主防災組織（町内会）」での参加率は高くなり、「職場や学校」での参加率は低くなっている。

地震防災訓練の参加形態 <性・年代別>



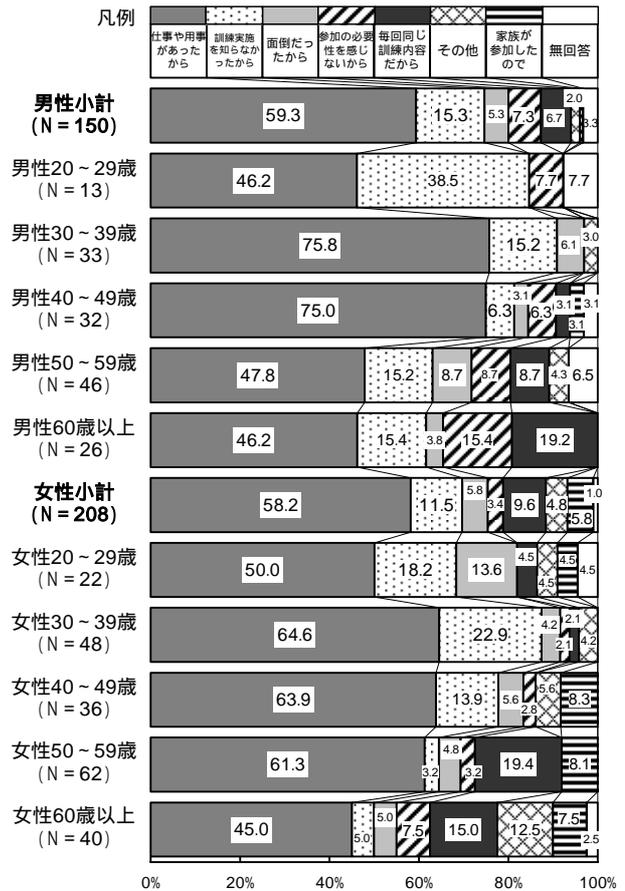
職業別でみると、すべての職業において、「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」が最も高くなっている。また、『正社員』は「職場や学校での訓練に参加した」（56.0%）が他の職業よりも高くなっている。

<職業別>



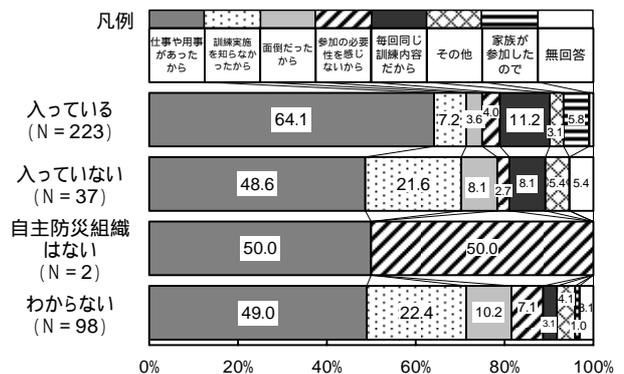
地震防災訓練へ参加しなかった理由について、性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「仕事や用事があったから」が最も高くなっており、特に『男性30代』（75.8%）、『男性40代』（75.0%）で割合が高くなっている。また、「訓練実施を知らなかったから」は、『男性20代』（38.5%）が他の性・年代と比較すると高くなっている。

### 地震防災訓練への不参加理由 <性・年代別>



自主防災組織加入別でみると、自主防災組織に『入っている』人では、「仕事や用事があったから」（64.1%）が高くなっている。また、「訓練実施を知らなかったから」と回答した人は、自主防災組織に『入っていない』（21.6%）と『わからない』（22.4%）がやや高くなっている。

### 地震防災訓練への不参加理由 <自主防災組織加入別>



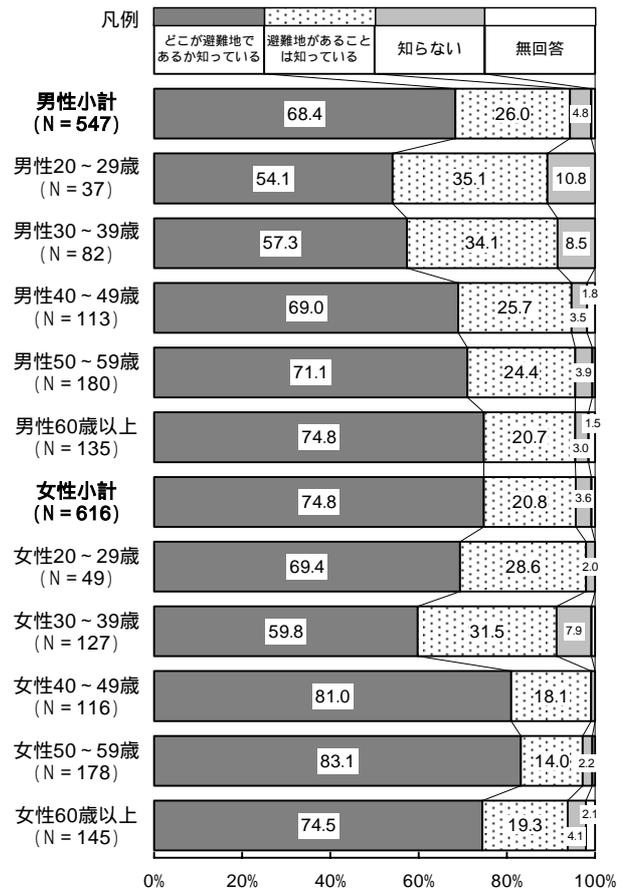
問 19 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、東海地震が起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたはそのことをご存知ですか。



市町の指定避難地の認知については、「どこが避難地であるか知っている」(72.0%)で7割以上の方が認知している。次いで「避難地があることは知っている」(23.0%)、「知らない」(4.0%)の順となっている。

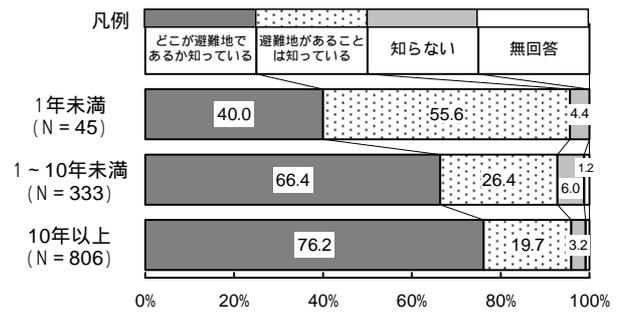
性・年代別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、『60歳以上』を除いて、『女性』が『男性』より高くなっている。最も高い『女性50代』(83.1%)と最も低い『男性20代』(54.1%)では、29.0ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 <性・年代別>



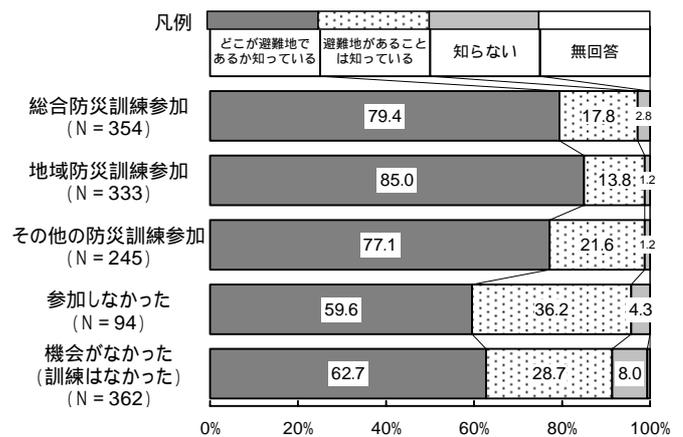
指定避難地の認知について**居住年数別**で見ると、居住年数が長くなるにつれて「どこが避難地であるか知っている」が高くなっている。最も高い『10年以上』（76.2%）と最も低い『1年未満』（40.0%）では、36.2ポイントの差が見られる。

### 指定避難地の認知 < 居住年数別 >



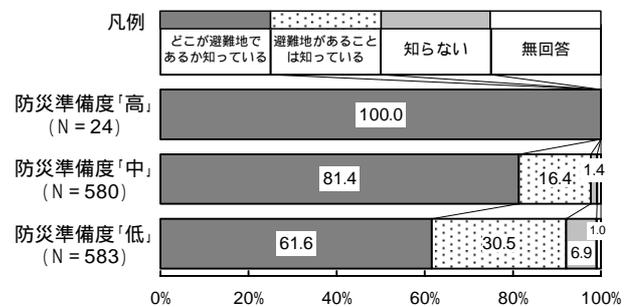
**防災訓練参加状況別**で見ると、「どこが避難地であるか知っている」は、いずれかの防災訓練に参加している人において高くなっている。最も高い「地域防災訓練参加」(85.0%)と最も低い「参加しなかった」(59.6%)では、25.4ポイントの差が見られる。

### < 防災訓練参加状況別 >



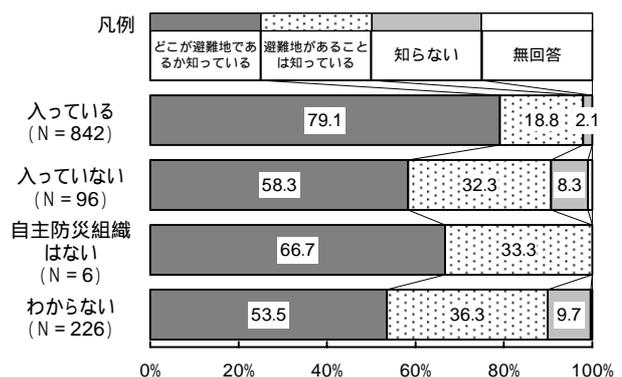
**防災準備度別**で見ると、『防災準備度「高」』では「どこが避難地であるか知っている」と回答した人は100.0%となっている。

### < 防災準備度別 >

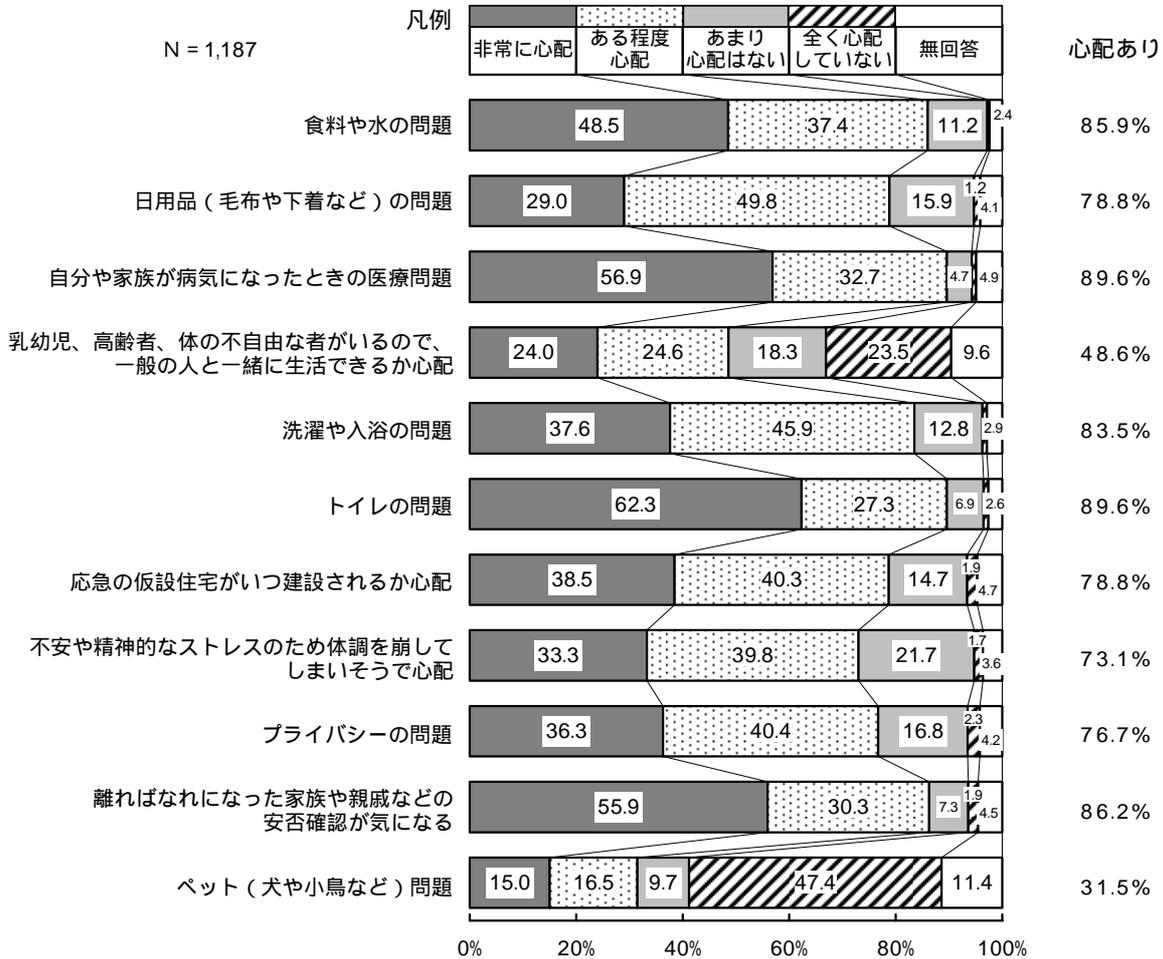


**自主防災組織加入別**で見ると、「どこが避難地であるか知っている」は、自主防災組織に『入っている』(79.1%)と『入っていない』(58.3%)では、20.8ポイントの差が見られる。

### < 自主防災組織加入別 >



問 20 あなたは避難地で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1～11について、あてはまる項目に をつけてください。



避難所で避難生活を送る場合の心配ごとで「非常に心配」との回答については、「トイレの問題」（62.3%）、「自分や家族が病気になったときの医療問題」（56.9%）、「離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる」（55.9%）の3つが過半数となっている。また、心配ありと答えた項目（「非常に心配」と「ある程度心配」と答えた人を合わせた項目）の上位5項目をみると、「トイレの問題」（89.6%）と「自分や家族が病気になったときの医療問題」（89.6%）が最も高く、次いで、「離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる」（86.2%）、「食料や水の問題」（85.9%）、「洗濯や入浴の問題」（83.5%）の順となっており、いずれも8割以上となっている。

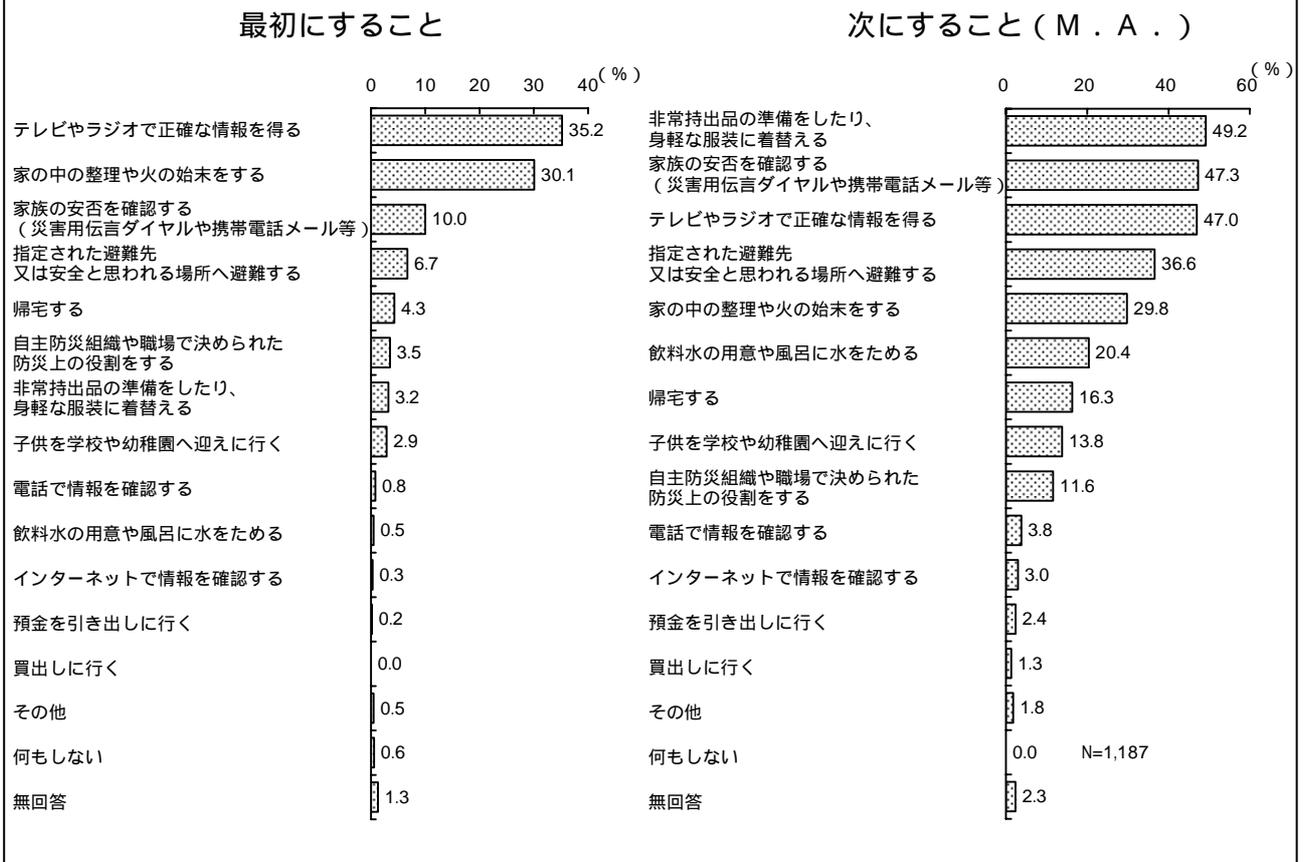


## 5 東海地震が突然発生したときの行動について

### 5 - 1

### 突然地震が発生したときの行動

問 21 平日の午前 11 時頃に突然地震が起こった場合、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から 1 つ選び、A 欄に をつけてください。また、その次にすることを 3 つ選んで B 欄に をつけてください。

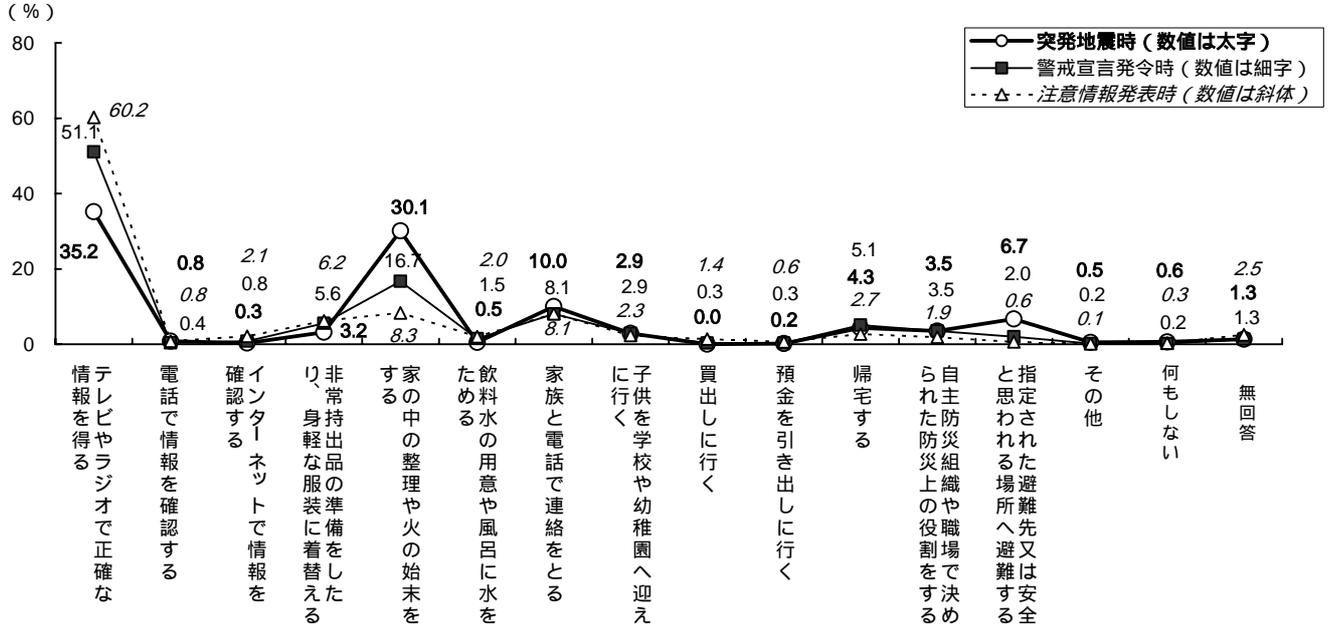


突然地震が発生したときに、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(35.2%)が最も高くなっており、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(30.1%)で、この2つが主な行動となっている。

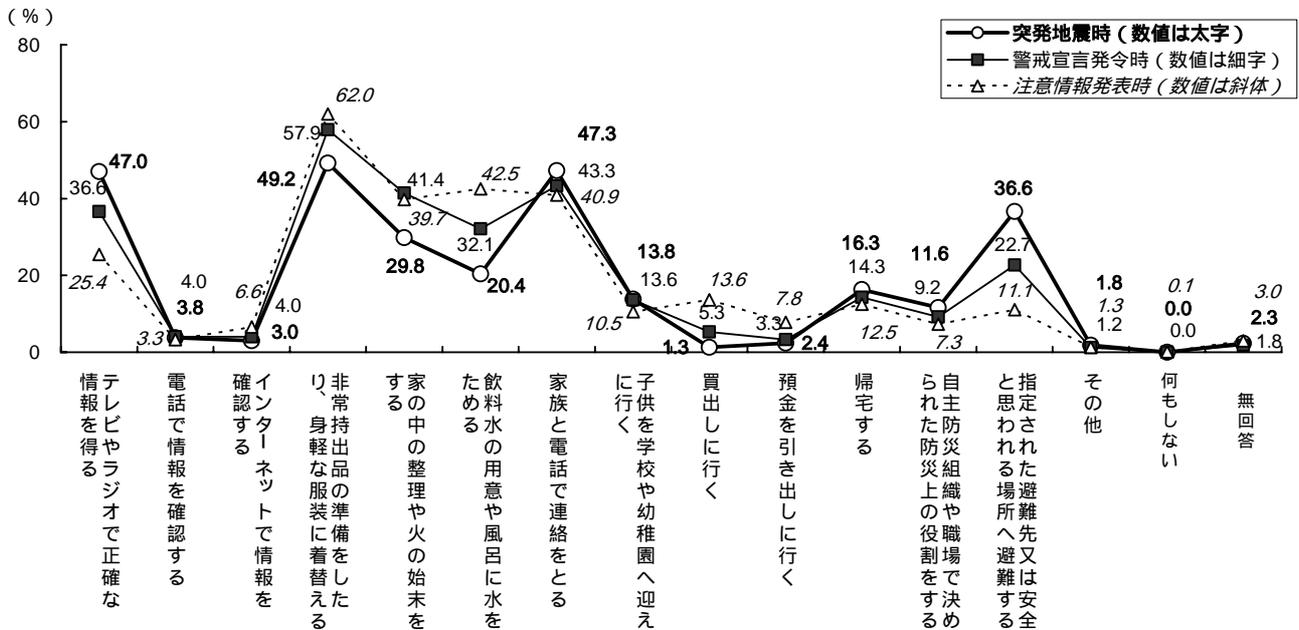
次にすることについては、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(49.2%)が最も高く、次いで「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(47.3%)、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(47.0%)、「指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する」(36.6%)の順となっており、以上が3割以上となっている。

# 突発地震時 警戒宣言発令時 注意情報発表時の行動比較

## 最初にする行動

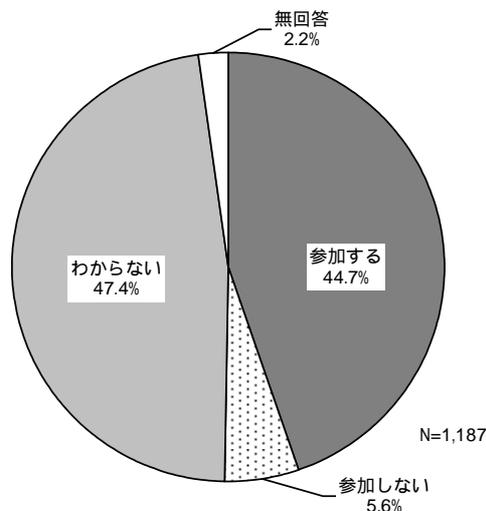


## 次にする行動



警戒宣言発令時の行動は問 25 にて、注意情報発表時の行動は問 30 にて調査した項目

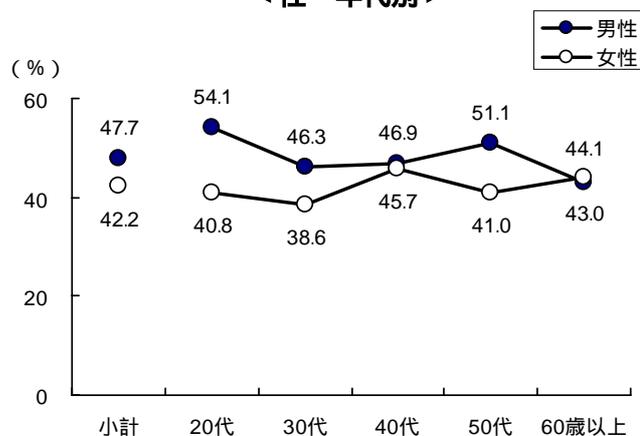
問 22 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に防災活動に参加しますか。



地震発生後の防災活動については、「わからない」（47.4%）という人が約半数で、次いで「参加する」（44.7%）、「参加しない」（5.6%）の順となっている。

地震発生後の防災活動「参加する」  
＜性・年代別＞

地震発生後の防災活動へ「参加する」の割合を性・年代別で見ると、『男性』が47.7%、『女性』が42.2%となっており、年代別においても『60歳以上』を除いて『男性』が『女性』よりも高くなっている。特に『20代』で13.3ポイント、『50代』で10.1ポイントの差が見られる。また、「参加する」と答えた率が最も高いのは、『男性20代』（54.1%）で、最も低いのは、『女性30代』（38.6%）となっており、15.5ポイントの差が見られる。



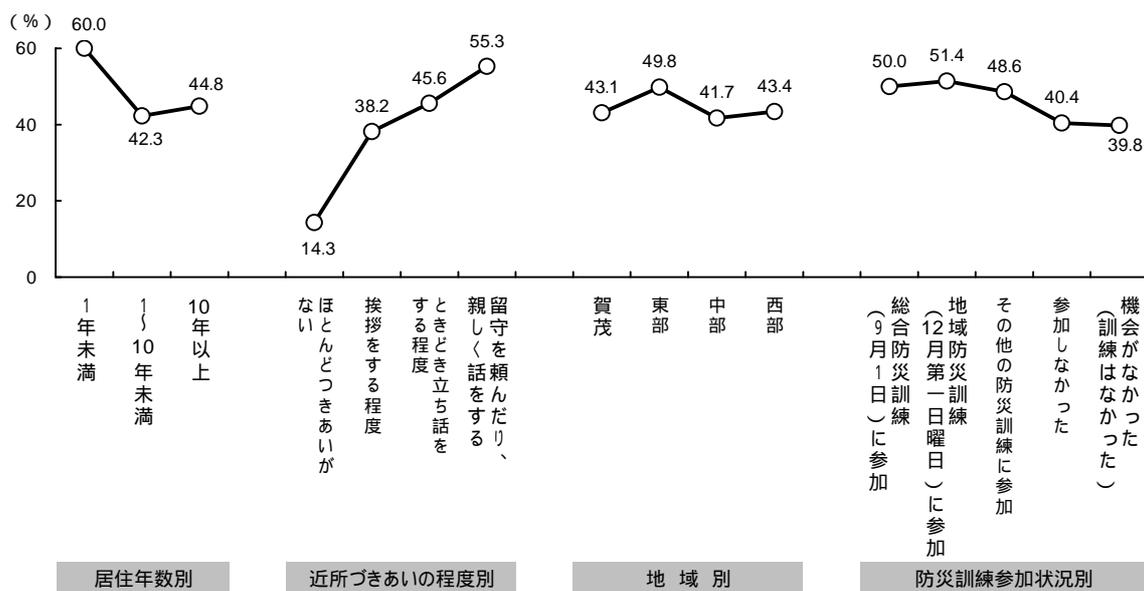
地震発生後の防災活動へ「参加する」意向の割合を属性別にみると、**居住年数別**では、『1年未満』(60.0%)が最も高くなっている。

**近所づきあいの程度別**では、親しくなるほど参加意向は高くなっており、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』(55.3%)と最も低い『ほとんどつきあいが無い』(14.3%)では、41.0ポイントの差が見られる。

**地域別**では、『東部』(49.8%)が最も高くなっているが、他の地域も4割前半で地域による大きな差は見られない。

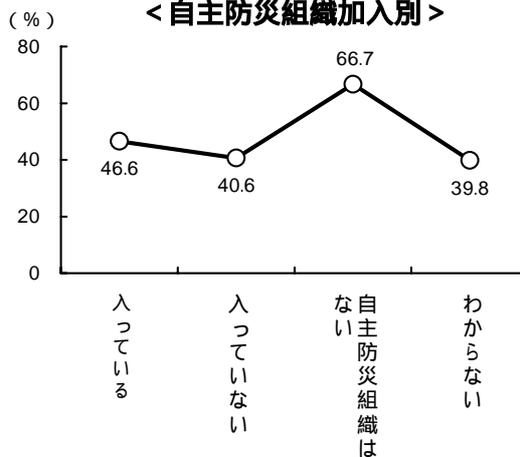
**防災訓練参加状況別**では、最も高い『地域防災訓練に参加した』(51.4%)と最も低い『機会がなかった(訓練はなかった)』(39.8%)では、11.6ポイントの差が見られる。

地震発生後の防災活動「参加する」 <属性別>

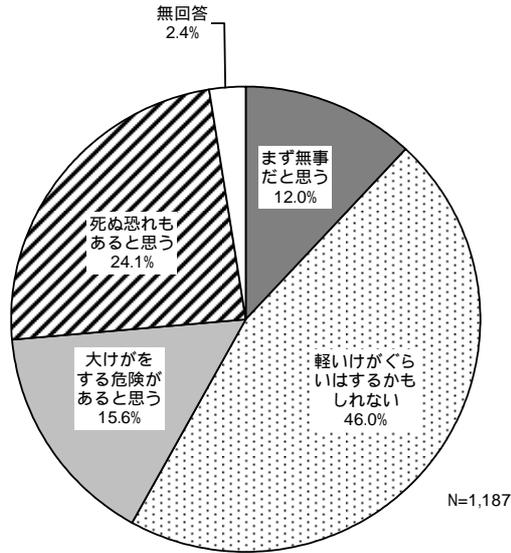


**自主防災組織加入別**でみると、『自主防災組織はない』(66.7%)で最も高くなっている。また、自主防災組織に『入っている』(46.6%)と『入っていない』(40.6%)では、6.0ポイントの差が見られる。

地震発生後の防災活動「参加する」 <自主防災組織加入別>



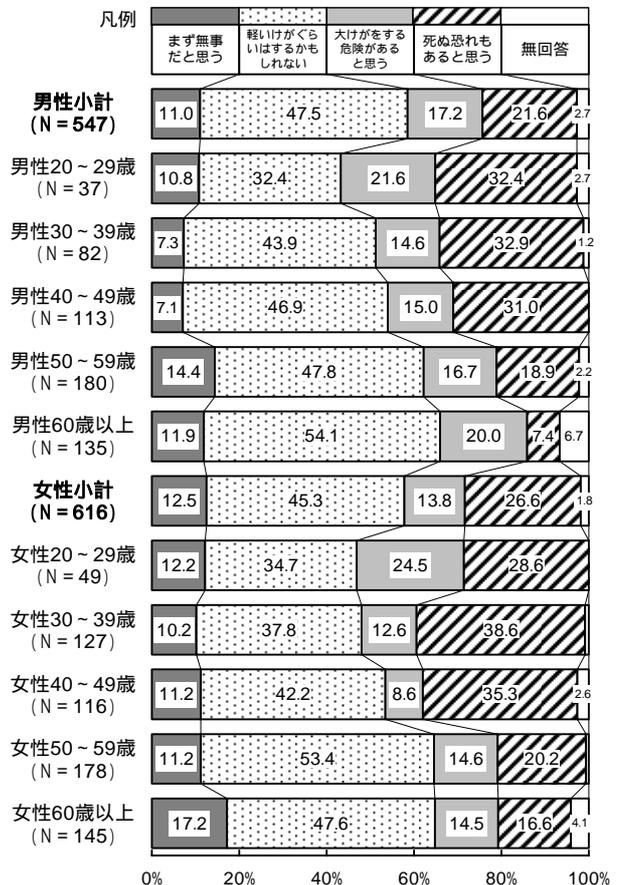
問 23 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。



突然地震が発生したときの自分自身の安全性についてたずねたところ、「軽いけがぐらいはするかもしれない」（46.0%）が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」（24.1%）、「大けがをする危険があると思う」（15.6%）、「まず無事だと思う」（12.0%）の順となっている。

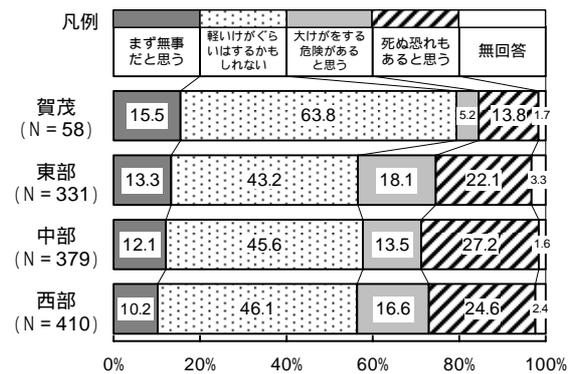
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が高い傾向にあるが、「死ぬ恐れもあると思う」が『女性30代』（38.6%）でやや高くなっている。

突然地震が発生したときの自分自身の安全性  
＜性・年代別＞



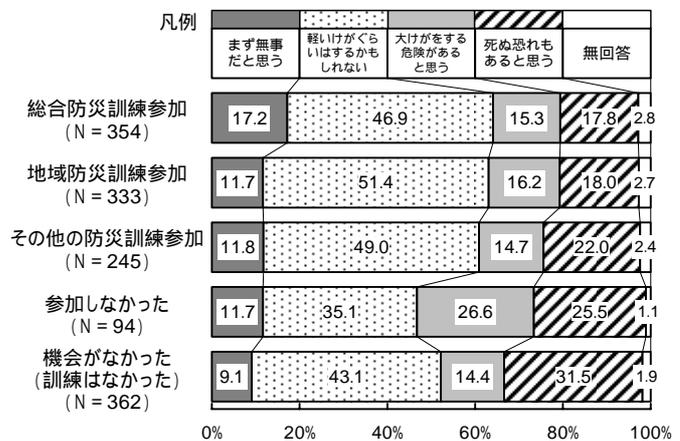
突然地震が発生したときの自分自身の安全性について、地域別でみると、いずれの地域においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高く、『賀茂』（63.8%）は他の地域よりも特に高くなっている。

### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性 ＜地域別＞



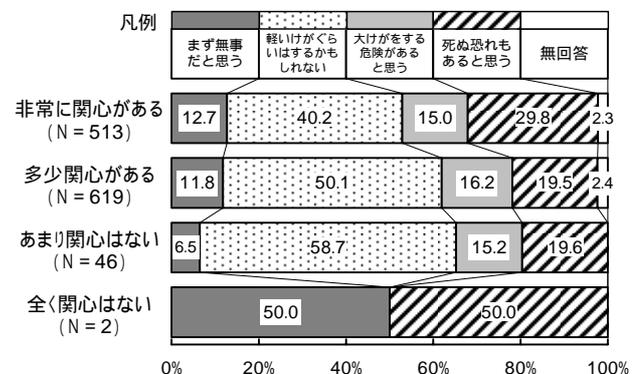
防災訓練参加状況別でみると、いずれの参加状況においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高くなっている。「大けがをする危険があると思ふ」が『参加しなかった』（26.6%）で、「死ぬ恐れもあると思ふ」が『機会がなかった（訓練はなかった）』（31.5%）でやや高めとなっている。

### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性 ＜防災訓練参加状況別＞



東海地震への関心度別でみると、『全く関心はない』を除いて、「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高くなっており、関心度が低いほど割合が高くなっている。最も高い『あまり関心はない』（58.7%）と最も低い『非常に関心がある』（40.2%）では、18.5ポイントの差が見られる。また、「死ぬ恐れもあると思ふ」は、『全く関心はない』を除いて、関心度が高いほど割合が高くなっており、最も高い『非常に関心がある』（29.8%）と最も低い『あまり関心はない』（19.6%）では、10.2ポイントの差が見られる。

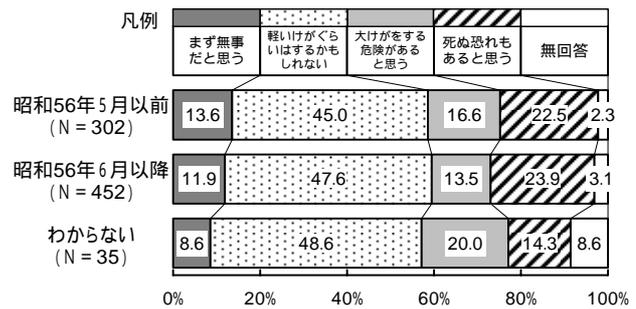
### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性 ＜東海地震への関心度別＞



突然地震が発生したときの自分自身の安全性について、木造住宅建築時期別でみると、いずれの時期においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高く、建築時期が『わからない』人では、「死ぬ恐れもあると思う」（14.3%）が他と比較してやや低くなっている。

### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性

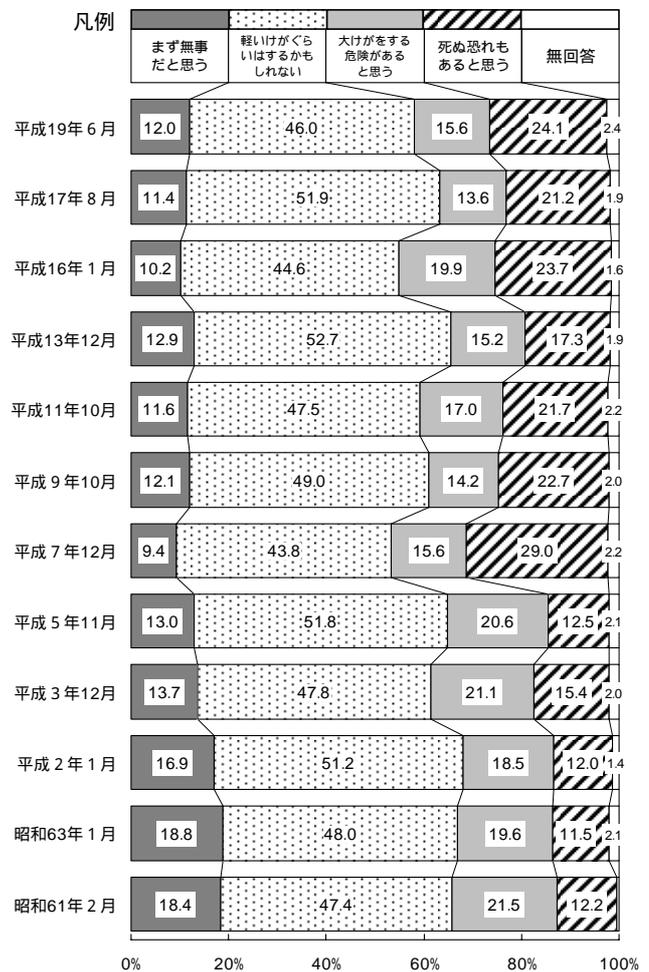
#### <木造住宅建築時期別>



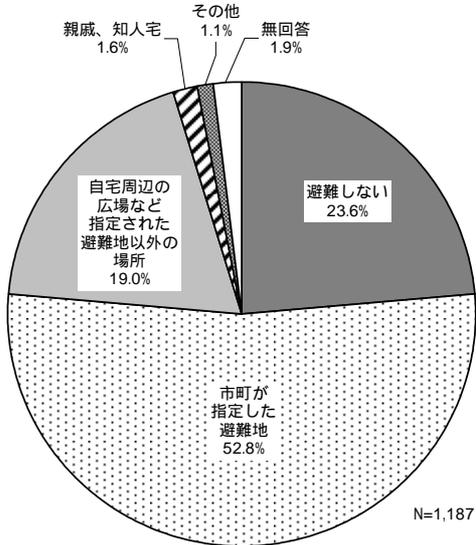
経年比較でみると、「死ぬ恐れもあると思う」が、阪神・淡路大震災（平成7年1月）の起きた年の調査（平成7年12月）（29.0%）において過去最高になったのち、2割前後を推移している。今回の調査（24.1%）では、前回調査（21.2%）よりも2.9ポイントの増加となったが、おおむね前回調査と同じ結果である。

### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性

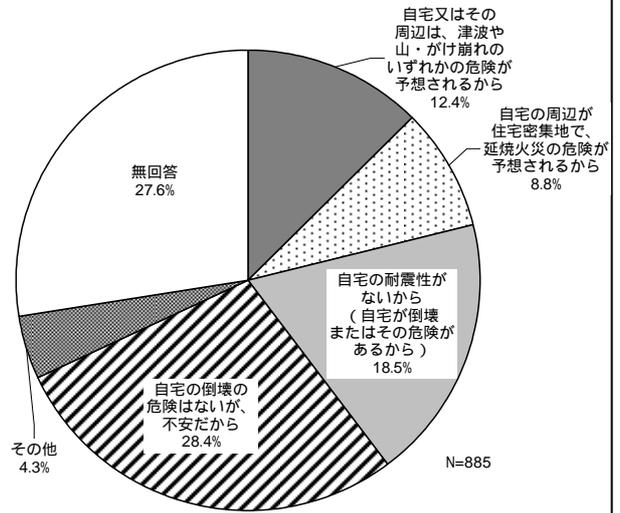
#### <経年比較>



問 24 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。



問 24 - 1 <問 24 で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。> 避難する理由は何ですか。

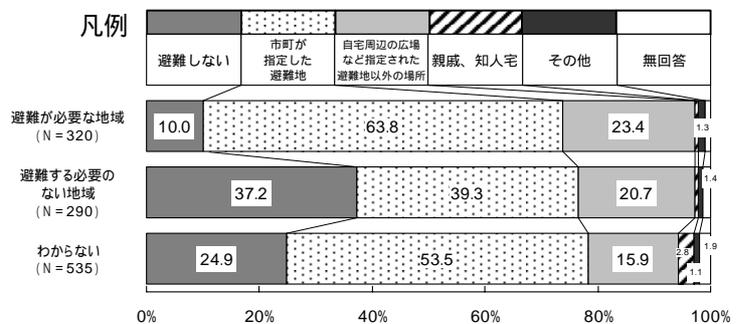


突然地震が発生したときの避難行動についてたずねたところ、「市町が指定した避難地」（52.8%）が最も高く、次いで「避難しない」（23.6%）、「自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所」（19.0%）、「親戚、知人宅」（1.6%）の順となっている。

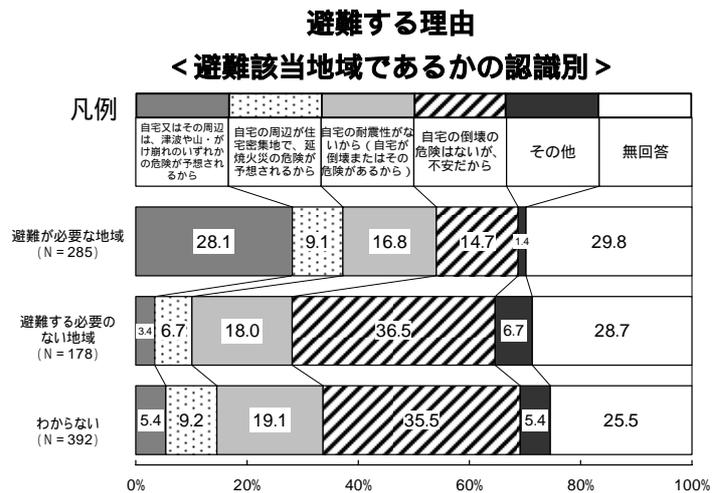
また、「避難しない」以外を回答した人の避難する理由については、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」（28.4%）が最も高く、「自宅の耐震性がないから（自宅が倒壊またはその危険があるから）」（18.5%）、「自宅又はその周辺は、津波や山・がけ崩れのいずれかの危険が予想されるから」（12.4%）、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」（8.8%）の順となっている。

突然地震が発生したときの避難行動を避難該当地域であるかの認識別で見ると、『避難が必要な地域』では「市町が指定した避難地」（63.8%）が最も高くなっているが、『避難する必要のない地域』では「市町が指定した避難地」（39.3%）と「避難しない」（37.2%）がほぼ同じ割合となっている。

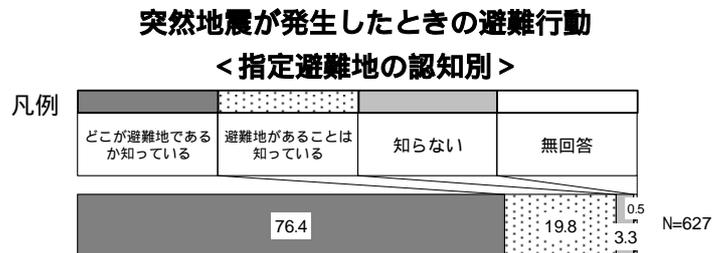
突然地震が発生したときの避難行動  
< 避難該当地域であるかの認識別 >



「避難しない」以外を回答した人の避難する理由について**避難該当地域であるかの認識別**でみると、『避難が必要な地域』では、「自宅又はその周辺は、津波や山・がけ崩れのいずれかの危険が予想されるから」（28.1%）で高くなっている。また、『避難する必要のない地域』と『わからない』では、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」と回答した割合が『避難が必要な地域』より高くなっている。



突然地震が発生したときの避難行動で「市町が指定した避難地」と回答した人を、問 19 の**指定した避難地の認知別**でみると、「どこが避難地であるか知っている」（76.4%）が7割を超えている。また、「どこが避難地であるか知っている」と「避難地があることは知っている」をあわせると96.2%となり、ほとんどの人が指定避難地の存在を認知している。



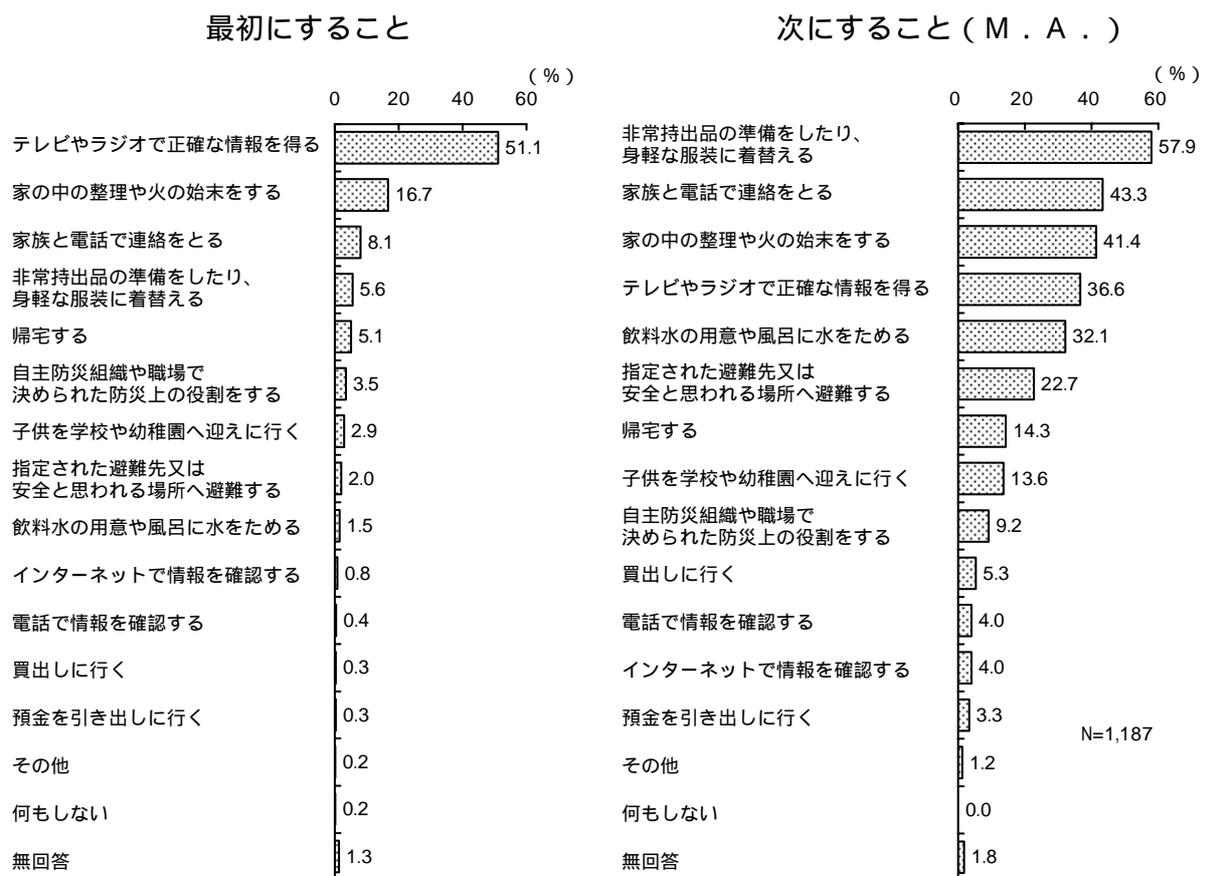


## 6 警戒宣言が発せられたときの行動について

### 6 - 1

#### 警戒宣言発令時の行動

問 25 あなたが平日の午前 11 時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、まず最初にすることを下記の項目の中から 1 つ選び、A 欄に をつけてください。また、その次にすることを 3 つ選んで B 欄に をつけてください。(M・A・)



警戒宣言発令時に、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(51.1%)が最も高く過半数を占めており、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(16.7%)、「家族と電話で連絡をとる」(8.1%)の順となっている。

次にすることについては、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(57.9%)が最も高く、次いで「家族と電話で連絡をとる」(43.3%)、「家の中の整理や火の始末をする」(41.4%)、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(36.6%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(32.1%)の順となっており、以上が3割以上となっている。

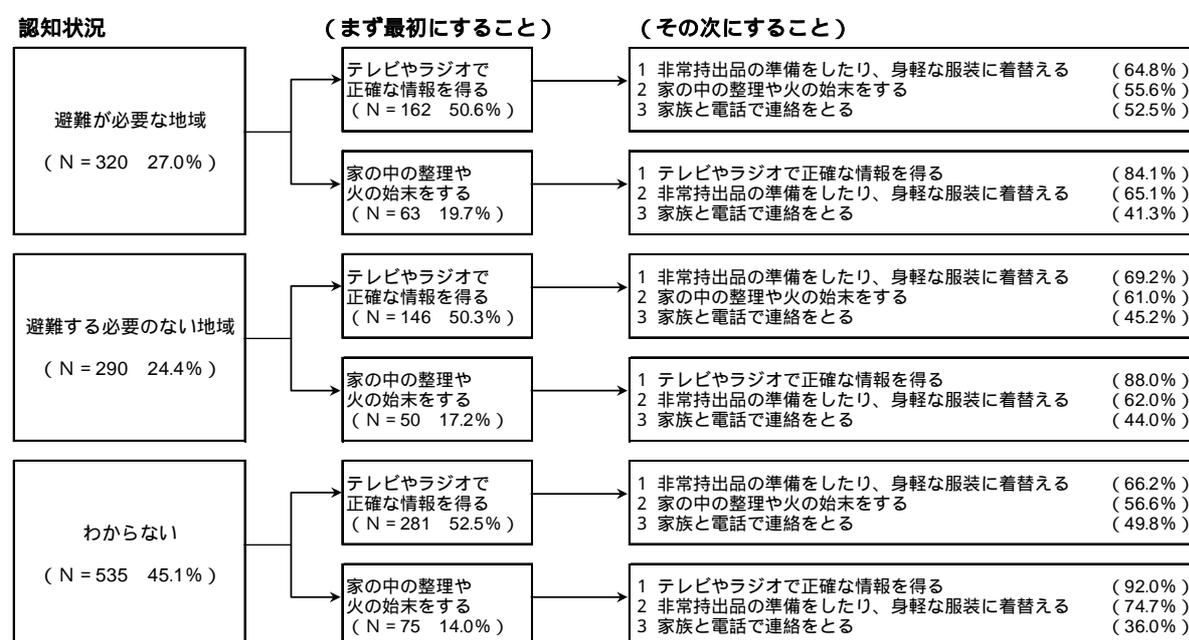
警戒宣言発令時の行動の流れを避難該当地域であるかの認知状況別でみると、避難該当地域か否かに関わらず、「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「家の中の整理や火の始末をする」をまず最初にすることとして挙げている。

次にすることでは、避難該当地域か否かに関わらず、まず最初にすることで「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」、「家の中の整理や火の始末をする」、「家族と電話で連絡をとる」を挙げている。

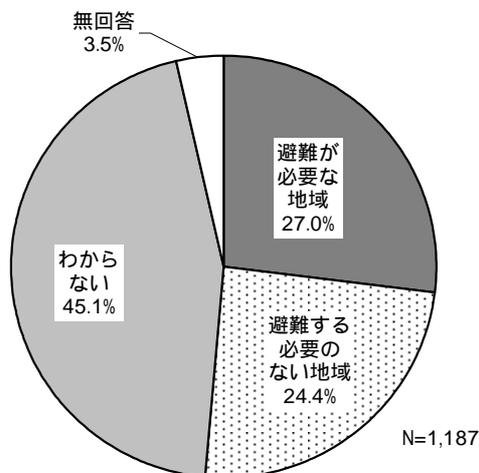
また、まず最初にすることで「家の中の整理や火の始末をする」を選んだ人は、「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」、「家族と電話で連絡をとる」を挙げている。

### 警戒宣言発令時の行動の流れ < 避難該当地域であるかの認知状況別 >

(全体 N = 1,187)



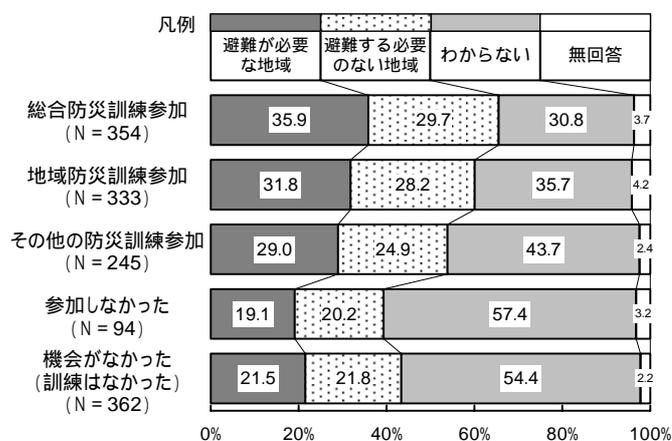
問 26 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。



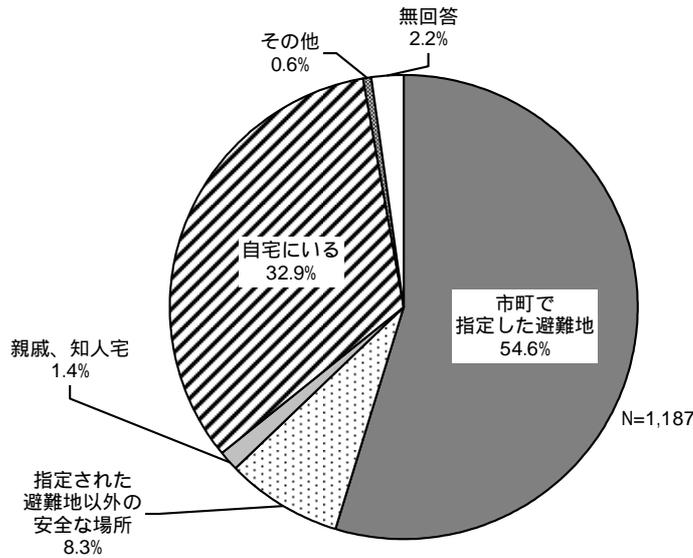
自宅が避難該当地域であるかの認識については、「わからない」(45.1%)が最も高くなっており、次いで「避難が必要な地域」(27.0%)、「避難する必要のない地域」(24.4%)の順となっている。

防災訓練参加状況別でみると、「避難が必要な地域」では、最も高い『総合防災訓練参加』(35.9%)と最も低い『参加しなかった』(19.1%)では、16.8ポイントの差が見られ、いずれかの防災訓練に参加している人は、自宅が避難該当地域であるという認識が高い傾向が見られる。

避難該当地域であるかの認識  
＜防災訓練参加状況別＞



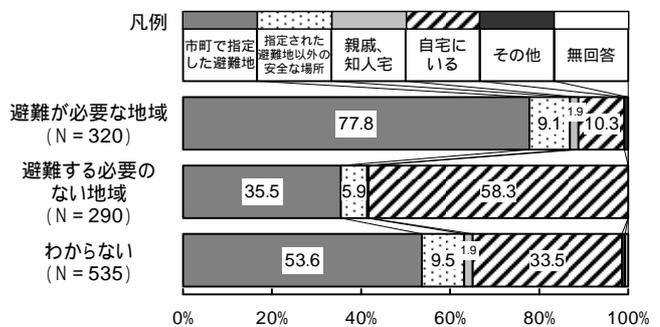
問 27 あなたやご家族は、自宅にいて警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。



自宅にいて警戒宣言が発せられた場合の避難行動についてたずねたところ、「市町で指定した避難地」（54.6%）が最も高く、次いで「自宅にいる」（32.9%）、「指定された避難地以外の安全な場所」（8.3%）、「親戚、知人宅」（1.4%）の順となっている。

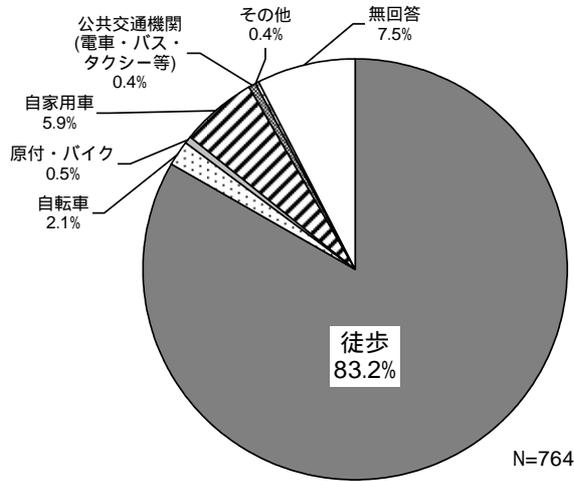
**避難該当地域であるかの認知状況別**でみると、『避難が必要な地域』では、「市町で指定した避難地」（77.8%）が8割弱となっている。また『避難する必要のない地域』では、「自宅にいる」（58.3%）が約6割となっている。『わからない』では、「市町で指定した避難地」（53.6%）が最も高く、次いで「自宅にいる」（33.5%）、「指定された避難地以外の安全な場所」（9.5%）の順となっている。

**警戒宣言発令時の避難行動**  
**< 避難該当地域であるかの認知状況別 >**



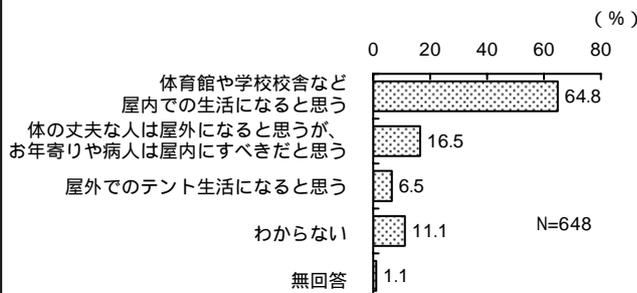
問 27 - 1

<問 27 で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。 >  
避難するときの交通手段は何ですか。



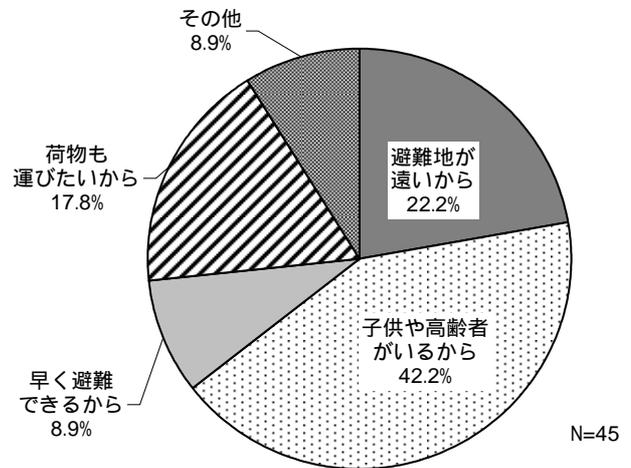
問 27 - 2

<問 27 で「1 市町で指定した避難地」を選んだ方のみにお伺いします。 >  
避難地での生活はどのようなになりますか。(屋外・屋内など)



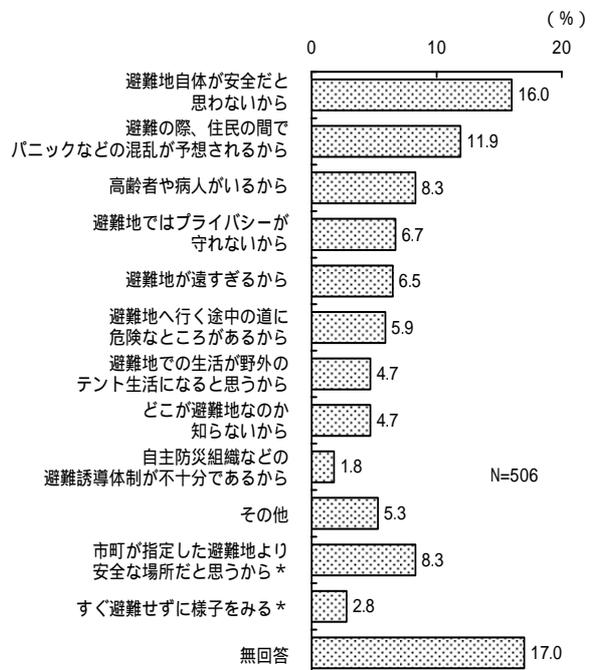
問 27 - 1 1

<問 27 - 1 で「4 自家用車」を選んだ方にお伺いします。 >  
なぜ自家用車で避難するのですか。



問 27 - 3

<問 27 で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。 >  
市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。



\*「その他」の具体的記入欄に多く挙げられた回答内容

問 27 で避難すると回答した人の避難時の交通手段については、「徒歩」(83.2%)が最も高く8割以上を占めており、次いで「自家用車」(5.9%)、「自転車」(2.1%)の順となっている。

また、「自家用車」で避難すると回答した人の理由については、「子供や高齢者がいるから」(42.2%)が最も高く、次いで「避難地が遠いから」(22.2%)、「荷物も運びたいから」(17.8%)の順となっている。

問 27 で「市町で指定した避難地」と回答した人に避難生活についてたずねたところ、「体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う」(64.8%)が最も高く6割以上を占めており、次いで「体の丈夫な人は屋外になると思うが、お年寄りや病人は屋内にすべきだと思う」(16.5%)、「屋外でのテント生活になると思う」(6.5%)の順となっている。

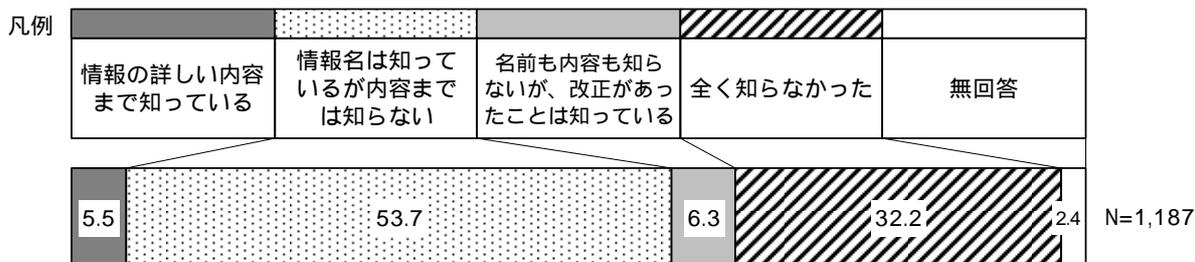
問 27 で「指定された避難地以外の安全な場所」、「親戚、知人宅」、「自宅にいる」と回答した人に、市町で指定した避難地へ避難しない理由をたずねたところ、「避難地自体が安全だと思わないから」(16.0%)が最も高く、次いで「避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから」(11.9%)、「高齢者や病人がいるから」(8.3%)「市町が指定した避難地より安全な場所だと思うから」(8.3%)の順となっている。

## 7 地震に関する情報について

### 7 - 1

### 情報体系の認知

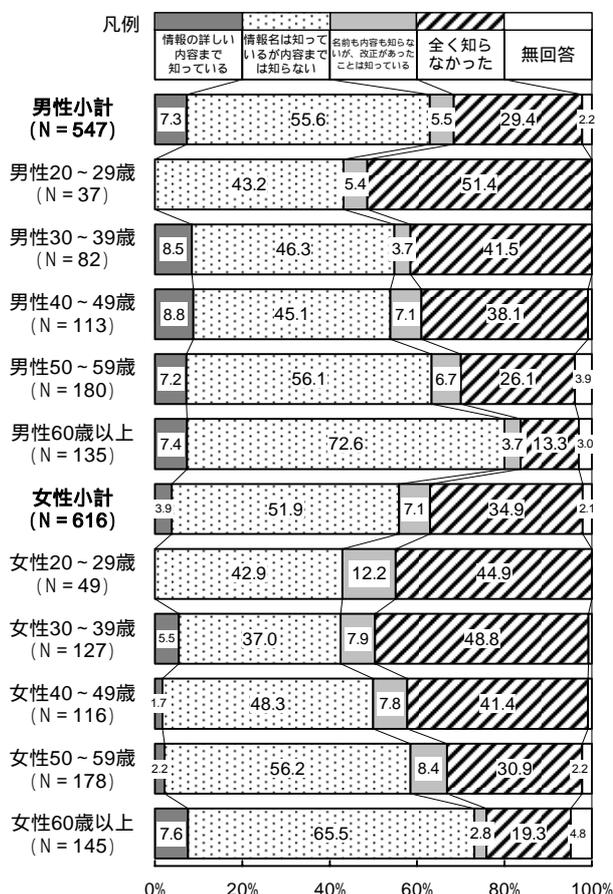
問28 東海地震に関連する情報として「東海地震観測情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知でしたか。



東海地震に関連する情報体系の認知度についてたずねたところ、「情報名は知っているが内容までは知らない」(53.7%)が最も高く過半数を占めており、次いで「全く知らなかった」(32.2%)、「名前も内容も知らないが、改正があったことは知っている」(6.3%)、「情報の詳しい内容まで知っている」(5.5%)の順となっている。

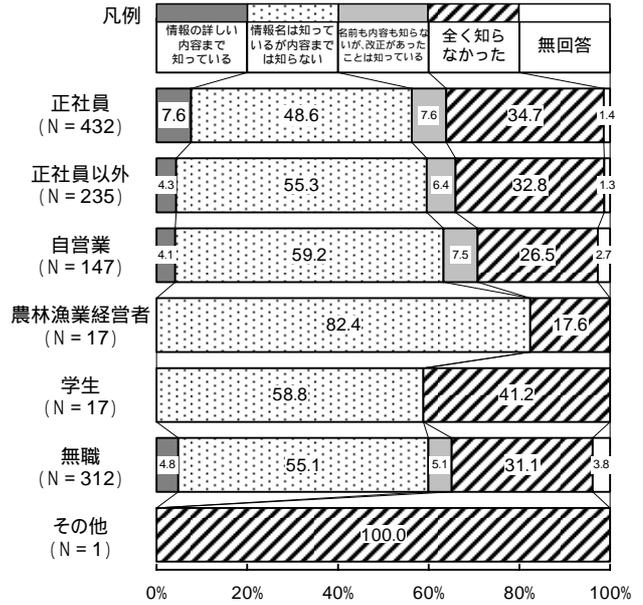
**性・年代別**でみると、「全く知らなかった」は『男性20代』(51.4%)で最も高く過半数を占めており、次いで『女性30代』(48.8%)、「女性20代」(44.9%)、「男性30代」(41.5%)、「女性40代」(41.4%)の順となっている。また、「情報名は知っているが内容までは知らない」は、年代が上がるほど高くなる傾向が見られる。最も高い『男性60歳以上』(72.6%)と、最も低い『女性30代』(37.0%)では、35.6ポイントの差が見られる。

### 情報体系の認知 <性・年代別>



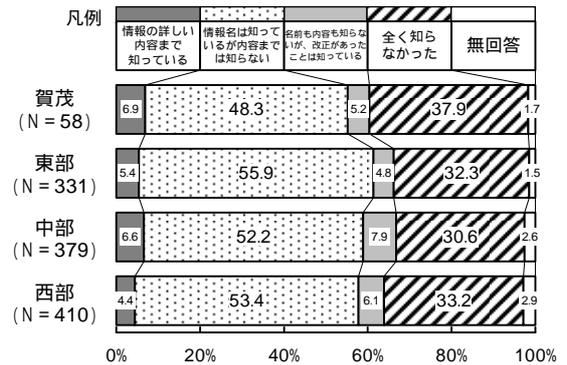
### 情報体系の認知 <職業別>

職業別でみると、「情報名は知っているが内容までは知らない」は『農林漁業経営者』（82.4%）で最も高く8割を超えており、次いで『自営業』（59.2%）、『学生』（58.8%）、『正社員以外』（55.3%）、『無職』（55.1%）の順となっている。



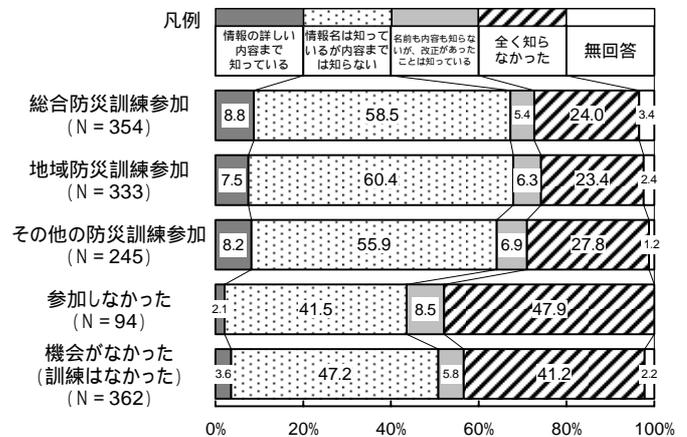
地域別でみると、情報体系の認知で地域による大きな差は見られない。

### <地域別>



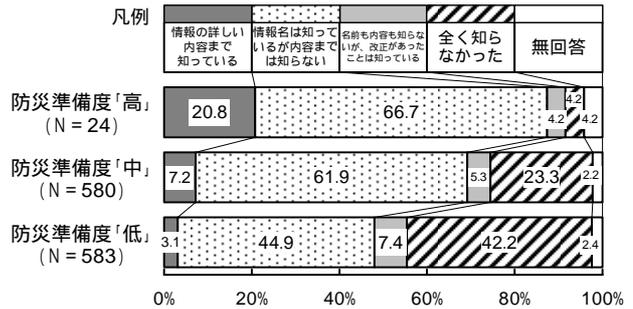
防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加した人は、「全く知らなかった」が3割以下であるのに対して、訓練に『参加しなかった』または『機会がなかった（訓練はなかった）』では、4割以上となっている。

### <防災訓練参加状況別>



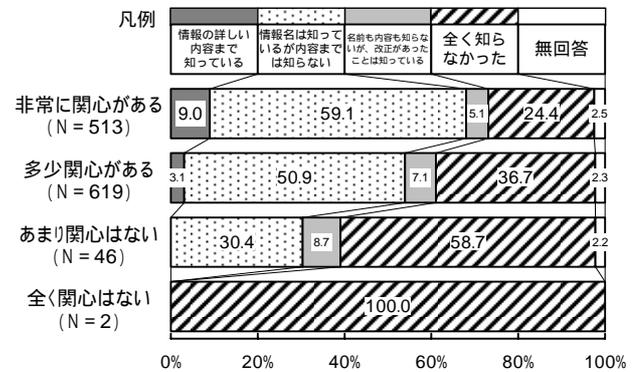
防災準備度別でみると、防災準備度が高くなるにつれて、「情報の詳しい内容まで知っている」及び「情報名は知っているが内容までは知らない」と答えた人の割合は高くなっている。また、『防災準備度「低」』では、「全く知らなかった」（42.2%）が4割を超えている。

### 情報体系の認知 < 防災準備度別 >



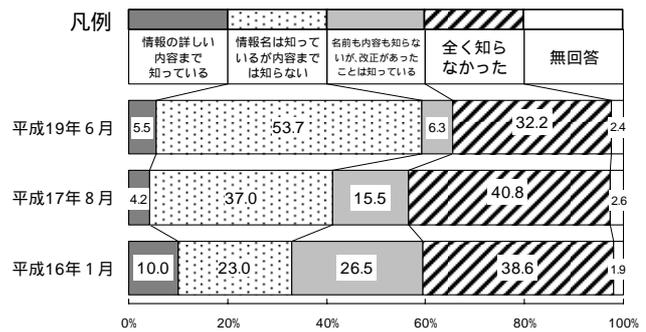
東海地震への関心度別でみると、関心が高くなるにつれて「情報の詳しい内容まで知っている」及び「情報名は知っているが内容までは知らない」は高くなっている。

### < 東海地震への関心度別 >



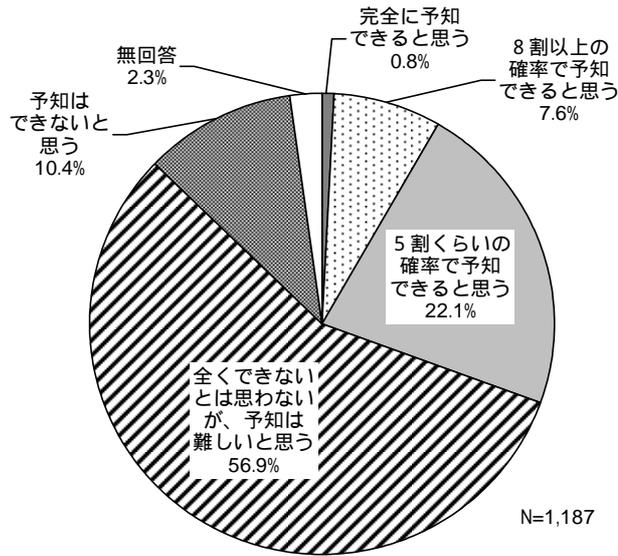
経年比較でみると、「情報名は知っているが内容までは知らない」（53.7%）が前回調査(37.0%)より16.7ポイント増加している。また、「全く知らなかった」（32.2%）は、前回調査(40.8%)より8.6ポイント減少している。

### < 経年比較 >



この調査項目は平成15年度調査から設定した。

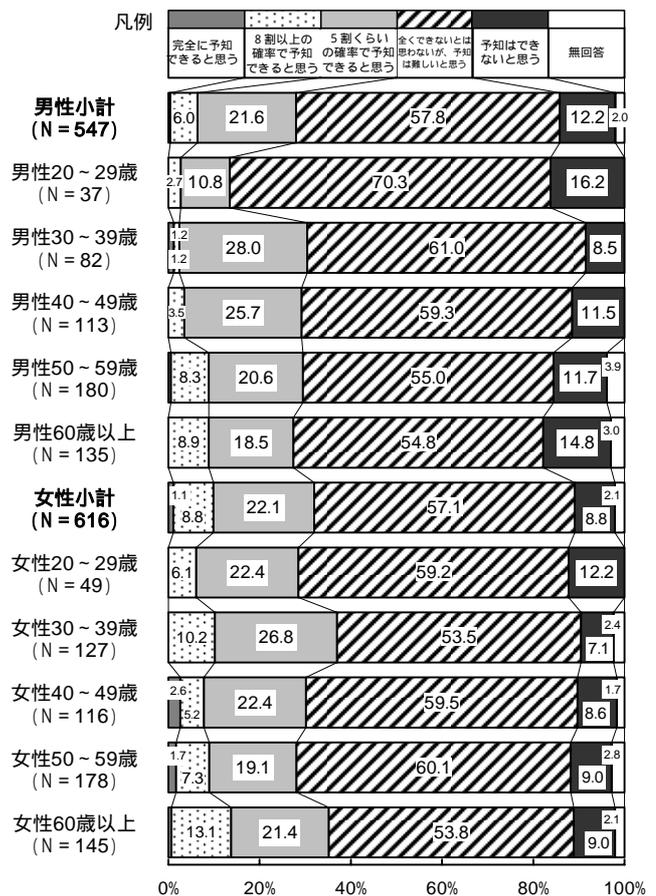
問 29 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。



東海地震の予知の可能性についてたずねたところ、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」（56.9%）が最も高く6割弱となっており、次いで「5割くらいの確率で予知できると思う」（22.1%）、「予知はできないと思う」（10.4%）、「8割以上の確率で予知できると思う」（7.6%）、「完全に予知できると思う」（0.8%）の順となっている。

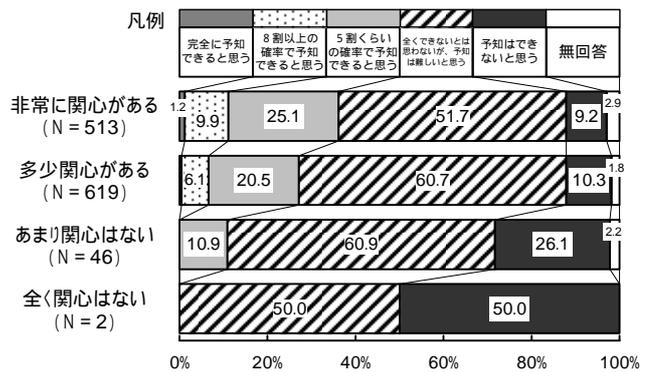
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」が最も高く、特に『男性20代』（70.3%）が高くなっている。

東海地震予知の可能性 <性・年代別>



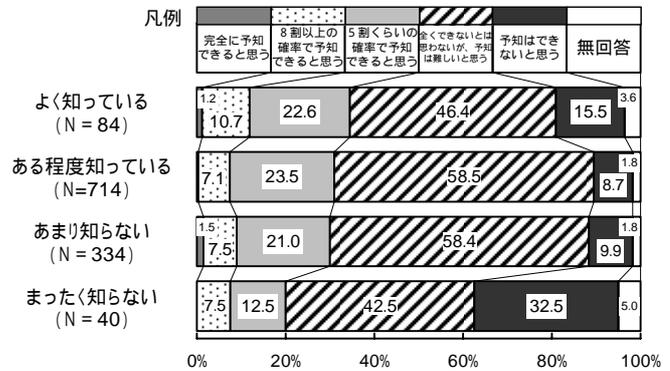
東海地震への関心度別でみると、関心が高い人ほど、予知できる可能性が高いと考えている人は高く、『非常に関心がある』や『多少関心がある』という人で「予知はできないと思う」と答えた人は、1割程度となっている。

### 東海地震予知の可能性 <東海地震への関心度別>



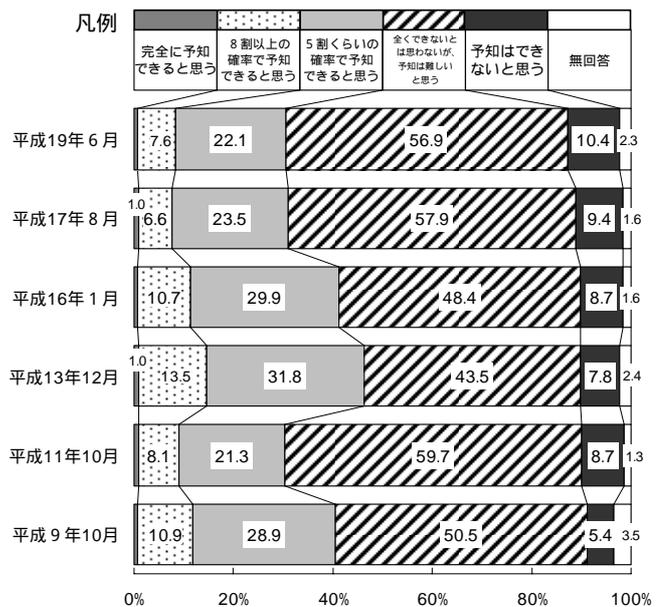
地震メカニズム認知別でみると、『全く知らない』で「予知はできないと思う」(32.5%)がやや高めになっている。

### 東海地震予知の可能性 <地震メカニズム認知別>



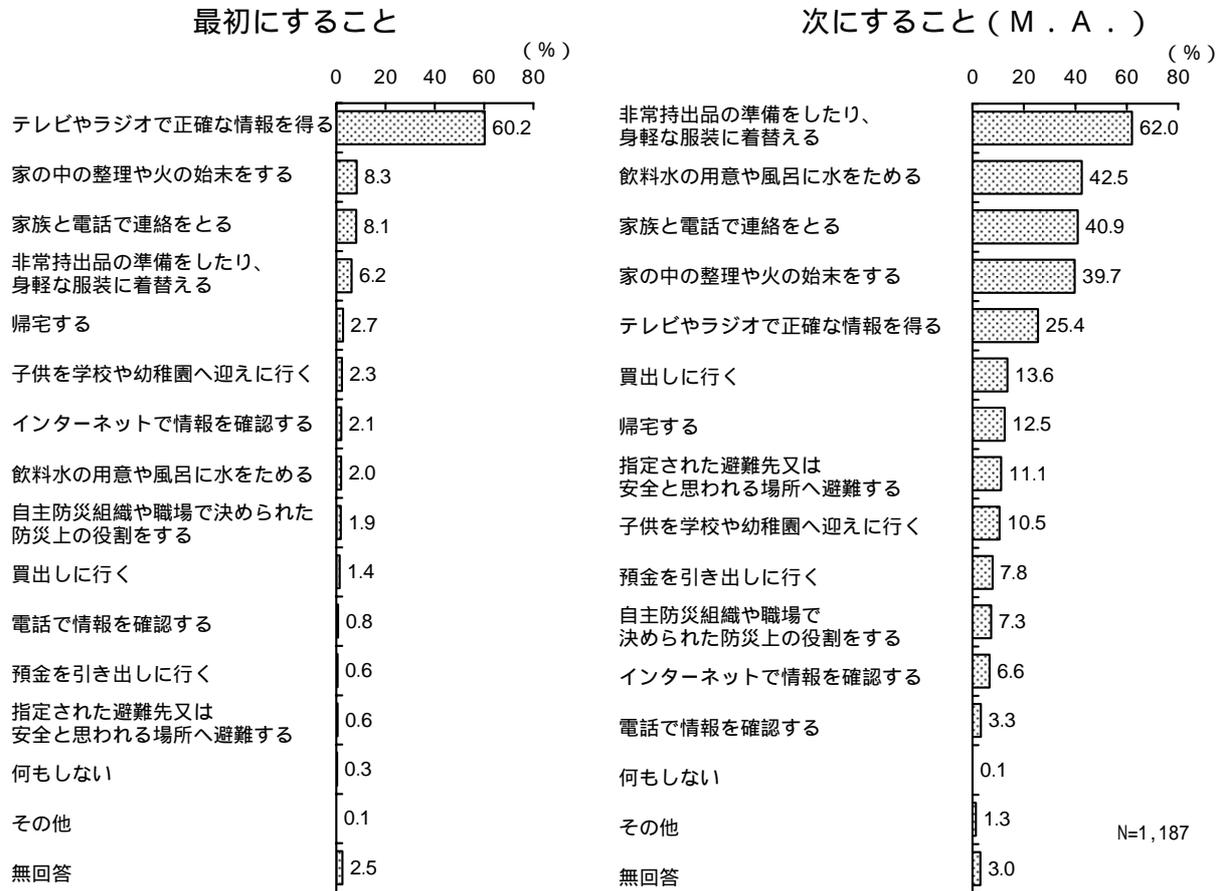
経年比較でみると、今回の調査は前回調査とおおむね変わらない。

### <経年比較>



この調査項目は平成9年度調査から設定した。

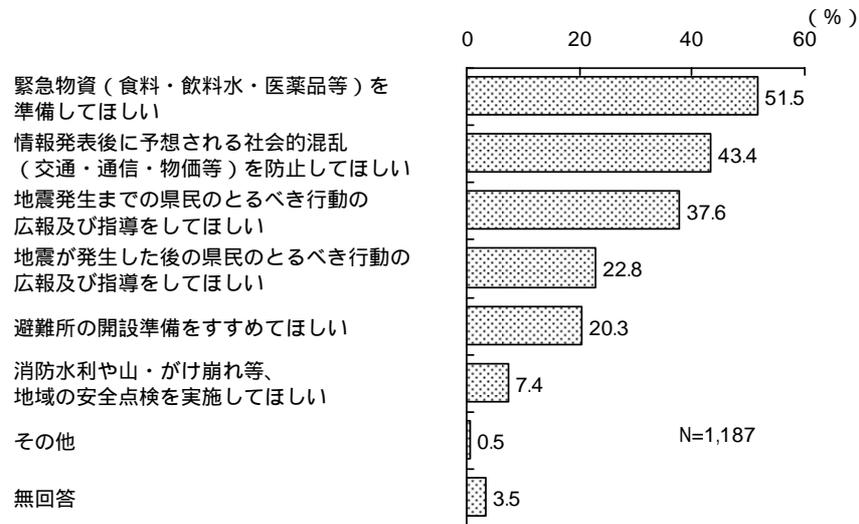
問 30 「警戒宣言」を発するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。このような場合に、まず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に をつけてください。(M・A・)



「東海地震注意情報」が発表された場合にまず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(60.2%)が最も高く6割となっており、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(8.3%)、「家族と電話で連絡をとる」(8.1%)の順となっている。

次にすることについては、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(62.0%)が最も高く6割を超えており、次いで「飲料水の用意や風呂に水をためる」(42.5%)、「家族と電話で連絡をとる」(40.9%)、「家の中の整理や火の始末をする」(39.7%)の順となっている。

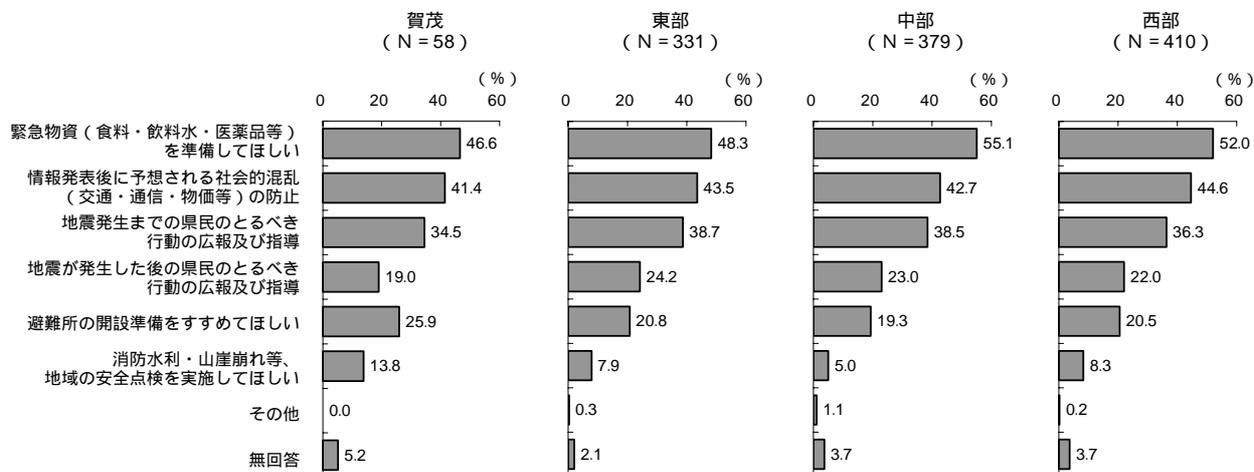
問 31 「東海地震注意情報」が発表された場合、県や市町にどのような対応を望みますか。  
(M.A.)



東海地震注意情報発表時の行政への要望としては、「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」（51.5%）が最も高く過半数を占めており、次いで「情報発表後に予想される社会的混乱（交通・通信・物価等）を防止してほしい」（43.4%）、「地震発生までの県民のとりべき行動の広報及び指導をしてほしい」（37.6%）、「地震が発生した後の県民のとりべき行動の広報及び指導をしてほしい」（22.8%）、「避難所の開設準備をすすめてほしい」（20.3%）の順となっている。

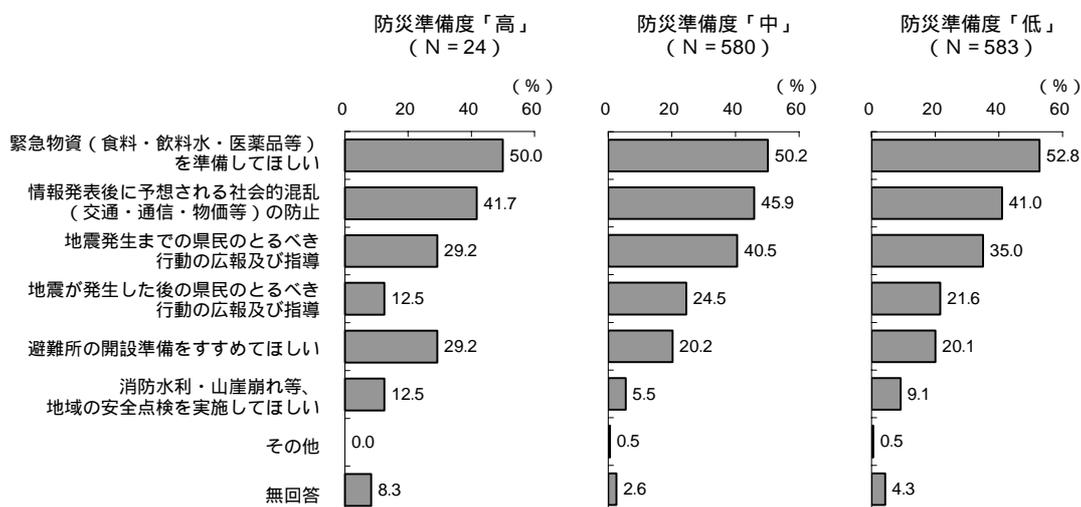
地域別でみると、いずれの地域においても「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」、「情報発表後に予想される社会的混乱（交通・通信・物価等）を防止してほしい」が高くなっており、地域による大きな差は見られない。

### 注意情報発表時の行政への要望 <地域別>

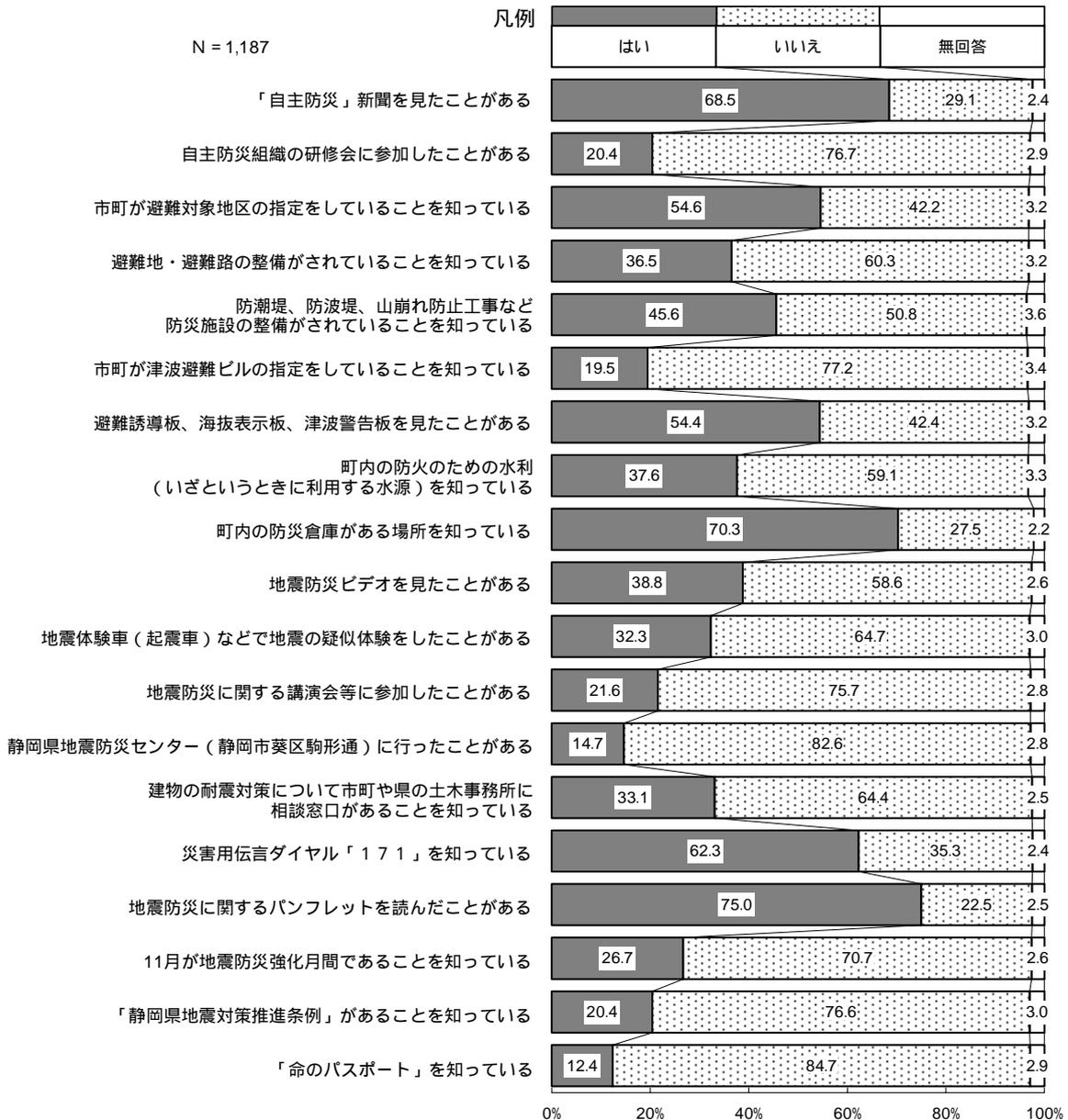


防災準備度別でみると、大きな差は見られない。

### 注意情報発表時の行政への要望 <防災準備度別>



問 32 次の 1～19 の項目について「はい」「いいえ」の欄に をつけてください。



地震情報の入手については、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」(75.0%)が最も高く、次いで「町内の防災倉庫がある場所を知っている」(70.3%)、「「自主防災」新聞を見たことがある」(68.5%)、「災害用伝言ダイヤル「171」を知っている」(62.3%)、「市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている」(54.6%)「避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある」(54.4%)の順となっており、以上は半数以上の人々が認知している項目となっている。しかしながら、全体的にみると、知らない情報の方が多くなっている。

地震防災情報の入手（認知率）を経年比較でみると、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」、「「自主防災」新聞を見たことがある」については順位の変動はあるものの、いずれの調査においても上位3項目となっている。また、「災害用伝言ダイヤル「171」を知っている」は、今回の調査（62.3%）では前回調査（58.0%）を4.3ポイント上回っており、年々認知率が高まっている。

### 地震防災情報の入手（認知率） < 経年比較 >

順位	地震防災情報	認知率（%）				
		平成19年6月	平成17年8月	平成16年1月	平成13年12月	平成11年10月
1	地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	75.0	72.5	69.4	68.3	72.3
2	町内の防災倉庫がある場所を知っている	70.3	65.5	69.4	56.0	54.5
3	「自主防災」新聞を見たことがある	68.5	60.2	61.8	62.8	61.5
4	災害用伝言ダイヤル「171」を知っている	62.3	58.0	42.5	24.0	19.5
5	市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている	54.6	49.1	56.6	50.8	—
6	避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	54.4	50.8	46.6	45.4	48.3
7	防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など 防災施設の整備がされていることを知っている	45.6	41.4	44.2	39.8	40.1
8	地震防災ビデオを見たことがある	38.8	39.5	41.9	32.9	36.1
9	町内の防火のための水利（いざというときに利用する水源）を知っている	37.6	35.9	39.6	44.8	44.9
10	避難地・避難路の整備がされていることを知っている	36.5	33.0	32.1	31.1	34.2
11	建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に 相談窓口があることを知っている	33.1	37.9	38.7	25.7	21.4
12	地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	32.3	33.4	30.8	29.1	30.6
13	11月が地震防災強化月間であることを知っている	26.7	22.2	29.8	27.7	27.1
14	地震防災に関する講演会等に参加したことがある	21.6	20.5	20.6	18.0	17.4
15	「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	20.4	20.8	24.5	26.2	24.3
16	自主防災組織の研修会に参加したことがある	20.4	17.7	18.8	19.2	19.2
17	市町が津波避難ビルの指定をしていることを知っている	19.5	18.1	12.4	12.9	12.6
18	静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形通）に行ったことがある	14.7	13.2	13.2	11.9	10.1
19	「命のパスポート」を知っている	12.4	12.2	11.3	12.6	11.6

地震防災情報の入手（認知数）を各属性別でみると、性・年代では、男性（8.0ポイント）が女性（7.2ポイント）を0.8ポイント上回っている。また、年代が上がるほど認知数は高くなる傾向が見られ、最も高い『男性60歳以上』（9.3ポイント）と最も低い『女性20代』（5.8ポイント）では、3.5ポイントの差が見られる。

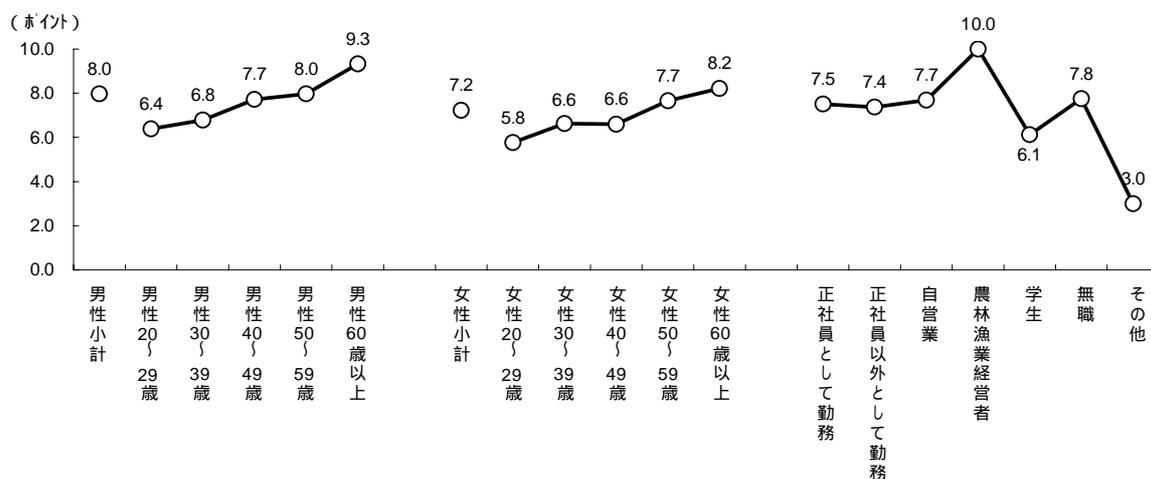
職業別でみると、『農林漁業経営者』（10.0ポイント）が他と比較すると高くなっている。

地域別でみると、地域による大きな差は見られない。

防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加している人は、8ポイント台であるが、『機会がなかった（訓練はなかった）』（6.3ポイント）と訓練に『参加しなかった』（5.6ポイント）は、ポイント数が低くなっている。

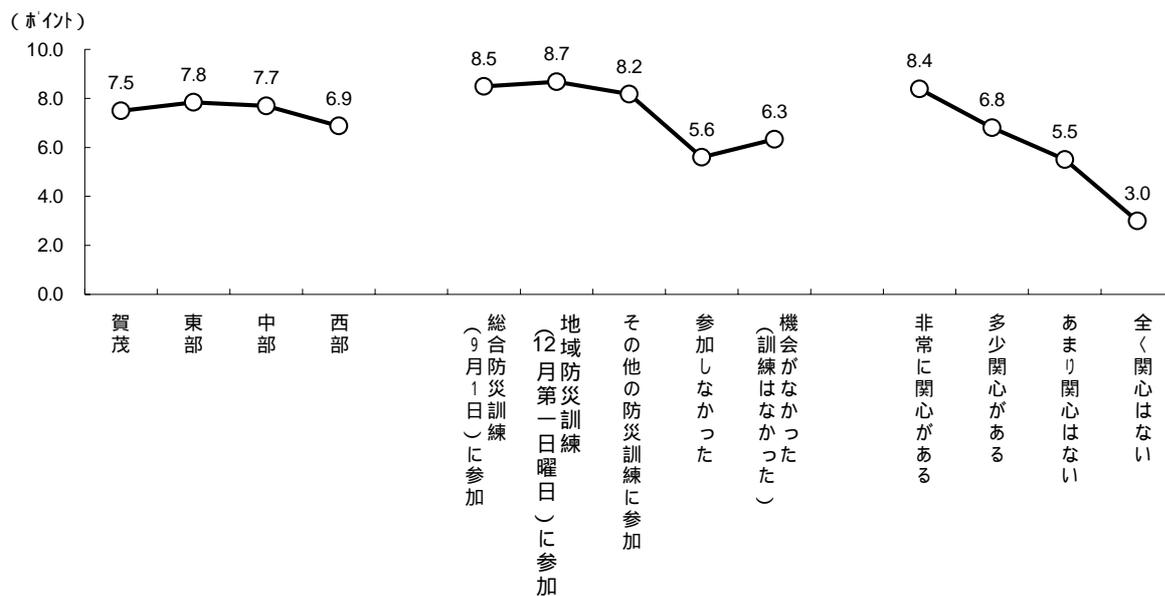
東海地震への関心度別でみると、関心度が高い人ほど認知数は高い傾向が見られ、『非常に関心がある』では、8.4ポイントと高くなっている。

地震防災情報の入手（認知数平均）＜属性別＞ 全体平均 7.4



性・年代別

職業別



地域別

防災訓練参加状況別

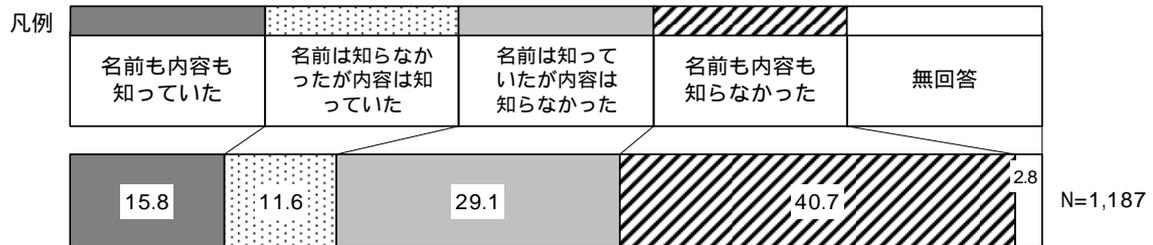
東海地震への関心度別



## 8 緊急地震速報について

### 8 - 1 緊急地震速報についての認知・・・・・・・・・・

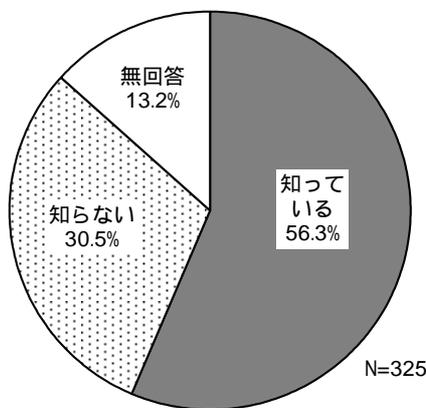
問 33 あなたは、緊急地震速報について知っていましたか。



問 33 - 1

<問 33 で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

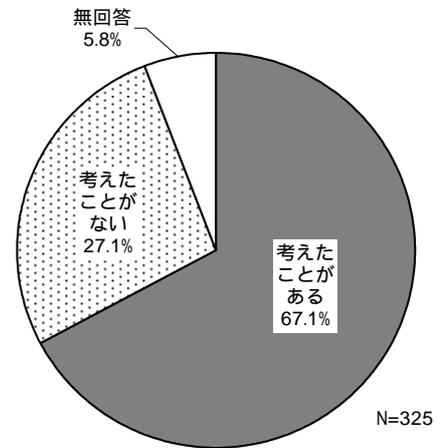
緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることをご存知ですか。



問 33 - 2

<問 33 で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

あなたは、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはありますか。



緊急地震速報の認知度についてたずねたところ、「名前も内容も知らなかった」（40.7%）が4割と最も高く、「名前は知っていたが内容は知らなかった」（29.1%）、「名前も内容も知っていた」（15.8%）、「名前は知らなかったが内容は知っていた」（11.6%）の順となっている。

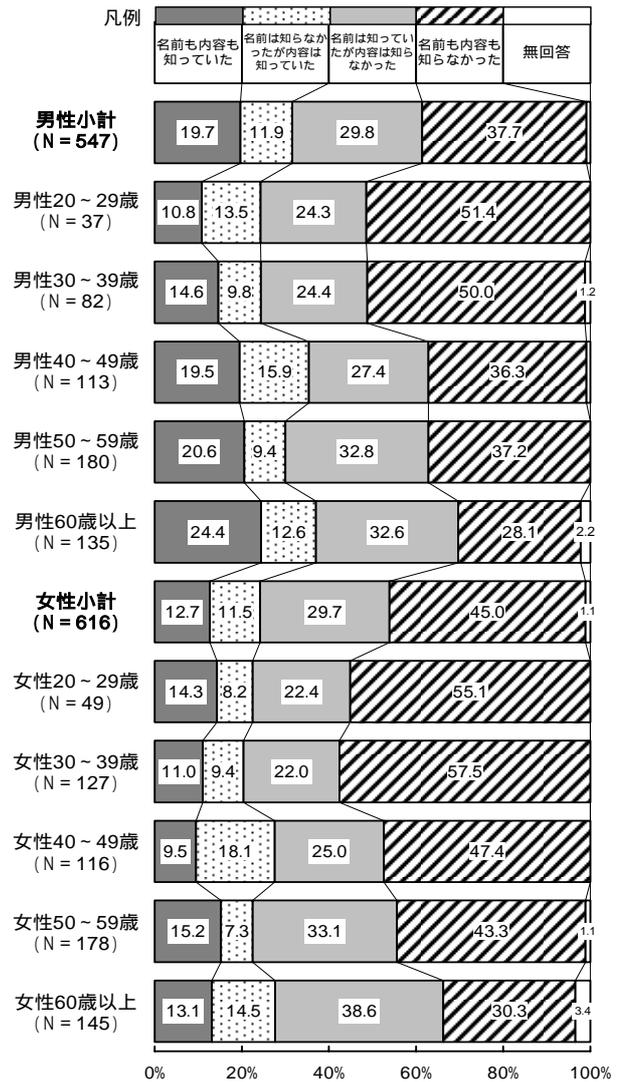
緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度については、「知っている」（56.3%）が過半数を占めており、「知らない」（30.5%）は、3割程度である。

緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはあるかについては、「考えたことがある」（67.1%）が7割弱となっており、「考えたことがない」（27.1%）を大きく上回っている。

## 緊急地震速報についての認知

### <地域別>

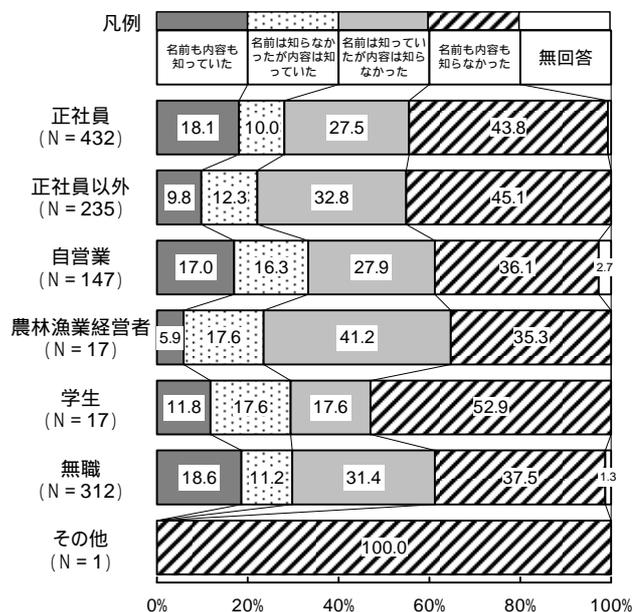
性・年代別で見ると、「名前も内容も知らなかった」は男女とも20代、30代の若年層で過半数を占めており、年代が若いほど認知度は低くなっている。最も高いのは『女性 30代』（57.5%）で6割弱となっている。



## 緊急地震速報についての認知

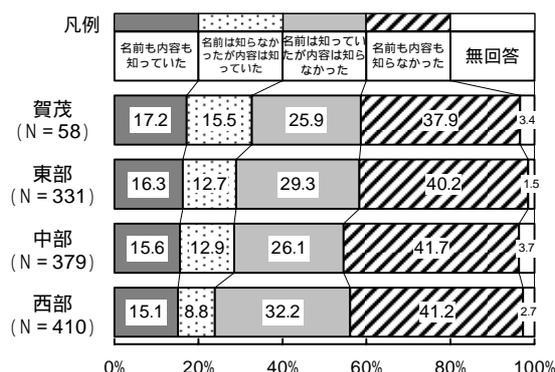
### <職業別>

職業別で見ると、「名前は知っていたが内容は知らなかった」は『農林漁業経営者』（41.2%）で最も高くなっている。一方、「名前も内容も知らなかった」は『学生』（52.9%）で最も高く過半数を占めている。



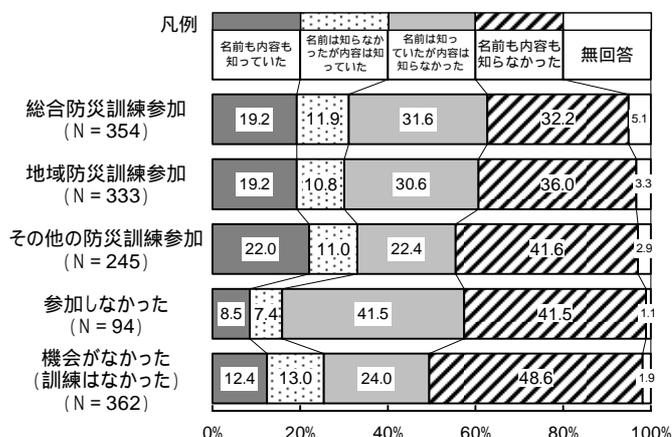
地域別でみると、地域によって緊急地震速報についての認知に差は見られない。

### 緊急地震速報についての認知 <地域別>



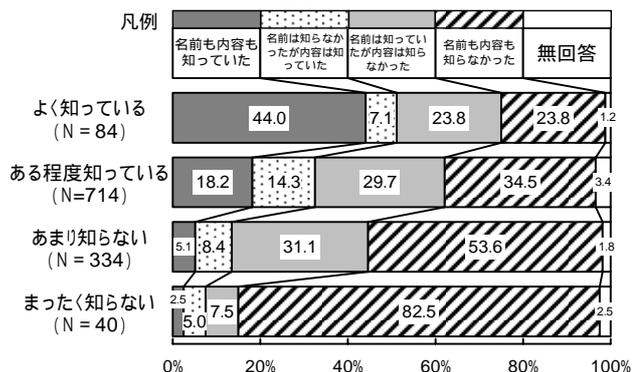
防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加した人は、「名前も内容も知っていた」が2割前後になっているが、『参加しなかった』（8.5%）または『機会がなかった（訓練はなかった）』（12.4%）では、1割前後となっている。

### 緊急地震速報についての認知 <防災訓練参加状況別>



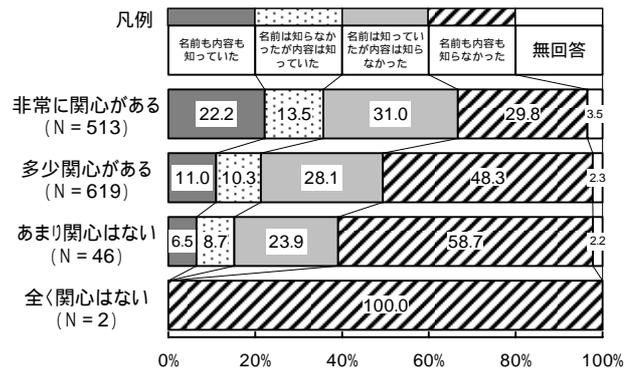
地震メカニズム別でみると、地震メカニズムをよく知っているほど、「名前も内容も知っていた」の割合が高くなっている。最も高い『よく知っている』（44.0%）と最も低い『まったく知らない』（2.5%）では、41.5ポイントの差が見られる。

### 緊急地震速報についての認知 <地震メカニズム別>



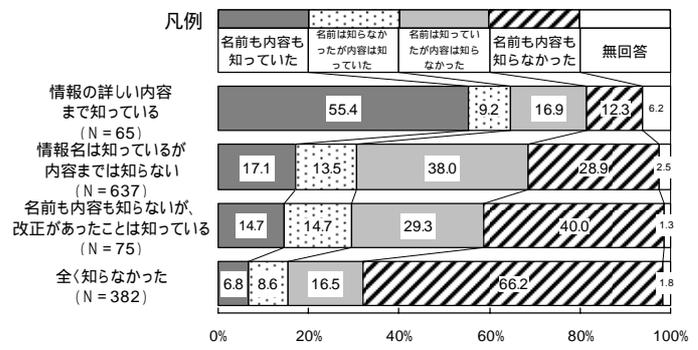
東海地震への関心度別でみると、関心が高くなるにつれて「名前も内容も知っていた」及び「名前は知らなかったが内容は知っていた」は高くなっている。

### 緊急地震速報についての認知 ＜東海地震への関心度別＞



情報体系の認知別でみると、認知度が高くなるにつれて、緊急地震速報についての認知度も高くなっている。特に、『情報の詳しい内容まで知っている』(55.4%)では、過半数を占めている。

### 緊急地震速報についての認知 ＜情報体系の認知別＞



緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度について属性別でみると、**性・年代別**では、『女性20代』（90.9%）が最も高くなっており、次いで『男性40代』（70.0%）、『男性50代』（63.0%）の順となっている。

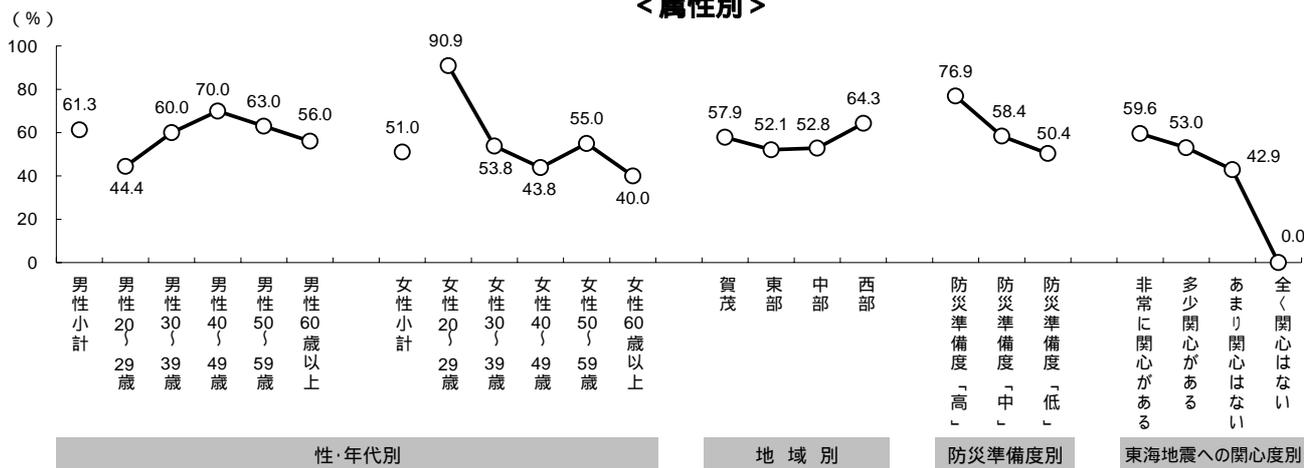
**地域別**でみると、最も高い『西部』（64.3%）と最も低い『東部』（52.1%）では、12.2ポイントの差がみられる。

**防災準備度別**でみると、最も高い『防災準備度「高」』（76.9%）と最も低い『防災準備度「低」』（50.4%）では、26.5ポイントの差が見られる。

**東海地震への関心度別**でみると、関心度が高いほど認知度が高くなっている。

### 緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度

#### <属性別>

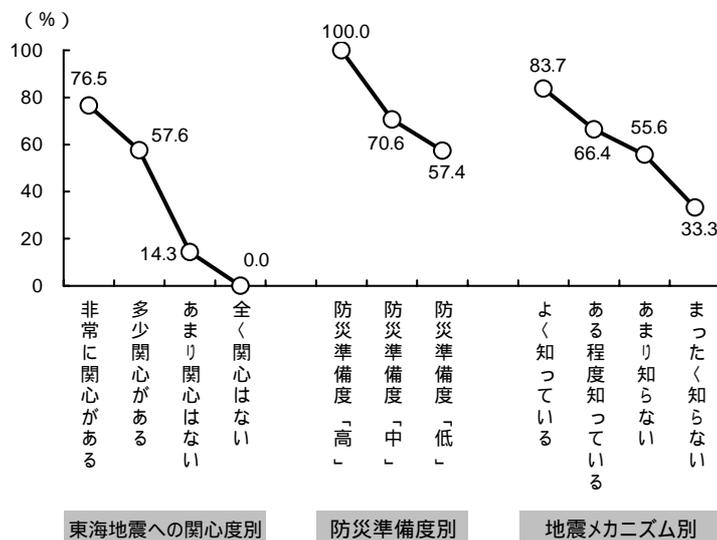


緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことについて属性別でみると、**東海地震への関心度別**でみると、関心が高いほど、割合が高くなっており、『非常に関心がある』（76.5%）で8割弱となっている。

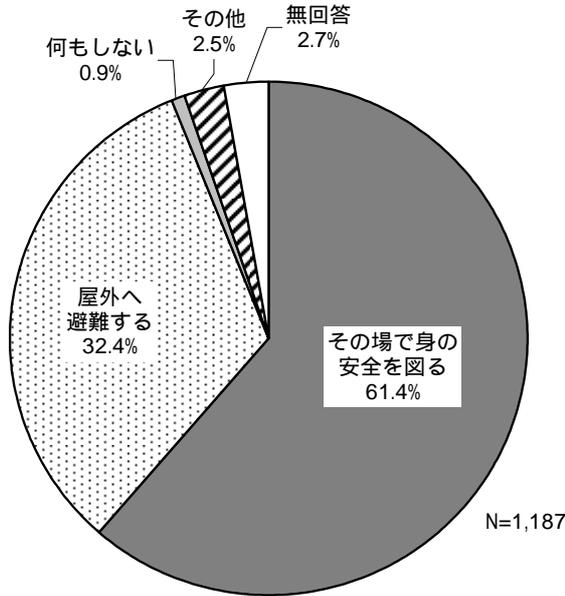
**防災準備度別**でみると、『防災準備度「高」』では100%となっており、全員がどのように行動すれば良いか考えたことがあると回答している。

**地震メカニズム別**でみると、地震メカニズムの認知度が高いほど、割合が高くなっており、最も高い『よく知っている』（83.7%）と最も低い『まったく知らない』（33.3%）では、50.4ポイントの差が見られる。

#### どのように行動すれば良いか考えたことがあるか<属性別>



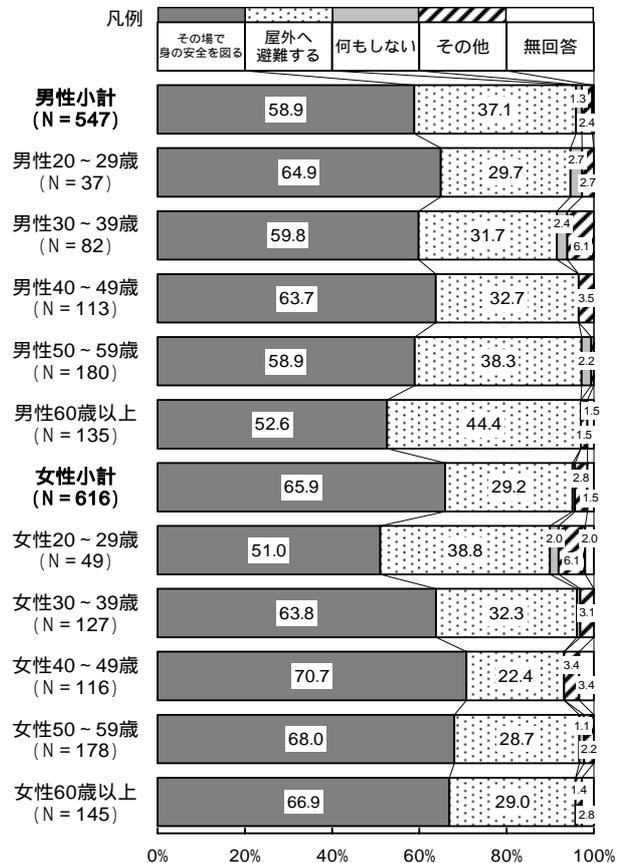
問 34 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動しますか。



緊急地震速報入手時の行動についてたずねたところ、「その場で身の安全を図る」(61.4%)が最も高く、次いで「屋外へ避難する」(32.4%)、「何もしない」(0.9%)の順となっている。

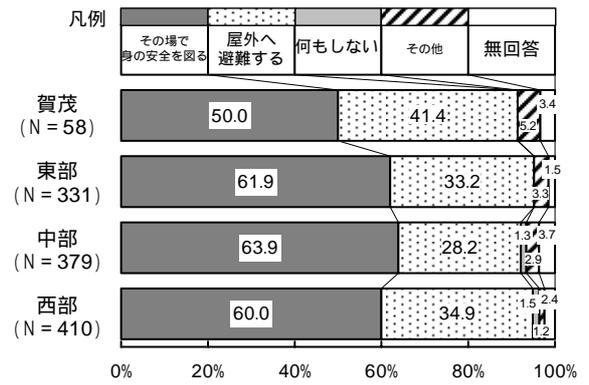
性・年代別でみると、どの性・年代においても「その場で身の安全を図る」が過半数を占めている。最も高いのは『女性 40代』(70.7%)で7割を超えており、最も低いのは『女性 20代』(51.0%)となっている。

緊急地震速報入手時の行動  
＜性・年代別＞



地域別でみると、「その場で身の安全を図る」がどの地域でも最も高い。

### 緊急地震速報入手時の行動 <地域別>





---

付. 調査票（単純集計入り）

---



# 東海地震についての県民意識調査

## ご記入にあたってのお願い

ご記入は、あなた様ご自身がなさるようお願いいたします。  
全体で20分程度かかります。記入へのご協力をお願いいたします。  
ご記入は、鉛筆又は黒のボールペンでお願いいたします。  
回答項目が用意されている質問では、当てはまる回答項目の番号を で囲んでください。  
また、「その他( )」に当てはまる場合には、ご面倒でも詳しくご記入ください。  
回答によっては、次の質問をとばしていくところがありますので、ご注意ください。  
回答は、すべてコンピューターにより集計・解析しますので、ご回答いただいた方に迷惑をかけることは決してありません。  
ご回答は、誠に恐縮ですが **6月30日(土)**までに、ご記入のうえ同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご返送ください。  
調査についてのお問い合わせは、次のところをお願いいたします。

静岡県防災局防災情報室(担当:秋元、加藤)  
静岡市葵区追手町9番6号

## 1 東海地震について

「無回答」は枠外に示しています。

<全ての方にお伺いします。>

問1 あなたは現在、東海地震にどの程度の関心を持っていますか。( は1つ)

1 非常に関心がある	43.2	2 多少関心がある	52.1
3 あまり関心はない	3.9	4 全く関心はない	0.2

0.6

<全ての方にお伺いします。>

問2 あなたは、東海地震に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。( は1つ)

1 2～3年前よりも関心を持つようになった	35.7	2 変わらない	53.6
3 2～3年前よりも関心が薄くなった	9.8	4 わからない	0.3

0.6

<全ての方にお伺いします。>

問3 あなたは、東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。（は1つ）

1 よく知っている 7.1	2 ある程度知っている 60.2
3 あまり知らない 28.1	4 まったく知らない 3.4

1.3

<問3で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問3-1 その知識はどこから入手しましたか。（はいくつでも）

1 テレビ・ラジオ 83.7	2 新聞 54.6	3 雑誌・本 18.9
4 自主防災組織 14.4	5 事業所 4.0	6 学校 6.0
7 県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等 30.7	8 県・市町の講演会 4.1	
9 県地震防災センター 9.3	10 県のホームページ 1.5	
11 その他（具体的に 1.8		）

0.8

<全ての方にお伺いします。>

問4 東海地震が起きた場合、あなたのお住まいの家は、どのような被害を受けるとお考えですか。（は1つ）

1 被害はほとんどない 7.0	2 家の一部が壊れる 43.6
3 家のほとんどが壊れる 24.7	4 わからない 23.6

1.2

<全ての方にお伺いします。>

問5 駿河湾内で東海地震が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。（は1つ）

1 5分以内 41.9	2 10分以内 30.6	3 20分以内 7.8
4 30分以内 5.5	5 1時間以内 2.3	6 わからない 10.9

1.2

<全ての方にお伺いします。>

問6 東海地震を中心とした情報を定期的に皆様へ提供する方法について、確実に情報が手に入る方法は次のどれですか。（は3つまで）

1 新聞記事 49.1	2 パンフレットの全戸配布 36.1	3 新聞の折り込みチラシ 12.8
4 インターネット 8.7	5 Eメール（パソコン）での受信 3.0	6 Eメール（携帯電話）での受信 11.0
7 県や市町の広報誌 34.5	8 テレビによる報道 73.3	9 ラジオによる報道 24.5
10 「自主防災」新聞 7.8	11 その他（具体的に 0.8	）

0.8

## 2 日ごろの防災対策について

<全ての方にお伺いします。>

問7 あなたのお宅では、非常持ち出し用を含めて家族の何日分の食料を用意していますか。( は1つ)

1	1日分	13.2	2	2日分	23.3	3	3日分	26.0	4	4日分	0.8
5	5日分	2.2	6	6日分	0.8	7	7日以上	2.5	8	用意していない	30.0

1.1

<問7で「8 用意していない」を選んだ方にお伺いします。>

問7-1 食料はどのようにして確保するつもりですか。( は1つ) ←

1	地震が起きてから準備する	6.5	2	注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	26.7
3	自主防災組織からもらう	9.0	4	市町役場からもらう	7.3
5	考えていない	32.6	6	その他(具体的に	16.0

2.0

<全ての方にお伺いします。>

問8 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。( は1つ)

1	1日分	22.7	2	2日分	22.2	3	3日分	17.9
4	4日分	2.5	5	5日以上	5.2	6	備蓄していない	28.2

1.2

<問8で「6 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします。>

問8-1 飲料水はどのようにして確保するつもりですか。( は1つ) ←

1	地震が起きてから準備する	4.8	2	注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	28.1
3	自主防災組織からもらう	9.9	4	市町役場からもらう	8.7
5	考えていない	31.0	6	その他(具体的に	16.8

0.9

<全ての方にお伺いします。>

問9 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。( は1つ)

1	大部分固定している	10.0	2	一部固定している	52.7	3	固定していない	36.5
---	-----------	------	---	----------	------	---	---------	------

0.8

<問9で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問9-1 なぜですか。( は1つ) ←

1	建物や家具を傷めるから	5.1	2	手間がかかるから	19.9
3	費用がかかるから	5.1	4	家具類を置いていない安全な部屋があるから	17.8
5	固定しなくても大丈夫だと思うから	10.4	6	固定をしても被害は出ると思うから	18.9
7	東海地震が起こると思わないから	0.9	8	借家だから	15.7
9	その他(具体的に	6.0			

0.2

<全ての方にお伺いします。>

問10 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。( は1つ)

1 点検した 14.7	2 点検していない 29.8
3 ブロック塀や門柱などはない 52.7	4 以前はあったが、危険なので取り壊した 1.6

1.3

<問10で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします。>

問10-1 点検結果はいかがでしたか。( は1つ)

1 安全 63.2	2 安全ではない 15.5	3 わからない 20.1
-----------	---------------	--------------

1.1

<問10で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

問10-2 どのような理由からですか。( は1つ)

1 点検するまでもなく危険だから 9.0	2 点検方法が分からないから 26.8
3 費用がかかるから 9.3	4 借家だから 14.1
5 手間がかかるから 5.1	6 点検しなくても大丈夫だと思うから 24.9
7 防災対策をしても被害が出ると思うから 5.9	8 東海地震が起こるとは思わないから 0.0
9 その他(具体的に 4.0	)

0.8

<全ての方にお伺いします。>

問11 次にあげるものの中で、東海地震に備えてあなたのお宅で行っているものについて、いくつでもお答えください。( はいくつでも)

1 防災についての家族の役割を決めている 2.2	2 家族との連絡方法を決めている 23.3
3 警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている 9.4	
4 警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている 32.7	
5 家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている 20.2	
6 ガスを使わないときにはガス栓を閉めている 30.1	
7 火気器具の周りを整理している 20.7	8 風呂にいつも水を入れている 26.0
9 消火器などを用意している 47.3	
10 幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている 14.0	
11 ガラス飛散防止をしている 6.4	12 ガスボンベが倒れないようにしている 20.6
13 非常持出品を用意している 50.1	
14 その他(具体的に 0.7	)
15 特に備えていない 8.5	

0.8

問11-1(5ページ)へ進んでください。

<問11で「13 非常持出品を用意している」を選んだ方にお伺いします。>

問11 - 1 非常持出品として何を用意していますか。(はいくつでも)

1 携帯ラジオ	71.9	2 懐中電灯	91.9	3 予備の乾電池	36.1
4 ヘルメット・防災頭巾	38.8	5 非常食	69.1	6 飲料水	67.9
7 ライター・マッチ	48.9	8 ティッシュペーパー・トイレトペーパー	50.9		
9 ナイフ・かんきり	30.3	10 スプーン・はし・カップ	33.6	11 下着・くつ下	31.3
12 救急薬品・常備薬	44.5	13 現金	22.9	14 タオル	50.8
15 手ぶくろ	54.8	16 筆記用具・ノート	19.3	17 雨具	21.5
18 毛布又は寝袋	21.8	19 ビニール袋	42.4	20 リュックサック	58.2
21 生理用品・おむつ	16.3	22 くつ	16.1		
23 その他(具体的に	10.8				)

0.3

### 3 住宅の耐震補強について

昭和56年以前の木造住宅は、古い耐震基準の建物で、予想される東海地震が発生した場合には、立地する地盤等にもよりますが、大きな被害が起こる可能性があるかと推測されます。このことを踏まえた上でお答えください。

<全ての方にお伺いします。>

問12 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。(はい1つ)

1 木造住宅	68.0	2 鉄骨造住宅	15.0		
3 鉄筋コンクリート造住宅	14.7	4 その他(具体的に	1.3		)

1.1

<問12で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問12 - 1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。(はい1つ)

1 昭和56年5月以前	37.4	2 昭和56年6月以降	56.0	3 わからない	4.3
-------------	------	-------------	------	---------	-----

2.2

<問12で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問12 - 2 市町では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。(はい1つ)

1 知っている	69.0	2 知らない	24.7		
---------	------	--------	------	--	--

6.3

問12 - 3 (6ページ)へ進んでください。

<問12で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3 耐震診断をしたことがありますか。(は1つ)

1 ある 12.8

2 検討中 6.8

3 ない 77.9

2.5

問13(7ページ)へ進んでください。

<問12-3で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3-1 耐震診断をしないのはなぜですか。(は1つ)

- 1 診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから 34.2
- 2 診断するまでもなく、経過年数や構造から見て、安全でないことははっきりしているから 15.6
- 3 診断方法がわからないから 7.9
- 4 手間がかかるから 5.9
- 5 費用がかかるから 7.0
- 6 診断しても大地震の被害は避けられないと思うから 16.9
- 7 東海地震が起こると思わないから 0.3
- 8 借家だから 7.2
- 9 その他(具体的に 3.3 )

1.7

回答後、問13(7ページ)へ進んでください。

<問12-3で「1 ある」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3-2 結果はいかがでしたか。(は1つ)

1 補強が必要 62.1

2 補強は不要 36.9

問13(7ページ)へ進んでください。

1.0

<問12-3-2で「1 補強が必要」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3-3 診断後、補強しましたか。(は1つ)

1 した 29.7

2 検討中 29.7

3 しない 40.6

0.0

問13(7ページ)へ進んでください。

<問12-3-3で「3 しない」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3-4 補強をしないのはなぜですか。(はいくつでも)

- 1 補強のやり方がわからないから 3.8
- 2 費用がかかるから 80.8
- 3 手間がかかるから 11.5
- 4 工事をどこに頼んだらよいかわからないから 0.0
- 5 補強しても大地震の被害は避けられないと思うから 34.6
- 6 借家だから 3.8
- 7 その他(具体的に 15.4 )

0.0

<全ての方にお伺いします。>

問13 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）”』を推進しています。この事業の内容は、専門家による無料耐震診断 耐震補強計画策定への補助 耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知でしたか。（は1つ）

1	内容までよく知っている	5.3	2	一部知っている	34.6
3	名前だけしか知らない	15.9	4	知らなかった	39.8

-----▶ 問14へ進んでください。

4.3

<問13で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

→ 問13 - 1 あなたは『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）”』をどのようにして知りましたか。（はいくつでも）

1	新聞記事	36.7	2	県や市町の広報誌	54.9	3	県や市町のパンフレット	28.1
4	役所に直接聞いた	2.3	5	自主防災新聞	11.2	6	テレビ・ラジオ	38.2
7	回覧板	16.9	8	県のホームページ	3.4	9	市町のホームページ	1.3
10	市町からのアンケート調査	2.3	11	その他（具体的に	3.8	)		

9.7

<問13で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

→ 問13 - 2 あなたは『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）”』を知って、どのような行動をされましたか。（はいくつでも）

1	簡易耐震診断を自分で行った	4.0	2	専門家の耐震診断を実施した	7.6
3	耐震補強計画を作成した	0.6	4	自宅の耐震補強工事を実施した	3.4
5	今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている	8.4	6	今の自宅を建て替えることにした	5.5
7	その他（具体的に	0.6	)		
8	自宅は木造住宅であるが、特に何もしていない	30.0			
9	自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない	16.0			
10	自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない	21.1			

8.4

<全ての方にお伺いします。>

問14 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。（はいくつでも）

1	相談窓口の設置	33.5	2	地区ごとの説明会の実施	22.3
3	専門家の派遣	27.7	4	耐震補強工事に対する助成制度の拡充	44.4
5	低金利資金による貸付	24.9	6	アパート等のオーナーに対する指導	13.6
7	なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット	27.1	8	その他（具体的に	2.2
)					

8.7

#### 4 自主防災組織・防災訓練について

<全ての方にお伺いします。>

問15 あなたのお宅は、町内会（自治会）に入っていますか。（は1つ）

1 入っている	94.0	2 入っていない	2.6
3 町内会（自治会）はない	0.6	4 わからない	1.8

1.0

<全ての方にお伺いします。>

問16 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。（は1つ）

1 入っている	70.9	2 入っていない	8.1
3 自主防災組織はない	0.5	4 わからない	19.0

1.4

<問16で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問16-1 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発ですか。（は1つ）

1 活発である	14.1	2 まあまあ活動している	56.9	3 あまり活動していない	20.4
4 活動していない	1.3	5 わからない	7.1		

0.1

<全ての方にお伺いします。>

問17 自主防災組織の活動をさらに高めるには、県や市町はどのようにすればよいと思いますか。（はいいくつでも）

1 自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする	62.5	2 自主防災組織に活動の場所や施設を提供する	21.8
3 自主防災組織の指導者に対して教育を行う	22.3	4 自主防災組織に対してもっと財政援助を行う	26.5
5 消防団・近隣事務所など、他の消防関係機関との連携を進める	33.5		
6 その他（具体的に	4.4		）

5.5

<全ての方にお伺いします。>

問18 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。（はいいくつでも）

1 総合防災訓練（9月1日）に参加した	29.8	2 地域防災訓練（12月第一日曜日）に参加した	28.1
3 その他の防災訓練に参加した	20.6	4 機会がなかった（訓練はなかった）	7.9

5 参加しなかった 30.5

1.1

<問18で「1 総合防災訓練（9月1日）に参加した」「2 地域防災訓練（12月第一日曜日）に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問18-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。（はいいくつでも）

1 自主防災組織（町内会）での訓練に参加した	71.9	2 職場や学校での訓練に参加した	35.4
3 その他（具体的に	0.1		）

3.5

問18 2（9ページ）へ進んでください。

<問18で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問18 - 2 参加しなかった理由は何ですか。( は1つ)

1 仕事や用事があったから	58.3	2 訓練実施を知らなかったから	13.0
3 面倒だったから	5.8	4 参加の必要性を感じないから	5.0
5 毎回同じ訓練内容だから	8.6	6 その他(具体的に	7.5 )

1.9

<全ての方にお伺いします。>

問19 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、東海地震が起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたはそのことをご存知ですか。( は1つ)

1 どこが避難地であるか知っている	72.0	2 避難地があることは知っている	23.0
3 知らない	4.0		

0.9

<全ての方にお伺いします。>

問20 あなたは避難地で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1~11について、あてはまる項目に をつけてください。

質 問 項 目	非常に心配	ある程度心配	あまり心配はない	全く心配していない (該当しない)	
1 食料や水の問題	48.5	37.4	11.2	0.4	2.4
2 日用品(毛布や下着など)の問題	29.0	49.8	15.9	1.2	4.1
3 自分や家族が病気になったときの医療問題	56.9	32.7	4.7	0.8	4.9
4 乳幼児、高齢者、体の不自由な者がいるので、一般の人と一緒に生活できるか心配	24.0	24.6	18.3	23.5	9.6
5 洗濯や入浴の問題	37.6	45.9	12.8	0.8	2.9
6 トイレの問題	62.3	27.3	6.9	0.9	2.6
7 応急の仮設住宅がいつ建設されるか心配	38.5	40.3	14.7	1.9	4.7
8 不安や精神的なストレスのため体調を崩してしまいそうで心配	33.3	39.8	21.7	1.7	3.6
9 プライバシーの問題	36.3	40.4	16.8	2.3	4.2
10 離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる	55.9	30.3	7.3	1.9	4.5
11 ペット(犬や小鳥など)問題	15.0	16.5	9.7	47.4	11.4
その他、心配なことがありましたら具体的にお書きください。	6.5				

## 5 東海地震が突然発生したときの行動について

以下の質問は、突然、震度6強（固定していない家具類はほとんど倒れ、足元がさわられ立っていることができない状態）以上の地震が起こった場合を想定しておたずねします。

<全ての方にお伺いします。>

問21 平日の午前11時頃に突然地震が起こった場合、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄にをつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄にをつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること (は1つ)	B欄 その次にすること (は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	35.2	47.0
2 電話で情報を確認する	0.8	3.8
3 インターネットで情報を確認する	0.3	3.0
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える	3.2	49.2
5 家の中の整理や火の始末をする	30.1	29.8
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	0.5	20.4
7 家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）	10.0	47.3
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	2.9	13.8
9 買出しに行く	0.0	1.3
10 預金を引き出しに行く	0.2	2.4
11 帰宅する	4.3	16.3
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.5	11.6
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	6.7	36.6
14 その他	0.5	1.8
15 何もしない	0.6	0.0
	1.3	2.3

<全ての方にお伺いします。>

問22 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。(は1つ)

1 参加する 44.7	2 参加しない 5.6	3 わからない 47.4
-------------	-------------	--------------

2.2

<全ての方にお伺いします。>

問23 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。(は1つ)

1 まず無事だと思う 12.0	2 軽いけがぐらいはするかもしれない 46.0
3 大けがをする危険があると思う 15.6	4 死ぬ恐れもあると思う 24.1

2.4

<全ての方にお伺いします。>

問24 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。( は1つ)

1 避難しない	23.6	2 市町が指定した避難地	52.8
3 自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所	19.0	4 親戚、知人宅	1.6
5 その他(具体的に	1.1	)	

1.9

<問24で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問24-1 避難する理由は何ですか。( は1つ)

1 自宅又はその周辺は、津波や山・がけ崩れのいずれかの危険が予想されるから	12.4
2 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	8.8
3 自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)	18.5
4 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	28.4
5 その他(具体的に	4.3

27.6

## 6 警戒宣言が発せられたときの行動について

<全ての方にお伺いします。>

問25 あなたが平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、まず最初にすることを下記の項目の中から**1つ**選び、A欄に をつけてください。また、その次にすることを**3つ**選んでB欄に をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること ( は1つ)	B欄 その次にすること ( は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	51.1	36.6
2 電話で情報を確認する	0.4	4.0
3 インターネットで情報を確認する	0.8	4.0
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える	5.6	57.9
5 家の中の整理や火の始末をする	16.7	41.4
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	1.5	32.1
7 家族と電話で連絡をとる	8.1	43.3
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	2.9	13.6
9 買出しに行く	0.3	5.3
10 預金を引き出しに行く	0.3	3.3
11 帰宅する	5.1	14.3
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.5	9.2
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	2.0	22.7
14 その他	0.2	1.2
15 何もしない	0.2	0.0

1.3

1.8

<全ての方にお伺いします。>

問26 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。( は1つ)

1 避難が必要な地域	27.0	2 避難する必要のない地域	24.4	3 わからない	45.1
------------	------	---------------	------	---------	------

3.5

<全ての方にお伺いします。>

問27 あなたやご家族は、自宅にいて警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。( は1つ)

1 市町で指定した避難地	54.6	2 指定された避難地以外の安全な場所	8.3		
3 親戚、知人宅	1.4	4 自宅にいる	32.9	5 その他(具体的に	0.6

2.2

<問27で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問27-1 避難するときの交通手段は何ですか。( は1つ)

1 徒歩	83.2	2 自転車	2.1	3 原付・バイク	0.5	4 自家用車	5.9
5 公共交通機関(電車・バス・タクシー等)	0.4	6 その他(具体的に	0.4				

7.5

<問27-1で「4 自家用車」を選んだ方にお伺いします。>

問27-1 1 なぜ自家用車で避難するのですか。( は1つ) ←

1 避難地が遠いから	22.2	2 子供や高齢者がいるから	42.2	3 早く避難できるから	8.9
4 荷物も運びたいから	17.8	5 その他(具体的に	8.9		

0.0

<問27で「1 市町で指定した避難地」を選んだ方のみにお伺いします。>

問27-2 避難地での生活はどのようになると思いますか。(屋外・屋内など)( は1つ)

1 屋外でのテント生活になると思う	6.5
2 体の丈夫な人は屋外になると思うが、お年寄りや病人は屋内にすべきだと思う	16.5
3 体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う	64.8
4 わからない	11.1

1.1

<問27で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問27-3 市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。( は1つ) ←

1 避難地が遠すぎるから	6.5	2 避難地へ行く途中の道に危険なところがあるから	5.9
3 避難地自体が安全だと思わないから	16.0	4 避難地での生活が野外のテント生活になると思うから	4.7
5 どこが避難地なのか知らないから	4.7		
6 避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから	11.9		
7 高齢者や病人がいるから	8.3	8 自主防災組織などの避難誘導體制が不十分であるから	1.8
9 避難地ではプライバシーが守れないから	6.7	10 その他(具体的に	16.4

17.0

## 7 地震に関する情報について

<全ての方にお伺いします。>

問28 東海地震に関連する情報として「東海地震観測情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知でしたか。（ は1つ）

1 情報の詳しい内容まで知っている	5.5	2 情報名は知っているが内容までは知らない	53.7
3 名前も内容も知らないが、改正があったことは知っている	6.3	4 全く知らなかった	32.2

2.4

<全ての方にお伺いします。>

問29 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。（ は1つ）

1 完全に予知できると思う	0.8	2 8割以上の確率で予知できると思う	7.6
3 5割くらいの確率で予知できると思う	22.1	4 全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う	56.9
5 予知はできないと思う	10.4		

2.3

<全ての方にお伺いします。>

問30 「警戒宣言」を発するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。このような場合に、まず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること ( は1つ)	B欄 その次にすること ( は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	60.2	25.4
2 電話で情報を確認する	0.8	3.3
3 インターネットで情報を確認する	2.1	6.6
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える	6.2	62.0
5 家の中の整理や火の始末をする	8.3	39.7
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	2.0	42.5
7 家族と電話で連絡をとる	8.1	40.9
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	2.3	10.5
9 買出しに行く	1.4	13.6
10 預金を引き出しに行く	0.6	7.8
11 帰宅する	2.7	12.5
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	1.9	7.3
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	0.6	11.1
14 その他	0.1	1.3
15 何もしない	0.3	0.1
	2.5	3.0

<全ての方にお伺いします。>

問31 「東海地震注意情報」が発表された場合、県や市町にどのような対応を望みますか。( は2つまで)

1	情報発表後に予想される社会的混乱(交通・通信・物価等)を防止してほしい	43.4
2	地震発生までの県民のとるべき行動の広報及び指導をしてほしい	37.6
3	地震が発生した後の県民のとるべき行動の広報及び指導をしてほしい	22.8
4	避難所の開設準備をすすめてほしい	20.3
5	緊急物資(食料・飲料水・医薬品等)を準備してほしい	51.5
6	消防水利や山・がけ崩れ等、地域の安全点検を実施してほしい	7.4
7	その他(具体的に	0.5

3.5

<全ての方にお伺いします。>

問32 次の1～19の項目について「はい」「いいえ」の欄に をつけてください。

質 問 項 目	はい	いいえ	
1 「自主防災」新聞を見たことがある	68.5	29.1	2.4
2 自主防災組織の研修会に参加したことがある	20.4	76.7	2.9
3 市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている	54.6	42.2	3.2
4 避難地・避難路の整備がされていることを知っている	36.5	60.3	3.2
5 防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	45.6	50.8	3.6
6 市町が津波避難ビルの指定をしていることを知っている	19.5	77.2	3.4
7 避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	54.4	42.4	3.2
8 町内の防火のための水利(いざというときに利用する水源)を知っている	37.6	59.1	3.3
9 町内の防災倉庫がある場所を知っている	70.3	27.5	2.2
10 地震防災ビデオを見たことがある	38.8	58.6	2.6
11 地震体験車(起震車)などで地震の疑似体験をしたことがある	32.3	64.7	3.0
12 地震防災に関する講演会等に参加したことがある	21.6	75.7	2.8
13 静岡県地震防災センター(静岡市葵区駒形通)に行ったことがある	14.7	82.6	2.8
14 建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	33.1	64.4	2.5
15 災害用伝言ダイヤル「171」を知っている	62.3	35.3	2.4
16 地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	75.0	22.5	2.5
17 11月が地震防災強化月間であることを知っている	26.7	70.7	2.6
18 「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	20.4	76.6	3.0
19 「命のパスポート」を知っている	12.4	84.7	2.9

## 8 緊急地震速報について

緊急地震速報とは、地震の強い揺れが来ることを、揺れる前にお知らせする情報です。  
今年9月ころから、気象庁からテレビなどを通じて提供される予定です。

<全ての方にお伺いします。>

問33 あなたは、緊急地震速報について知っていましたか。( は1つ)

1 名前も内容も知っていた	15.8	2 名前は知らなかったが内容は知っていた	11.6
3 名前は知っていたが内容は知らなかった	29.1	4 名前も内容も知らなかった	40.7

2.8

<問33で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

▶ 問33 - 1 緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることをご存知ですか。( は1つ)

1 知っている	56.3	2 知らない	30.5
---------	------	--------	------

13.2

<問33で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

▶ 問33 - 2 あなたは、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはありますか。( は1つ)

1 考えたことがある	67.1	2 考えたことがない	27.1
------------	------	------------	------

5.8

<全ての方にお伺いします。>

問34 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動しますか。( は1つ)

1 その場で身の安全を図る	61.4	2 屋外へ避難する	32.4
3 何もしない	0.9	4 その他(具体的に	2.5 )

2.7

## 9 あなたやお宅のことについて

<全ての方にお伺いします。>

F1 性別( は1つ)

1 男性	46.1	2 女性	51.9
------	------	------	------

2.0

<全ての方にお伺いします。>

F2 年齢( は1つ)

1 20~29歳	7.2	2 30~39歳	17.6	3 40~49歳	19.3	4 50~59歳	30.2	5 60歳以上	23.7
----------	-----	----------	------	----------	------	----------	------	---------	------

1.9

<全ての方にお伺いします。>

F3 職業( は1つ)

1 正社員として勤務(会社員、公務員、医療関係を含む)	36.4								
2 正社員以外として勤務(パート、フリーターを含む)	19.8	3 自営業	12.4						
4 農林漁業経営者	1.4	5 学生	1.4	6 無職	26.3	7 その他(具体的に	0.1	)	

2.2

<全ての方にお伺いします。>

F 4 あなたは、現在のところにお住みになって何年くらいになりますか。( は1つ)

1	1年未満	3.8	2	1~10年未満	28.1	3	10年以上	67.9
---	------	-----	---	---------	------	---	-------	------

0.3

<全ての方にお伺いします。>

F 5 あなたのお宅は、次のどれにあたりますか。( は1つ)

1	持家	79.5	2	借家	5.5	3	分譲マンション	2.7
4	賃貸マンション・アパート	11.6	5	その他(具体的に	0.3		)	

0.4

<全ての方にお伺いします。>

F 6 あなたのお宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。( はいくつでも)

1	火災保険	66.8	2	地震保険	27.5	3	農協の建物更生共済(建更)	24.3
4	家財等の保険	31.2	5	加入していない	7.8	6	わからない	7.5

0.9

<全ての方にお伺いします。>

F 7 あなたのお宅には次に該当する方がおられますか。( はいくつでも)

1	小学校に入学する前の子供	15.0	2	小学生	17.0	3	65歳以上の方	45.0
4	日常生活に介護を必要とする方	7.8	5	いない	34.9			

2.4

<全ての方にお伺いします。>

F 8 あなたは、近所づきあいをどのようにしていますか。( は1つ)

1	ほとんどつきあいが無い	2.9	2	挨拶をする程度	32.0
3	ときどき立ち話をする程度	40.9	4	留守を頼んだり、親しく話をする	23.9

0.3

<全ての方にお伺いします。>

F 9 あなたのお住まいの市町名に をつけてください。

下田市	1.4	東伊豆町	2.1	河津町	0.0	南伊豆町	0.0	松崎町	0.0	西伊豆町	1.3				
沼津市	5.1	熱海市	1.3	三島市	2.9	富士宮市	3.2	伊東市	2.2	富士市	5.5	御殿場市	1.6	裾野市	1.0
伊豆市	0.8	伊豆の国市	1.4	函南町	1.0	清水町	0.8	長泉町	1.1	小山町	0.0	芝川町	0.0		
静岡市	18.0	島田市	2.3	焼津市	3.0	藤枝市	4.0	牧之原市	1.4	富士川町	1.0	由比町	0.0	岡部町	0.5
大井川町	0.0	吉田町	1.7	川根町	0.0	川根本町	0.0								
浜松市	21.3	磐田市	4.3	掛川市	2.9	袋井市	2.0	湖西市	1.1	御前崎市	0.6	菊川市	1.3	森町	0.9
新居町	0.0														

0.8

質問は以上で終了です。 ご協力ありがとうございました。

**平成 19 年度 東海地震についての県民意識調査  
報 告 書**

印刷・発行 平成 19 年 8 月

発行：静岡県総務部防災局防災情報室  
静岡県葵区追手町 9 番 6 号  
T E L ( 054 ) 221 - 3366

分析：㈱サーベイリサーチセンター静岡事務所  
静岡県葵区呉服町 1 丁目 6 番 11 号  
T E L ( 054 ) 251 - 3661